

り、最後にデーヴィッドは、家を出て、龍動の貧民窟に彷徨する身の上となる。ディケンズが人の腸を抉る所の悲劇的力量は、遺憾なくこの間に發揮せられたるが、引きつゞきて悲哀の空氣のみ充てるにはあらず。例へば降り續く五月雨の晴れ間、ひそかに月光のぞき出るが如く、可笑しき事、嬉れしき事、愉快なる事等、間断なくこの間に錯綜して、讀者をして、泣き乍ら笑ひ、笑ひ乍ら泣かしむ。此手腕はディケンズの獨擅にして、『クリスマス・カロール』、『ドム・ビエ父子』其他に於ても皆認め得べけれど、此篇に至りて殊に其妙を極めたり。デーヴィッドが龍動を逃亡して、一風變りたる叔母の許に赴くに及び舞臺は又一變す。デーヴィッドが、之より窮境を脱して相當の教育を受くること、卒業の後狀師となり、新聞探訪となり、やがて知名の文士となること、ドーラと呼べる最初の妻に死なれ、最後にアグネスと呼ぶ少女に結婚すること——是等は到底爰に語る能はず、又語るの要もなからむ。又物語の本流の外には、

(1)Dora.
(2)Agnes.

(1)Emily.
(2)Micawber.
(3)Trotwood.
(4)Barkis.
(5)Tale of Two Cities.

(6)American Notes.
(7)Pictures from Italy.

その活動

例によりて幾多の支流ありて變化と興味を添ふ。中にもエミリーと其家族、ミコーバー一家、叔母のトロットウッド、御者のパーキス等に關する物語はそれ／＼特有の面白味ありて、一讀せるもの、長く忘るゝ能はざる所なるが、是等の挿話が、少しも全體の調和を破らず、相合し、相離れて悠々追らず、次第に主要なる筋の發展し行くは、蓋し最も學び難き點にして、圓熟の作とは、蓋し是等を指してふなるべし。

『コッパフィールド』以後の作にては、一八五九年に出でたる『二都譚』最も推重せらる。佛蘭西革命時代の物語にして、ディケンズの性行、龍動、巴理の二都を舞臺とし、この作者が試みたる第二の歴史小説也。尙ほその外にも未完の作を併せて頗る多く、又『亞米利加日記』『伊太利日記』等小説以外の作も少なからず。然れども、ディケンズの傑作と稱せらるゝものは、上に擧げたる諸作にて略ぼ盡きたり。ディケンズは元來熱誠の人にして、一時も安閑と

(1) Household Words.
(2) All the Year Round.
(3) Collins.
(4) Gaskell.

の自
朗讀
小説

して静止する能はず、文士として比類なき迄活動せり。或は素人芝居の一座を組織して諸方を打つてまはり、或は新聞の主筆となれる事もあり。毎日長程の散歩を試むること終生かはらず。大旅行にては、二度米國に赴き、大陸には幾回も往復し、殊に伊太利には久しく滞在せり。一八五〇年には雑誌「ハウスホルドワーズ」を發刊し、其廢刊さるゝや『オールゼイアラウンド』を出し、自作の外に「コリンズ、ギaskell女史等の諸家を世に紹介せり。されど取りわけ世間の視聽を引ききたる事業は小説朗讀の興行なりき。ディケンズは音聲甚だ清朗、又芝居的動作に巧妙を極めたれば、早くより自作の小説を公衆の前に讀み、一と稼ぎせんとの野心ありしが、終に一八五三年に至りて之を決行したり。其結果甚だ良好なりしより、渠は其死に先立つまで、龍動をはじめ、諸方に於て之を興行せる事、我邦の講談師などの如く、殊に第二次の米國漫遊にては、一萬九千磅の巨額を獲得したりきとぞ。従つて金錢上より見れば、非常の成

(1) William Makepeace Thackeray.
(2) Weimar.

サッカ
リイ
の初
めは
工
た
ら
ん
と
す

效なりしも、その苦心も亦多大にして、隙をつぶし、勢力を費し、執筆の上には少なからぬ累を及ぼせり。體格は元來強健なりしも、晩年には頗る衰弱し、終に一八七〇年卒倒して死せり。

ウイリアム・メークピース・サッカリイの性行閱歷は頗るディケンズと趣を異にせり。渠はディケンズには一歳の兄にして、

一八一一年を以て印度のカルカッタに生れぬ。これ渠の父が東印度會社に奉職して、該地に居住したれば也。その五歳の時父を亡ふや、間もなく英國に歸り、一八二九年よりは劍橋のトリニティ大學に入學しぬ。されど翌年學位を受くることなくして退學し、間もなく大陸に旅行し、ワイマールに住めるゲーテ、シラー等を歴訪したり。當時のサッカリイは未製品にして、勿論文學的好尚を有したれど、それよりも更に畫工たらんと志望を有しぬ。渠は一種の畫才あり、若し専心之に従事したりせば、少くとも挿繪畫工として成効せしならんとは、何人も疑はざる所、後年其自作の小説の挿

(1) Fraser's Magazine.
(2) Titmarsh.

「ヒクウィッ
ク」の挿
工を志願
す

繪を自らものせるを見て之を徴すべし。一八三二年には丁年に達せる事とて父の遺産を相續せり。一年凡そ五百磅の收入ある、可なり
の財産なりしも、不注意と不幸との爲めに幾もなくして之を失ひ、
之より雑誌に寄稿して以て生計を立つるに至れり。第一に關係した
るは「フレイザー誌」にして、重にティトマーシなる雅號を用ひ、
物語、批評、記事、詩歌等手當り次第に筆を呵せり。ディケンズと
は異なりて正當の教育を受けたるが上に、上下内外の事情にも通曉
し、殊に其才鋒の犀利なるは萬人に優れし事とて、其筆は早くも具
眼の士より着目せられ、フイールドイニング、ゴールドスミスを以て
擬せられしが、一般人士よりは殆んど其名を知らるゝに至らず、彼
自身も亦尙ほ煩悶疑惑の渦中に在りき。一八三六年「ビクウィッ
ク」の挿繪工を募集するに當り、渠が之に應じて、ディケンズの爲め
に拒絶されしは、後年サッカリ自身の物語る所にして、當時、家
の地位が如何に懸隔せるかを察すべき也。全年渠は妻を迎へ、之よ

(1) Vanity Fair.
(2) Paris Sketch Book.
(3) Irish Sketch Book.
(4) From Cornhill to Grand Cairo.
(5) Barry Lyndon.

り更に全力を盡して諸雑誌に寄稿せしも、幸運は未だその身に降ら
ず、一八四〇年第三女の生れし頃より、妻は喪心の状態に陥り、終
にその家族は一時別居分散するの厄境に陥りぬ。サッカリがかか
る不幸に際して毫も屈撓する色なく、又厭世觀をも起さずして、筆
硯益々鋭を加ふるに至りしは、大に其頭腦の堅實なるを見るべし。
かくて一八四七年を以て其大作「ヴァニティフェア」を出す頃ま
てに、渠が諸雑誌に寄稿したるものは、其分量に於ても、又其種類
に於ても實に驚くべく、積んで山をなす。その中最も重要なものを
挙ぐれば、先づ觀光記としては「巴黎スケッチブック」
「愛蘭スケッチブック」
「コーンヒルよりカイロ迄」等
なり。何れも見るとし。小説にては「バリーリンドン」特に短篇
中にて傑出す。愛蘭の山師的惡漢の自傳體にもものせる小説にして、
時代を佛蘭西革命以前の十八世紀に置き、當時の歐洲の社會を描き
て諷刺を逞うせり。後年歴史小説家として無類の手腕を示したる此

(6) Bonillabaisse.
(7) Age of Wisdom.

(1) Book of Snobs.
(2) Novels by Eminent Hands.
(3) Rebecca and Rowena.
(4) Ivanhoe.
(5) Sorrows of Werther.

作者の鋒銛は既に此時にあらはれたり。又この作者の最も得意なる皮肉的文字は、その種類甚だ多きが中に、「成りあがり者」、「名家の小説」等名あり。前者は社會の成り上り者の卑屈野鄙なる根性をさらけ出し、後者はリットン、ディズレーリイ、クーパー、リーヴァー等當時知名の小説家の筆致を摸擬して、其缺點を指摘するにつとめたり。言々句句皆骨を刺す。「リベッカとローイーナ」又同一筆法を用ひ、スコットの「アイヴンホー」を翻弄したり。詩歌はその本領にはあらねど、滑稽諷刺を逞くして、一種の通俗的趣味を發揮せるもの少なからず。「ウェルテルのなげき」、「ビリーリッパースの歌」、「智慧の時代」等は少くも人の記憶に残るべきものなり。文學、美術の批評にかけても決して平凡にはあらざりき。要するに其種類は千差萬別、後年のサッカリーの大手腕は到所露出せりといへども、たゞ惜むらくは其勢力の聚中なく眞に大作といふべきものを見ず。爲めに平凡なる世人は、多くは輕々に看過し去れり。彼が初めて全力

作第一の大傑

(1) Edgeworth, Maria.
(2) Austen, Jane.
(3) Marryat.
(4) Lever.

を傾注せる大作は「ヴァニティフェア」にして、其第一輯は實に一八四七年に出でたり。爰に至りてサッカリーの位地は初めて確立して、英國小説家の首班に列せらるゝに至れり。
「ヴァニティフェア」は、作者自身が主人公なき小説と名告り出でたる程ありて、其大目的は、非凡人的人間を描くを「ヴァニティ」目的とせずして、廣く一般社會を寫すを目的とし、人生に免れざる不徳、卑屈、醜惡なる個所をも、風教に害なき限りは、赤裸々に讀者の面眼に露出せしめて顧慮せざりき。この筆法は十九世紀初期の他の小説家とは大に異なる點也。ローマンティックなるスコットが専ら過去の英雄を播きて現社會に眼をねぶれるは更にも言はず、エッヂワースは勸懲を主とし、オーステンは姑息的社會を想像し、マリアット、リーヴァーの輩は海陸軍の可笑的、冒險的方面にのみ眼光を限り、ディケンズといへども、その觀察の範圍専ら社會の下層に限られ、又訓戒的傾向を有して、やゝもすれば、人心

サツカリイ
は赤裸々の
人生を描か
んとす

サツカリイ
は十九世紀
のフィイン
グ也

の裡面に向つて鋭利なる批評を下すを避けたり。之を要するに、是等の作者の大眼目とする所は、讀者の同情を篇中主要なる人物に集むるに在り。中に悪漢を描くも、そは重もに此目的を達するの手段たるに過ぎざるが多かり。サツカリイに在りては全く然らず。渠はかゝる同情を虚偽とし、不必要とせり。渠の眼裡には、人間の慾望の下劣なる事、人生の出来事の不公平なる事等、歴々として映ぜり。従つて他の小説家の描ける所は、渠の眼より見れば、甚だしく虚偽と思はれ、淺薄と考へられたり。先きに當時の小説家を捕へて「パンチ」「フレージャー」等の誌上に齷齪せるは、之が爲めにして、今や「ヴァニテ、ハ、モ、ア」を草するに當りても、全然此見地に立ちて筆を執れり。渠は飽まで有りの儘に社會を活寫せんとし、神の權化の如き圓滿の人間を以て讀者に見ゆるを避けたり。即ちサツカリイの態度はリチャードソン、の作を罵れるフィールディングの態度と略ぼ似たり。げに渠は十九世紀のフィールディングと言ふも不可なく。共に

①Becky Sharp.
②Amelin.

英國小説壇に新紀元を劃し、而して其作風も大に相似たり。

「ヴァニテ、ハ、モ、ア」に連る所の物語の筋は、大體に於て二條に分れたり。一方はベッキィ・シャープと呼べる悪才女の經歷にして、他は溫良高潔なるアミリアの經歷是也。兩者の間には甚だしく密接なる連鎖はなく、讀者は其何れに向つて感興を注ぐも妨げなし。然れども作者は、寧ろ力を惡徳の諷刺摘撥に費したる傾向あるが故に、大體に於てベッキィ・シャープなる婦人に向つて感興の七八分を奪はるべし。彼女は「徳なき才女」の典型と稱らるゝが如く、學校を飛び出してアミリアの家に寄寓せる頃より、才に任せて愛情を釣り、權力を釣り、又金錢を釣り、諸種の冒險、諸種の浮氣の數々を盡し、一歩／＼に其本色を發揮し、墮落の淵に向つて進めり。而して作者は寸毫の假借なく其面皮を剝離せり。之に對せるアミリアは「智なき徳性」にして、全身に毒氣といふものは爪の垢ほどもなく、己れの愛着せる良人の心が、ベッキィに移れるをも知らず馬

(1)Rawdon.
(2)George.
(3)Dobbin.

巧妙なる性
格の描寫

體
巧妙なる文

鹿を見せらるゝなど、讀者は殆んどその齒癢さに堪へざるべし。他の作家をしてかゝる境遇の女子を描かしめんか、畏らくは多大の同情を之に集注し、之をして才色無双の天女たらしめずんば止まざるべし。然るにサッカリイは、アミーリアをして、愛すべけれど、而かも大に敬すべからざる通常平凡の一少女たらしめたり。ベッキイに配したるロウドン、アミーリアに配したるジョージ及びドゥピン、等をはじめ、篇中に出て来る人物は何れも皆明白なる特色を具へたる人物にして、一讀の後容易に眼底を去らず。さながらに知人朋友の面影の容易に記憶を脱せざる趣あり。此性格の描寫はサッカリイの最大長所にして、フィールディングと相並びて、英國小説壇上無双の名手と稱せらる。今一の非凡なるは其文體也。こは「ヴァニティ・フェア」以前の諸作にもあらはれたる長所なるが、爰に至りて益々圓熟の域に入れり。生氣躍如として何所までも氣がさし、語滑かに句緊りて一點の過不及を見ず。而して何所にも厭ふべき癖性なく

その批評的
態度

(1)Pendennis.

サッカリイ
の小説中最
も自傳的な
もの

又自由自在にして、滔々たる長廣告に、輕妙なる洒落に、辛辣なる皮肉に、將た痛切なる悲哀に、之くとして可ならざるはなきの概あり。然れども大體に於ては穩かなる談話體にして、例へば讀者を眼前に連れ來りて、腹心を披きて所思を物語るが如き態度をとりたり。かゝる批評的態度はフィールディングも好んで試みたる所なるが、サッカリイは更に之に一步を進めたり。渠は物語の筋を進むる傍、間斷なく讀者を顧みつゝ、篇中の人物を紹介し、品評し、又揶揄して止みぬ。こは蓋し一般の小説家が使用すべき常道にはあらざるべけれど、その縦横の機智と、銳利なる判断力とは、是等の批評をして物語の興味以外に、一種有力なる武器たらしめたり。
「ヴァニティ・フェア」につぎて出でたる大作を「ペンデニス」となす。こはサッカリイの小説中最も自傳的性質を帯びたるものにして、デイケンズの「デイヴ、イッド、コッパ、フィールド」に對すべし。作者嘗て人に告げて曰く「ペン」は心の眞直な

(1) Tom Jones.
(2) Laura.

る好人物也。余は大に渠を好む。但し此人物が余の心をひくは、或は余と類似の個所を有すること多きによるが爲めなるやも知れず。公衆をして渠を好ましめ得るや否やを知らず」と。篇中にあらばれたるベンは一種の見え坊にして、幾多の弱點に富めども、げに作者の言へるが如く好人物には相違なく、フイル、ル、デ、イン、グ、の、ト、ム、ジ、ン、ズ、を、聯、想、せ、し、む。十六歳の時、三十に手の届きさうなる女優に溺れて散々その鬪弄する所となり、それより家を出て、大學に入りしが、借金を作りて家に舞ひ戻り、それより法律を學びしも成らず、最後に文學に身を委ねて初めて成效するに至り、上流社會に出入す。この變化に富みたる經歷は作者をして、諸種の社會と、之に出入する諸種の人物を描くの機會を得せしめ、諷刺的筆法例によりて鋭きと針の如し。篇中の人物の生氣にとみたるもの甚だ多きが中に、女性にてはラ、ラ、最も人の心をひく。元來サ、カ、リ、イ、は善良なる女性の描寫に少しく冷酷なる傾向あり。「ヴァ、ニ、テ、イ、ア」中なるア

新機軸を出
小説たる歴史

(1) Esmond.

作者自から
十八世紀の
人物と歴史
を描ける

ミ、リ、ア、又は本篇の中なるペンデニスの母の如き是也。ラ、ラ、は其例外といふべく、愛すべく又敬すべし。男性の中殊に目立ちて傑出せるは俗才子の權化といふべき少佐ベンデニスにして、一讀せるものは何人も之を忘却する能はず。之に續きて一八五二年に出でたる傑作を「エ、ス、モ、ン、ド」となす。「エ、ス、モ、ン、ド」に置き、陸軍大佐ヘンリ、エ、ス、モ、ン、ドなるもの、自傳體にもものせり。此篇に於てサ、カ、リ、イ、は歴史小説家として、スコット以外に、新機軸を出せり。篇中の人物は、思想も言語も、將た行爲も皆初期の十八世紀的にして、さながらに當時を現出し、而して在來の歴史小説に通有なる非凡人的傾向を有することなく、極めて自然の行爲をなす。一言以て之を蔽へば、作者は十九世紀に地歩を占めて、十八世紀をのぞきたるに、あらずして、全然十八世紀の人物となり了して、其四周に見る所の社會を描きたる也。かゝる曲藝は他の

十八世紀と
サッカリイ
の契合

(1) Deserted Village.

作者の容易に學び難き所にして、サッカリイの才藻と、サッカリイの性情とを有して後初めて企及し得べし。蓋しサッカリイは、十九世紀文壇には珍らしく最もクラシカルなる作者也。渠が同情の赴く所は、十八世紀前半の作者にして、頗るアディスン、ステイール、スウィフト、スターリン、ゴールドスミス等と契合する所あり。渠が始終念頭に於けるは法度也、規格也。絢爛よりは典雅をつとめ、流麗よりは簡淨を尙び、想像よりは判断を重じ、情熱よりは常識を喜び。恣に鋒鏗を露して瑕疵を作らんよりは強いて壓抑を加へて圓滿ならんを期せり。又其描く物の對象は重に上流社會にして、自然の美、田園の趣味等にかけては概して冷淡なりき。渠が平生ゴールドスミスの『寒村行』を愛讀して、十九世紀のローマンティック派の詩歌を顧みざりしの一事を見ても、以て其性情の向ふ所を知るべき也。之を要するに渠は十九世紀の擬古派也。故に十九世紀にあり乍ら、アン時代を描きて異常の成效を收むるを得たりしのみ。其結構

は、他の諸作に比して遙かに統一を保ちぬ。蓋し他の諸作が一部分づゝ脱稿に従ひて出版せるに反し、この書は全部完成の後出版したるにも由るべし。諷刺的分子は此作者として免れ難きも、其傾向は『ヴァニティフェア』其他に比して遙かに少なく、眞率高潔の至情楚々人を動かす所多し。

之に續きて出でたる作は『ニューカムス』にして、一八五五年に完成せり。これ又前に擧げたる諸作と同じく貴重なる

『ニューカムス』作の一也。此篇に於ては、作者は再び材を現代にとり、其虚偽、不正、愚昧をあばき、痛烈なる鞭撻を加へたり。例によりて中央を流るゝ所の主要なる物語はなけれど、強いて之を求むれば、クライブ・ニューカムと其従妹エセルの愛とを以て主脈とすべし。最後に二人は結婚するに至れど、それ迄には種々雑多の境遇を通過す。最も人の心を動かす人物は、ニューカム大佐にして、渠は英國紳士の好典型といふべく、其親切、その素樸、其高德、其やゝ舊弊なる

(1) Newcomes.
(2) Clive Newcome.
(3) Ethel.

禮節等、頗るサー・ローチャの面影をとらめ、後終に他の奸計にのせられて、失敗し、破産し、養育院にて死するまで、眞率の氣讀者に迫るものあり。

サッカリーの本領は、以上列擧したる四篇の小説に於て窺ふべく、他の諸作

各々特長ありて、其一をとりて第一の傑作とは稱し難し。やゝ下れるものには『ヴァーヂニアーズ』あり。こは『エスモンド』の續篇といふべく、エスモンドの二人の孫の記録也。篇中ワシントン、ジョンソン博士、ブイルディング、リチャルドスン等史上知名の人物を描き、巧みにその時代の風俗を寫し出て、局所の妙味には富みたれど、たゞ結構甚だ散漫にして、前後兩部の連鎖薄弱を極め、讀者をして同情の向ふ所に迷はしむ。他にも數篇の作あれど、皆多く取るに足らず。サッカリーの小説に就きては爰に筆を擱き、小説執筆の中間に於て作られたる別種類の二作につきて一言せんとす。一は『イングリッシュ・メモリス』他は『フ

- (1) Sir Roger.
- (2) Virginians.
- (3) G. Washington.
- (4) English Humorist.
- (5) Four Georges.

『ユーモリス』

- (1) Swift.
- (2) Congreve.
- (3) Prior.
- (4) Gay.
- (5) Hogarth.

『フォーアッシュ』

『ユーモリス』是也。二書共に渠の講演にかゝれり。『イングリッシュ・ユーモリス』は一八五一年龍動にて講演せるもの、十八世紀の文士を捕へ、其性行、著書等に向つて、機警滑脱を極めたる論評を加へたり。即ちスウィフト、コングリヴ、アディソン、ステイル、フライオル、ゲー、ポーブ、ホーガアリス、スモレット、フイールド、スタイン、及びゴールドスミス十二家の論評也。十九世紀第一のユーモリストなるサッカリーが、十八世紀の同僚を評す。天下豈に之より適當なる役割あらんや。其評言の眼識に富み、同情に富み、癢い所に手の届くも怪むに足らざる也。是等十二人の人物の面目は紙上に生動飛躍す。彼等を知らんと欲せば最も適當の指導者を此小冊子に見出すべき也。『フォーアッシュ』は一八五五年米國漫遊中に講演せる所、ジョージ一世、二世、三世、四世の四英王を評論し、是等諸王の内裏に充溢せる粗野、不徳、慘酷の暗黒面を指摘して剩すなく、たゞジョージ三世のみは、他の諸王にまされる

講演者としてのサッカ

丈ありて、寛大の處置を受け、王が老いて發狂して崩するあたり、情あり致ありて、無類の好文字を成せり。サッカリイは講演者としては、飾らず、氣取らず、最も明晰に、最も自然に、自家の名文を讀者に紹介するを以て満足せり。其材料の異なるにもよるべけれど、全然芝居めきたるディケンズの講演法とは其類を異にせりとは、兩者の講演に列せし人の記する所也。又ディケンズが講演に際して平然たりしに反し、サッカリイは講演にのぞむ前は、戦々競々心臓は波を打ちたりとぞ。講演より獲得せる収入は頗る巨額にのぼりしかど、到底ディケンズには及ばざりき。

『ヴェニティフェア』を出してよりサッカリイの社會的地位は頗る高く、常に上流社會に出入し居たり。元來渠の身分は、ディケンズとは異なりて、初めより頗る高く、一時失敗の爲めに窮乏の味を嘗めたれど、其趣味、思想等は依然として貴族的なりき。加之渠は上流社會の描寫を以て任とせる作者なれば、必要上よりもこの傾向

©Cornhill Magazine.

平民的と貴族的

愛嬌と威嚴

感情的なるディケンズ

を生じたるなるべし。執筆以外の事業には、上にのべたる講演の外、一八五七年國會議員の候補者として打つて出て、失敗したる事、一八六〇年より六二年迄、『コロンヒルマガゼイン』の主筆たりし事等あるのみ。一八六三年十二月二十四日急に病みて卒せり。

最後に余は、時を同うして東西相對峙せるこの二大小説家の特質を比較して、此章を終らんとす。人品の上より言へば、ディケンズは他まで平民的にして簡易快潤を主とし、サッカリイは貴族的にして儀禮にならひ、人に對して

城府を設く。前者は小作りの好男子、座談に長じ、愛嬌に富み、後者は六尺有餘の巨大漢、眼光炯々として人を射る。ディケンズは感情の人也。氣の向きたるものは極力賛歎し、氣に食はぬものは思ひ切つて排斥し、常に其兩極端に走るを免れず。米國漫遊の際同國人の歡迎度に過ぎて忙殺されし結果、腹を立て、とがもなき米國人をば『阿米利加日記』に罵殺せるが如き、又其永年連添ひたる妻が

大才人なる
サッカー朝

二家作風の
差

きり／＼と
絞れる強弩

氣に食はぬことありとて、之と永久に別居したるが如き、其痼癥のいかに強きかを思はしむ。然れども心の底に於ては愛すべく、親むべき人物なりき。サッカー朝も亦温情を有せる人なれど、何れかといへば智力の勝てる人也。大才人也。平生上流社會に出入し乍ら、其中に混りて馬鹿を盡す能はず、袖の蔭にて其弱點を見つゝ冷笑せるは之が爲め也。渠は眞面目に俗流に混るには餘りに智者なりき。人物既にこの差異あり。其作品の上にも亦差異なきを得ず。デイケンズの作は彩華絢爛人目を眩し、溢るはばかりの娛樂と慰藉とを與ふ。サッカー朝の作は銳利雅醇一點の間隙なく、最も深き顧慮と教誨の材を供す。前者は常に全力を擧げて猛進す。従つて其事件も人物も多く極端に走り、非常に可笑しからずんば、非常に悲しく、非常に善美ならずんば非常に醜惡、決して中間に留まる事なし。例へばキリ／＼と引き絞らる強弩の如し。切つて放てば千里の外に飛ぶ。後者は冷然として自己の地步を占め、語れば必らず理路を辿り、

明吏
獄を斷ずる

(1)Charlotte Brontë.

描けば常に眞實を期し、銳利なる眼を八方に配りて、之にかゝれる凡てを判斷し、批評し、翻弄して止む。明吏の獄を斷ずるに似て更に辛酷也。斯くの如くにして二家各々長短あるを免れず。前者は極端なるが故に、その描寫は充分に社會の眞相を捕捉し得たりとはいひ難く、いかなる事件も渠の手にかゝれば多少畸形を呈し、その觀察に不公平の弊あり。然れども其作の人を動かす力も亦この點に存す。その滑稽、その悲哀、その千百の珍談、妙構は皆源泉を爰に發す。後者は錐の如く銳利なる洞察力を有するが故に、社會の眞相を摘發し、生氣ある人物を創出したる手腕は古今に匹儔稀れなれど、何となく薄氣味わるく、讀者を引着する魔力は終にデイケンズに及ぶ能はず。シャーロット・ブロンテ女史嘗てサッカー朝に面會せる後、當時の感想をのべて曰く「サッカー朝以外の人の面前にては、少しも畏縮したることなかりしに、此人の面前にては、己は全く愚物の如くなりぬ」と。余はサッカー朝の作に對し亦かく言はん」とす。

(研究書目)

(一)マイクナムの人の小説は到る所に出版せられ、版本の多き他に無類なり。其中真好なるもの二三を挙ぐ。

Works of Charles Dickens, 15 vols., Uniform Edition (Altemilla).

註しつて置く (1) *American Notes, and Pictures from Italy*, (2) *Barnaby Rudge*, (3) *Blank House*, (4) *Christmas Books*, (5) *David Copperfield*, (6) *Domby and Son*, (7) *Letters of Charles Dickens*, (8) *Little Dorrit*, (9) *Nicholas Nickleby*, (10) *Martin Chuzzlewit*, (11) *Old Curiosity Shop*, (12) *Oliver Twist*, (13) *Peckwick Papers*, (14) *Sketches by Boz*, (15) *Tales of Two Cities*. 所々に原書を挿入し、マイクナムの子息のものせる序文を附しありて、遺憾なし。又 Chapman 会社はマイクナムが第一に關係したる書籍として、あつた。マイクナムの作は、後に出版せられ、其種類甚だ多し。即ち *Gads Hill Edition*, 34 vols. の家藏せるを初るとし、*Authentic Edition*, 17 vols.; *Shilling Edition*, 21 vols. 等あり。『マイクナムカコレ』二部譯書は我邦にも翻刻あり。詳細にしては、

Life of Charles Dickens, by John Forster (Chapman). 筆者はマイクナムの親友なれば、甚だ貴重也。

Dickens, by F. Marzials, E. M. L. Series (Mae). 甚だ可也。

Dickens, by A. W. Ward, G. W. Series (Scott). 著者の價值充分也。

マイクナムの著には、

The Dickens Dictionaries, by G. A. Pierce (Chapman).

(11) サッカリーの小説の出版も亦甚だ多し。

Works of Thackeray, Cheaper Illustrated Edition, 26 vols. (Smith). 註しつて置く (1—2) *Vanity Fair*, (3—4) *Pendennis*, (5—6) *The Newcomes*, (7) *Esmond*, (8—9) *The Virginians*, (10—11) *Adventures of Philip*, (12) *Great Hogarty Diamond*; *Cornhill to Cairo*; &c. (13) *Christmas Books*; &c. (14) *Book of Snobs*, (15) *Barrasques*, (16) *Paris Sketch Book*, (17) *Yellowplush Papers*, &c. (18) *Irish Sketch Book*, (19) *Barry Lyndon*, &c. (20) *Catherine, a Story*; &c. (21) *Balrinds*, (22) *Roundabout Papers*, (23) *Four Georges*, (24) (25) (26) *Miscellaneous*. 右の外同会社にて出版せるは、既述なる *Standard Edition*, 25 vols. を初るとし、*Library Edition*, 24 vols.; *Biographical Edition*, 13 vols.; *Popular Edition*, 13 vols.; *Pocket Edition*, 27 vols. 等あり。

其他各地の出版は一々挙ぐの要なかるべし。又『メモモンド』『ノーモリ』『モック』等は我邦にも翻刻あり。詳細には大に可なるものなし。これサッカリーが傳記を書かれんを嫌ふるが爲め也。

Thackeray, by A. Trollope, E. M. L. Series (Mae). 平凡也。

Thackeray, by F. T. Marzials, G. W. Series (Scott). 二人の著になりたれば體裁わる。但し其中の逸話はとるべし。

①Charlotte Brontë.
②Haworth.

プロンテは
純然たる田
舎者也

(七)小説界の三閨秀

Thackeray, a Study, by A. Juck (Ame).

プロンテ——其經歷——その作風——ギアスケル——その傑作——エリオット——その奇妙なる四圍——前期の作風——後期の作風——(研究書目)

ヴィクトリア朝の小説界にて異彩を放てる三人の女性あり、何れも小説家として非凡の才能を有し、當代の髭髯漢を顔色なからしめたり。三人の女性とは他なし、プロンテ、ギアスケル、エリオット是也。彼等は實に英國が生みたる第一流の女作家にして、先きのオーステン女史と併せて小説壇の花といふべし。余は他の二流作家を説くに先立ち、先づ此三女史を説かんとす。

シャーロット・プロンテは純然たる田舎者にして、一般の社會の事情には全く通せず、小説家として甚だ類例なき境遇に生れたる女子なりき。プロンテの父は牧師を職とし、ヨークシャーの邊陲に住み、殊にハウォースの僧院に最も長く足を

①Jane Eyre.
②Ros Head.

とゞめたり。家は一面墓場に臨み、背後に沼澤を控へて寂びしき事限りなく、村民の如きも皆蠻氣を帯びて、共に語り共に遊ぶべきものはものにはあらざりき。プロンテの同胞はすべてにて六人あり、其幼時に母を失ひ、父は奇癖ある人にして小兒の監督などに頓着する人ならねば、彼等はこの粗野なる四周の感化の中にありて、自然の發達をなしたるが、元來皆文學的趣味を解せる同胞の事とて、外圍の事物の單調無味なるが爲めに、益々娛樂を文學に求むるの傾向を生じぬ。此田舎育ちの子女に取りて大事件たりしは、一八二四年四人の姉妹相前後して、ハウォース近傍なる一女學校に入學したる事にして、此時初めて彼等は浮世の人の仲間入りをなしぬ。女學校にての經驗は、女史の傑作『ジェーン・エーア』中に巧に描き出されたり。されど彼等は元來羸弱なる體質なりしかば、其中の二人は翌年を以て引き續きて夭折せり。其後數年にして、シャーロットは、ローヘッドの女學校に學び、一八三五年よりは同學校の教員に擧げ

(1) Brussels.
(2) Professor.
(3) Emily.
(4) Wuthering Heights.
(5) Anne.

(6) Agnes Gray.

られしが、健康兎角すぐれざるを以て職を辭してハウォースに歸れり。之より嫁姆たること二回なりしも、其性情に適せざるを見て之を止め、更に學校設立の計畫を立て、其準備として、佛語研究の爲めに、一八四二年を以てブラッセルズに赴き、三ヶ年の間同地に滞在せり。この新経験は、女史の鋭利なる頭腦に多大の印象を與へ、後年小説執筆の時に利用されたり。歸來女史は其姉妹と共に創作に従事し、一八四六年終に自費を抛ち、匿名にて一詩集を出版せり。多少評論家の口には上りしも、一般の世間は毫も顧るものなかりき。されど彼等は少しも屈せず、更に小説の創作を試みぬ。即ちシャーロットは『プロフェッソル』、エミリアは『ウザリングハイツ』、アグネスは『アグネス・グレイ』を作れり。是等の中最も傑出せるは、エミリアの『ウザリングハイツ』にして、悽慘崇大、詩的熱情の非凡なるを示せり。他の二作は寧ろ凡作なりき。就中シャーロットの『プロフェッソル』は書肆より其出版を拒絶されぬ。この失敗にシャー

第一の傑作『シャーロットの出版』

『シャーロットの出版』

(1) Jane Eyre.
(2) Shirley.
(3) Villette.
(4) Nicholls, A. Bell.

ロットは大に憤激し、全力を擧げて直にかの有名なる『デーン・エリア』を草し、かくて其翌年匿名にて出版するや、毀譽褒貶まぢぢちなりしが、兎に角其尋常一様の作家にあらざるを認められぬ。かゝる中にも女史の一家には不幸打續き、その一弟と、前途多望なる二妹と相亞ぎて皆死歿しぬ。第二の傑作『シャーロット』は實にこの不幸の裡に作られ、一八四九年を以て出版せられたり。シャーロット・ブロンテの實名が世間に發表されしは此年にして、女史は初めて龍動に出て、當時知名の文學者と接し、サッカリイとも會合を遂げぬ。されど社會に出て、世間に持て囃されんには、女史は餘りに田舎者に過ぎたりき。かくて間もなく再び寂漠たるハウォースの僧院に遁れかへり、其羸弱なる身體の許すかぎり、ゆるやかに筆を走らせ、一八五三年を以て其最後の作『ヴィレット』を出しぬ。翌年父の下に使へるニコルズと呼べる牧師と結婚せしが、同棲一年にも充たず、一八五五年を以て病みて卒せり。享年僅かに三十有九。

女史の小説
は人心赤誠
の發露也

『チェイン・
エア』の
筆法

女史の持質は、眞情流露、意氣奔放、苦痛を経て後初めて發露す。女史の深所を發露せるに在り。女史は徹頭徹尾勝作風。氣にして眞面目なる田舎者也。上品なる禮法、高雅なる風俗の如きは、女史の眼より見れば、皆虚禮に過ぎず。其尊ぶ所は赤裸々なる人心の誠のみ。後年ブラッセルに赴き、龍動に出て、初めて外界に接せるも、其荒澤寒林の間に養成せられたる年來の氣質を曲げんには時期既に遅れぬ。女史は之に由りて自己の境遇が甚だしく他と仲間外れなるを感じて益々反抗心を加へたるのみ。かくて發して皮肉となり、冷罵となり、又憤慨となりぬ。其第一の傑作なる『チェイン・エア』を見よ。其着想に於て先づ反抗的精神に富めるを見る。當時流行せる小説は、皆理想的の美男美女を主人公とし、最も善美なる性行を之に附加して崇拜を事となせり。サッカリ、出て、其虚偽の假面を剥ぎ、痛快に罵殺し去りたるも、之に一步を先んじたるは實にブロンテ女史也。女史は常に妹達に向ひて、

(1) Rochester.
(2) Sir Charles Grandison.

篇中の人物
の直情徑行

かゝる姑息的手段に出るの不可を説き、且つ曰く「あのれは己の如く醜くして且つ倭小なる女性を主人公として描きて見せむ。その面白味に於て、ゆめ／＼御身達の美しき主人公に劣りはせじ」と。けにチェイン・エアは小説界に破天荒の女主人公也。其人を引着するものは外貌にあらずして、全然其負けじ魂と、其矢の如く眞直なる氣象と、その深き思慮とに在り。早くより孤兒となり、其身を寄せたる叔母の爲めに虐待せられて、益々其勁拔なる本色を發揮し、續きて女教員となり、嫁婦となり、最後に、身分も年輩も、己れより遙かに上なるロチェスターといへる醜男子と結婚するに至る。かく年若き婦女が、低き地位より身を起し、悪闘苦戦の後相當の好地位に達すといふ結構は、サー・グランディスン以來敢て珍しからず、言はゞ陳腐の結構なれど、たゞ此結構を活用し、主として自己の經驗を基として、熱誠を傾注せるは、從來殆んど見ざる新奇の筆法なりとす。詩的なる戀愛譚、小心翼翼たる勸懲の主義等は全篇に一の痕

跡なく、怨嗟、念怒、眞實の愛情等之に代りて、ありのまゝに、さらけ出され、主人公のチェインエーアは、他人の批評も、前後の利害も、社會の約束も、何事も委細念頭におかず、獨り自己の正しと思ふ所を遂行して憚る色なし。之に對するにロチエスターも亦毫も姑息的臭味なき人物也。其齡は四十を越え、其鼻は扁大、其口と顎とには苦味あり。而して其胸は脚部に比して甚だ大也。其上に傲慢不遜、人を壓倒するを好む。他の小説にては、確かに敵役として取扱はるべき人物也。然るに意外にも、ロチエスターはチェインの理想の男子也。彼女は此粗惡なる外貌の裡面に、其眞價を認めて之を愛し、終に其妻たらんとす。見るべし此小説が徹頭徹尾眞面目なる田舎者の小説にして、同時に英人ならでは作り得ぬべき小説なるを。勿論女史の經驗は狭きに過ぎ、従つてやゝもすれば偏狹固陋の見に陥り、評して當らず、描きて盡さざるものなきにあらず。然れども、其熟知せる狭き範圍の内にて、就げ得たる成效は驚くべく、確かに十九

(1) Lucy Snowe.
(2) Paul Emanuel.

世紀有數の傑作中に入るの價值あり。『シャーリー』は前者に比すれば一體に溫藉なる戀愛譚にして、女史の特色は比較的に現れずといへども、其熟知せるヨークシャーの人物風景を描き、殊に妹のエミリーをシャーリーなる假名の下に寫生したるは大に讀者の注意をひく所也。『ザ・レット』に於ては、女史は再び自己の本領に立ち戻り、而して篇中の人物の位地關係等に於ては、大に先きの『チェインエーア』と類似せり。即ちチェインとロチエスターとを隔離せるものは、二人の間の社會的地位の不同なりしが、此篇に於けるルーシー・スノーとバル・エマニエルとを隔離せるは宗教なるが如き、又『チェインエーア』にありては、嫁姆の地位より社會を觀察批評せしが如き『ヴィレット』にありては、學校教員の地位より觀察批評せしが如き是也。但しこは根本的着想につきての言のみ。材料及び脚色の異なるは言ふ迄もなき也。其舞臺が英國に買かれず、又構成上に多少の批難あるが爲めに『チェインエーア』ほど愛讀はされねど、心理的

ギアスケルの作は甚だ愛すべきだ

- ①Elizabeth Gaskell.
- ②Chelsea.
- ③Knutsford.
- ④Manchester.

貧民の研究

興味に於ては却て之にまさり、又獲難き傑作たるを失はざる也。
 ブロンテ女史と同時代に筆を小説に染め、相並びて世人を喜ばせたるものをエリザベスギアスケルとなす。小説家としての地位より觀れば、女史は蓋し一步をブロンテに譲るべきも、其作の愛すべきは、其人物の甚だ愛すべきと同様なるものあり。女史は他の女作家が、多く風彩の擧らざるに反して、容姿の美を以て有名なる人にして、其蛾眉のやさしさ、其愛嬌の濃かさ、その顔の輪廓の見事さは老後迄も残りぬ。一八一〇年チェルシーに生れ、夙に母を失ひしが、慈悲深き叔母の許に養はれてナッツフォードに住み、一八三二年を以てマンチェスター市の牧師ウィリアムギアスケルに嫁せり。結婚當時は收入とても豊かならねば、女史は勤勉家事を修め、閑あれば良人を助けて、同市に充滿せる貧民の救助に盡力し、多大の勞力と同情とを惜まざりき。女史が貧民の二三と親交を結び、其真相を熟知するに至れるは實にこの間のことなり

- ①Mary Barton.
- ②Household Words.
- ③Life of Charlotte Brontë.

その最初の傑作

ブロンテ女史との交遊

き。夫婦の仲には前後七人の子女を擧げゝるが、其中の二人は死産し、又其一粒種の男兒は生後十日目に夭折せり。此幼兒の死亡は、女史をして小説家たらしむるの動機となりぬ。これ其良人が、悲痛を紛らすの手段として女史に執筆を勧めたれば也。かくて一二の短篇を草した後、かの有名なる『マリーリアバートン』を作りぬ。製造場の勞働問題を捕へ、マンチェスターの職工間の生活を描きたるもの、筆に同情の涙をふくみ、筋に變化の妙あるが故に、忽ち一代の歡迎する所となりぬ。一八五〇年デイケンズが、『ハウスホルド・ウォールズ』誌を刊行するや、直に女史を招きて紙上を飾らしめ、之よりその諸作は續々同誌上に發表さるゝに至れり。女史がブロンテ女史と交を結ぶに至りしも亦その頃の事にして、二人は終生の莫逆となり、而してブロンテの死するや、周到の用意と懇篤なる同情を以て『ブロンテ傳』を草し、傳記として誠に最上の好著なり。小説家としての成效の後には、其家計も次第に有福となり、屢々外國にも遊び、

(1) Cranford.

巴理滞在中の如きは、佛國知名の文士より鄭重なる款待を受けたり。女史は執筆中には、屢々愛娘の一二人を携へて田舎の閑地にのがれ、心静に机に向ふを喜びき。平生俗事には多く關係せざりしも、たゞ慈善事業の爲めに一臂の勞を惜まざることもありき。一八六六年急に病みて卒せり。女史は人の妻としては愛情濃かに、母としては他まで慈愛深く、又他人と交るに當りては優雅にして快活、げに世にも珍らしき圓滿の人なりき。女性の小説家中其類を絶つと言はんも過言にはあらざるべし。

女史の作は一篇として讀むに足らぬ程の歌作はなく、而して其種

その傑作

類も多し。女史の名聲の中堅たるは、疑もなく『メー

るその得意なる短篇

ど余は寧ろ『克蘭フォード』其他の短篇を取られんとす。克蘭フ

ォードは、實は女史が久しく住めるナッツフォードを指す。此地はいたく古風にして、醇朴の詩趣に富める小天地、貧しくて上品ぶり

(1) Moorland Cottage.
(2) Cousin Phillis.
(3) Mr. Harrison's Confessions.
(4) Crooked Branch.
(5) Lizzie Leigh.

(6) Wives and Daughters.
(7) George Eliot.
(8) Mary Evans, or Marianne Evans.

たる寡婦、老女などの多く生活する所。女史は之を描くに輕妙なる筆を以てし、婦女に通有なる奇癖、弱點等をあげ、而してその底に潜める情話をときて楚々人を動かす。其妙決して他に求むべからず。其他短篇中愛すべきは、『澤の小屋』、『従弟フィリス』、『ハリスン氏の懺悔』、『正める枝』、『リッジョリー』等甚だ多し。『妻と娘』は、女史最後の大作にして、結末に近づきて女史の死に會せしが、その愛娘の手によりて完成されたり。或る評家は之を以て女史作中の白眉となす。性格の描寫の巧みなる、清純なる情愛の全篇に溢れたる、長く讀者を動かすに足るべし。

ジョージエリオットは三女作家中最も遅れて名を成したれど、小説家としての地位より言へば却て其中の首位に就くべ

エリオット

きか。ジョージエリオットは實は雅號にして、實名を

メーリアンエヴァンズ、若くはメーリアンエヴァンズといふ。ウォリアウィックシャーの産にして父は某貴族の土地管理者也。エリオット

エリオット
も亦田舎者
也

- 1) Scenes of Clerical Life.
- 2) Mill on the Floss.
- 3) Adam Bede.
- 4) Brother and Sister.
- 5) Strauss's Life of Jesus.

女史の博學

トは父と共に田舎に住居し、三十歳を越すに及びて初めて都會の人となれり。されば、ブロンテ程にはあらねど、女史も亦頗る田舎者にして、後年小説家として打つて出るに當りても、先づ描けるは、其熟知せる田園的生活にして、而して女史は是等に於て最も完璧を殘せり。即「僧侶界の森々」、「ミルオンゼフロス」、「アダム・ビード」等の小説、さては「兄と妹」の詩篇等是也。元來女史は女性に珍らしき篤學の人にして、獨り優美なる感情と、非凡の想像力とを有せるのみならず、又明晰、堅實なる頭腦を有し、哲學科學等に對して深き好尚を抱き、研究一日も怠るなく、終には髭髯漢をして顔色なからしむる迄の學識を具ふるに至れり。外國語の智識將た淺からず、古語にては、希臘、羅典、及びヘブローの三語に通じ、而して近代語にては、佛、以、獨の三語に通ぜり。其幼時は熱心に國教を信ぜしも、一八四一年或る動機により、宗教として耶蘇教を信奉することなきに至れり。其結果ストラウスの「耶蘇傳」を翻譯し、一八

- (1) Westminster Review.
- (2) George Henry Lewes.
- (3) Biographical History of Philosophy.

エリオット
とルイー
と自由結
と婚

四六年を以て出版せり。これ女史が操觚者としての處女作也。一八四九年父の死亡は女史に一身の自由を與へ、これより家を解散し、少時の間大陸を旅行の後、龍動に出て、「ウエストミンスター評論」の副主筆となれり。同誌の寄書家にはヘルバート・スペンサー其他知名の學者文人を收めたりしかば、是等と親炙往來せる女史の名は、漸く世に重きをなすに至れり。

されど女史が會合せる人物中最も大關係を生じたるは、ジョージ・ヘンリー・ルイー是也。而して之を女史に紹介せるはその奇妙なる關係

スペンサーなりき。ルイーエスは當時一方に重きをなせる文士にして、科學及び文學に對して好尚を有し、其著書には「列傳體哲學史」其他數種の作あり。二人は一見して意氣相投合し、痛烈なる愛情の成立を見るに至れり。たゞルイーエスは一度妻帯の身に於て、縱令其妻は結婚後發狂し、事實上別居せるもの、英國法律は其離婚を許さざるが爲めに、エリオットは今や正式にルイーエスと

小説を
しては
ルイ
エス
の
力也

結婚する能はず、一時は大に當惑したり。されど二人は終に意を決して勝手に結婚し、勝手に同棲して、實際は純然たる夫婦となりぬ。法律上、社會上には餘り感服すべき仕業にてはなかりしも、英國小説界は、之によりてエリオットなる一閨秀小説家を利したり。何となれば女史が學者としてのみならず、又同時に小説家としての非凡の技倆を備へたるを發見し、種々鼓舞獎勵して、此新原野を開拓するに至らしめたるは、全くこのルイエス其人の力なれば也。若しルイエスにして女史と同棲するなからんか、十に入九迄は、女史は單に一翻譯家、一評家として終りたりしなるべし。元來女史の頭腦は男子も及ばぬ程發達し居たりしもの、意思は頗る薄弱にして、他人に依頼し、他人の保護を願ふの念慮は、他の平凡なる一般婦女子の常態を脱する能はざりき。故に一旦小説作者として名聲を博したる後にありても、常に狐疑逡巡して、筆を抛たんとしたる事は幾回なるを知らざりき。又其健康も兎角優れず、不斷の看護と慰藉とを要

(1) Amos Barton.
(2) Adam Bede.
(3) Spanish Gypsy.
(4) J. W. Cross.

最初の大作

しぬ。この弱點を知り、殆んど師父の如き注意を與へたるはルイエスにして、エリオットの小説は全くその獎勵によりて生れたりといふも不可なかりき。
エリオットが初めて世に出せる小説は『エーモス・バートン』にして、一八五七年の『ブラックウッド誌』に載せられたり。後他の二篇と共に、『僧侶社會の様々』中に收められたるもの即ち是也。この時より女史は全く新生涯に入り、専ら小説を作りしが、一八五九年『アダム・ビード』を出すに及び、一躍して英國小説家中の第一流の列に加はるゝに至れり。これより一兩年若くば三年の間隔を置き、て大作を出し、一八六九年には又『西班牙のジプシー』と題せる劇詩を草したり。但し詩歌の方面にては女史はさまで成功せざりき。
一八七八年ルイエスに先立たるゝや、エリオットは一時哀傷慟哭殆んど世を果敢なむばかりなりしが、二年の後六十の老婆の身を以てクロスといへる龍動の銀行家にして、己れより二十年許も年少なる

(1) Romola.
(2) Mr. Gilfil's Love Story.

前期の作風

一男子と結婚して世人を驚かしぬ。さばかり英邁なる婦人にてあり乍ら、何故にかゝる愚を演ぜしかは何人も怪む所なるが、こも亦エリオットの意志の薄弱にして、依頼心の大きなるに歸すべからむ。再婚後幾もなくして病みて卒せり。時に一八八〇年十二月。

女史が小説家としての経歴は、前後二十年に跨る。而して其二十年女史の「ロモラ」を限界として、前期と後期とを劃し、兩期作風に分れたる作品は殆んど別人の手に成りしかと思はる。

迄の差別を有す。前期に描けるのは、女史自身が實地に見聞せる英國田園の社會及び之に入らせる人物にして、従つて之を寫せる筆には、苦澁彫琢の痕なく、生氣潑瀾として、甚だ愛すべし。而して其觀察力は、甚だ奇警にして、尋常人の輕々に看過すべき邊に興味を捕へ、平淡の裡に常に多大の變化を具ふ。第一に現はれたる「僧侶社會の様々」三篇は最もよく此特長を發揮し、直接に人の肺腑に入ること蓋し女史の作中に冠たり。就中余は「ギルバール氏の戀」を推薦せ

(1) Silas Marner.

後期の作風

んとす。やがて、「アダム・ビード」に至りて女史の技倆は大成せり。中心としては、可憐なる一少女が一男子の誘惑にかゝれる事を描き、之に隨伴せる後悔、罪惡、不幸のさまざまを寫して、深く人心の秘奥に入り、女史の人生觀を窺ふべし。之に續ける「ミル・オン・ゼン・ロース」、「サイラス・マーナー」共に傑作にして、エリオットの名をして重からしむ。以上は皆前期の作也。或る評家の如きは、女史をしてこの期の終に於て死せしめば、却つてその名聲の保全に都合なりしならむと極言す。これ他なし、エリオットが圓滿の傑作は前期に於て求むべく、後期の作は功罪相半ばするものあれば也。

後期に入りてエリオットは邪路に走れり。全力を擧げて、細緻なる解剖に耽り、以てその得意なる寫實を忘却し、又徒らに抽象的穿鑿を喜びて、具體的描寫を等閑に附せり。史論などを試みるならば、かゝる筆法は甚だ適當ならむ。何となれば、歴史的材料には制限あり、従つて敷衍と推究とを要すれば也。然れども、小説家にありては

『ロモラ』

然らず。小説は、生きたる人間を描くべきもの也。抽象的に、人物の性格を論究すべきものにはあらず也。かくて、小説家は、一人物を浮動せしむるに必要と認むる所の事實を、勝手次第に製造する事を得。之をなさざるは結局其想像力の衰微を示すのみ。後年のエリオットは小説家としての最大武器を失へりと言はむも通辭なげむ。『ロモラ』は先づこの傾向を證す。しこは舞臺を十五世紀のフロレンスに置きたる歴史小説にして、之を作るが爲めに、古記を調査し、風俗、人情、土地の形勢等、その力の及ぶ限り穿鑿を施し、傍ら又自家の倫理説を寓し、苦心百端の後漸く之を完成せり。其非凡なる心理的解剖の力量と、其雄渾なる筆致と、其堅固なる道念と、又其豊富なる材料とは、確かに人を驚かすに足り、英國小説界中最も貫目ある大作には相違なきも、極言すれば死したる小説にして、初期の作に見る所の生氣を缺く。讀者は之を繕きて敬服すれども、之に魅せられて忘我の境に達することは難し。女史自から述べて曰く、「己がロモラを

(1) Felix Holt, the Radical.
 (2) Middlemarch.
 (3) Daniel Deronda.

草し始めたる時は尚ほ年若かりき。之を書き終りたる時は老婆となりぬ」と。この言大に味ふべきにあらずや。『ロモラ』以前のエリオットは神輿に乗じて筆を執り、『ロモラ』以後のエリオットは、乾涸せる頭腦を役して強いて筆を運べるにあらざるか。『ロモラ』以後の作は『フィリックス・ホルト』、『ミッドルマーチ』、『デーニエル・デロンダ』等是也。女史の社會に對し、道德に對して有する意見を知り、又その他まで秀てたる心理的解剖の力を味ふには可なれど、小説としては餘りに研究的にして、前期の作に見るが如き引着力を有せず。

(研究書目)

(一) ノンテ

Life and Works of Charlotte, Emily and Anne Brontë, 7 vols., Pocket Edition (Smith), 詳しく

言くは (1) Jane Eyre, (2) Shirley, (3) Villette, (4) Professor and Poems, (5) Wuthering

Heights, (6) Tenant of Wildfell Hall, (7) The Life of Charlotte Brontë.

その他、Downey, Routledge, Scott, 其他にて出版せるもの甚だ多し。評傳にて

は、上記の

Life of Brontë, by Gaskell (Smith), 著、田舎。
Brontë, by A. Birrell, G. W. Series (Scott).
 (II) キンクスナー——
Works of Gaskell, 8 vols., Pocket Edition (Smith). 註「くはくは」(1) *Wives and Daughters*.
 (2) *North and South*. (3) *Sylvia's Lovers*. (4) *Granford and Other Tales*. (5) *Mary Barton*,
and Other Tales. (6) *Ruth*, and other Tales. (7) *A Dark Night's Work*, and other Tales. (8) *My*
Early London, and other Tales.
 他に同出版社にて出版せるものにて「Popular Edition, 7 vols. 及び
 Illustrated Edition, 7 vols. あり。最も著者著のキキ Mary Barton. 又は Granford. の
 刊本は極めて多し。
 (II) ホリーキ——
Life and Works of Eliot, 14 vols., Warwick Edition, (Shrekwood). 註「くはくは」(1) *Adam*
Bede. (2) *The Mill on the Floss*. (3) *Felix Holt*. (4) *Scenes of Clerical Life*. (5) *Silas Marner*.
 (6) *Middlemarch*, 2 vols. (7) *Daniel Deronda*, 2 vols. (8) *Spanish Gypsy*. (9) *Essays*. (10) *Life*,
 2 vols.
 尙ほ同出版社にて出版せるは「Library Edition, 10 vols.; Standard Edition, 21 vols. 等
 甚だ多し。その他女史の傑作の刊本は到る所に出版せられたり。詳細に
 つは、
Eliot's Life, 3 vols., by Cross (Shrekwood).

©Charles Kingley.

キンクスナー
イの多藝

Eliot, by L. Stephen, M. M. L. Series (Mac).
Life of Eliot, by Thompson (Paul).
Hours in a Library, by L. Stephen (Smith). 中の「ホリーキ」ト註。

(八) 其他の小説家

キンクスナーイ——ト ロラップ——リード——コリンズ——ステイザンズ
 ——その作風——文體——メレティス——(研究書目)

第二流の男性作家中聲望最も隆々たりしものを求めば、蓋し指を
 キンクスナーイに屈すべきか。渠は極めて多
 スリー 藝の人にして、たゞに小説家たるのみならず、同時に

又詩人也、神學者也、論客也。口も八丁、手も八丁、何れの方面に於
 ても凡常の域を脱し、一代の名手たるを失はずといへども、特に一
 方に傑出する能はざるを惜むべしとなす。渠はジョージ・エリオット
 と同じく一八一九年を以てデウォンシャーに生れ、長じて劍橋大學
 に學び、最初は法律を以て身を立んとせしが、やがて目的を變じ
 て僧侶となり、其一生の大部分は田舎牧師として送り、一八七五年

(25) Village Sermons.
(26) Newman.
(27) Saint's Tragedy.
(28) Andromeda.

を以て歿せり。渠が作家としての處女作は『廿五篇田舎説教』と題せるもの、讀んで字の如く、二十五篇の説教を集めたるものにして、中には有用の好文字あり。この後に至りても幾多の説教若くは論文講話の類を出版したれど、今は大方廢れたり。元來渠は元氣才情餘りありて冷靜なる判断と精確なる推理の力足らず、爲めにやゝもすれば柄になき事に手を出して失敗を招けることあり。例へば論客として無双の力量あるニューマンに食つてかゝりて其鬪弄する所となるが如き、又劔橋大學の歴史講座を受持ちて不評判を招けるが如き、其經歷中の汚點と言はゞ言ふべし。然れども純文學の方面にては容易に動かし難き地歩を占む。即ち詩人としては、一八四八年に出せる『セインツ・トラジディ』をはじめとし、かの有名なる六脚詩『アンドロミダ』の佳什あり。其他バラッド體の作にて取るべきもの少なからず。固より詩は、キングスリイにありては餘技に過ぎず、其名聲の中堅は決して爰に存せずといへども、素人詩人中にありては、

(1) Alton Locke.
(2) Yeast.

頭角を抜く。若しそれ小説家としてのキングスリイに至りては、更に重要にして、渠が名聲の後世に傳はるは、疑もなく此方面に存すべし。

渠が先づ世に出せる小説は一八四九年の『オールトン・ロック』是也。

キングスリイ

當時は勞働問題の盛んに歐洲に持ちあがりし時代にして、

イの小説

て、雇人の不平甚だしく、該小説の出でたる前年には、各種類の職工ども、陸續龍動に集合して國會に願書を提出し、その權力の伸張を要求するなど、物情頗る騷然たるものありき。『オールトン・ロック』は即ち渠が社會改良論者としての見物妙より筆を下せしものにして、教育ある勞働者の理想を描出せんとしたるもの、即ち外形は小説にして其主眼とする所は時事的論文也。時代を異にし、又國土を異にせる吾人に對しては、格別の興味を與へ難し。一八五一年に出せる『イースト』は一層この傾向を有し、地方農民の状態を描きて其改良を世に訴へたるもの也。是等に比すれば、一八五三年

(1)Hypatia.
(2)Neo-Platonic.

に出せる『ハイペーシア』は遙かに興味深き佳作也。時代は、耶蘇教と往時の多神教とが軋轢せる紀元五世紀におかれ、ゴス人、羅馬人、希臘人其他の諸人種皆舞臺に現はれ來り、事件の變化、場面の變化に富む。而して讀者の同情はハイペーシアに聚中す。ハイペーシアは史上有名なる女博士にして、埃及亞歷山市の産、ニオプラトニク學派に屬し、哲學者として、又數學者として一代に重きをなし、又高德と美貌とを以て鳴りぬ。然るに、當時埃及に普教中なる耶蘇教僧侶輩は、ハイペーシアを以て宗教上の仇敵となし、或る日街頭に於て之を捕へ、無法にも裸體となして殺戮し、介殼を以て肉と骨とを離し、更に其骨を焼き棄てたり。此一撃は實に古代學派に對する最後の大打撃にして、爾來再び振はずなりぬ。キングスリーの之を描くや考證精確にして、よく當時の真相を傳へ、好個の歴史小説を成す。而して他面には、キングスリーの持論たる舊教攻撃の目的も混り居り、若し彼等に最上權を附與せんか、今日に於ても依然

イキン
作第
ト一
ソク
ド
ス傑
ス

(1)Westward Ho!
(2)Hereward the Wake.
(3)The Heroes; or Greek Fairy Tales for my Children.

生命、學藝の上に大殘害を及ぼすべきを諷告したり。一八五五年には『ヴェストワード・ホー』出てたり。こはキングスリーの作中の白眉と稱せらる、傑作なるが、エリザベス朝の英國を描きたる歴史小説にして、ドレーク、ラッリイ、ホーキンス等史上有名の人物紙上にあらはれ、西班牙海上の冒險、南米陸上の奇譚、かの世界に名高き無敵艦隊の破壊、追撃、英國デヴォンの海岸、西印度の熱帯の風光等絢爛にして生氣滿々たる筆に描き出され、讀者をして氣息を入るゝの邊なからしむ。結構の上より言へば、或る個所は長短度を失して不調和の痕を留めたれど、局所的妙味はよく之を償ふて餘りあり。此篇にありても、キングスリーは極力羅馬舊教の攻撃を試み、多少度に過ぎて詩美を殺げる趣あり。一八六六年に出てし『ヘレワード』亦佳作也。古代サクソンの氣質を描出せんとしたる歴史小説にして、ヘレワードは勝利王ウィリアムに反抗したる最後の英人也。純小説を離れては、少年の讀物として絶好の名ある『希臘勇士』

- (1)Water Babies.
- (2)Henry Kingsley.
- (3)Ravenshoe.
- (4)Geoffrey Hamlyn.
- (5)Anthony Trollope.

あり。文字の雅潔を以てまざる。又も伽話として勸懲諷刺の意を籠めたる『水の小供等』また優美にして廣く愛讀せらる。

序でに爰にヘンリー・キングスリーに就きて一言せむ。ヘンリーは

ヘンリー・キングスリー

チャールズの弟にして、同じく小説を作りたるが、今日生命を有するものは、一八六二年に出でたる『レ

ヴンスホー』にして、極めて愉快にして活氣ある筆に諸種の人物を

描き、殊に戦場の記事は絶好の繪畫をなす。『ジェフリー・ハムリン』

又名あり。

キングスリーの小説が極めて高雅なる筆致もて作られたるに反し、

平俗の文體を以て人氣を收めたるものをアントニ

トロープとなす。文章として見れば、トロープの筆

は幾んど言ふに足らねど、氣のさしたる描寫と、圓熟なる對話とを

以て、苦もなく中流社會を寫し、普通の讀者の嗜好に適合するに妙

を得たり。トロープの作は極めて浩瀚にして、量を以て言へば十

トロープの器械的執筆

九世紀小説家中の首位にあり、大概の人士は之を通讀するに苦むべし。かゝる多作者が最高の標準に協ひたる作品を残す能はざるは知るべきのみ。たゞ渠は或る程度迄人情に通曉し、又或る程度迄生きる人物を造り出す技倆を有し、その傑作にありては確かに一顧の價値あり。渠に於て最も驚歎すべきは、その一生に斯る多數の著作を残したるに係らず、若冠の際より遞信省に奉職し、中年を越す迄此俗務に執掌し居たる一事にして、小説執筆の時間は本務の餘暇より割取せるものなりき。尙ほ他にも又狐狩りの道樂を有し、交際場裏にも出入する等、何所迄身に餘裕ありしか、一見人をして呆然たらしむ。されど詳しく査べて見れば、つまり平生規律を嚴守せる餘徳に外ならず。渠は殆んど器械的に筆を呵し、汽車の中、船の中に居る時にも、毎日執筆時間として定めたる時間は必らず之を嚴守し豫定の原稿を書きあげたる上ならては、決して休息する事なかりき。かくも器械的に成りしものとして見れば渠の作品のかくまで優秀な

- (1) Charles Reade.
- (2) Frances Trollope.
- (3) Domestic Manners of the Americans.
- (4) Warden.
- (5) Barchester Towers.
- (6) Last Chronicle of Barset.

るは寧ろ驚くべし。蓋しトローラの文才は、母の遺傳らしく、母はフランスズといひ、嘗て『米國人士の家庭』と呼べる書を作りて世論を惹起し、又小説をも作りき。トローラが小説家として成效を収めたるは一八五五年に出せる『ワァーデン』に始まり、而して『パァチエスタターワーズ』に至りて大成したり。渠の作中一般に最大傑作と稱せらるゝものは『パァーセットの最後の記録』是也。最初は格別の収入とてもなかりしが、後には一冊の小説にて三千五百二十五磅を獲得せることあり。一八五九年より七九年迄二十年間の収入凡そ七萬磅に達せりといふ。一八八二年卒中を以て卒せり。トローラと同時代の小説家にはチャールズリッポードあり。キングスリーと同じく、其作の材料甚だ雑多にして、時とすれめかしく、時には又十九世紀の現代に立ち戻りぬ。而して其作風はキングスリーと同じく傳奇的なるが、たゞ其讀者に訴ふる點は頗る

- (7) Griffith Gaunt.
- (8) Terrible Temptation.
- (9) William Wilkie Collins.
- (10) It is never too late to mend.
- (11) The Cloister and the Hearth.
- (12) Peg Woffington.
- (13) Christie Johnstone.
- (14) Hurl Cash.

趣を異にせり。渠は生涯牛津大學にとゞまり、最初は筆を劇曲に染めしが、やがて小説を草し始めたり。渠の名聲が初めて一代を動かしたるは、一八五六年に出でたる『改むるに憚る勿れ』にはじまる。監獄の改良を絶叫したる傾向小説にして、極めて精密に獄裡の生活を描きて筆法頗る鋭く、いたく當時の人心を刺激したり。一八六一年に出でたる『僧庵と爐邊』は中世の社會を再現せしめたる歴史小説にして、最も變化に富み、渠が作中の白眉たり。其他『ベックウオッフイングトン』、『クリステイジョンストン』、『パァードカッシ』、『グリップフィスガート』、『畏るべき誘惑』等それ／＼長所を有し、第二流の作家中に重要な位地を占めしむ。されど是等の凡てよりも最も我邦人に親まれたるはウィリアム・ウィルキンズ。ルキィ・ウィルキンズ是也。渠は、最も高尚なる意義の探偵小説家にして、重みに奸智に長けたる悪漢を主人公とし、巧緻複雑なる結構を設けて、逆に物語を發展し、巻を終る迄讀

- ①All the Year Round.
- ②Woman in White.
- ③Count Fosco.
- ④Dead Secret.
- ⑤Armadale.

- ⑥Moonstone.
- ⑦After Dark.
- ⑧Robert Louis Balfour Stevenson.

者の注意を離せしめざるの妙あり。コリンズに取りて、幸福なりしは、ディケンズの知遇を受けし事にして、ディケンズが主宰せる『オールゼイアラウンド』誌に寄稿し、一時は當時の小説家中最多数の讀者を繋ぎたる一人なりしも、ディケンズ歿後は、好刺激者の無きが爲めに、次第に悪作を出すに至れり。渠の作中傑出せるは、何人も知る所の『白衣婦人』是也。篇中の悪漢フォスコ伯は、小説界の名物男にして、爾來之を模倣せる人物が描かれたること幾何なるを知らざる程也。之に亞ぎては『大秘密』『アルマデーラ』『月珠』等の佳什あり。コリンズは又短篇の名手にして『薄暮後』の短篇集中には、佳品少なからず。

ロバート・ライズバルフォア・ステイヴンソンに至りては、時代ステイヴンソンも近く、作も面白く、近代の英國作家中に嶄然頭角を抜く。渠は有名なる蘇國工學者トマス・ステイヴンソンの子、一八五〇年を生れぬ。元來蒲柳の質にして、少時より屢々學

業を廢せしが、若冠の頃不治の肺患に罹り、これより各地に轉地して本國に留まれること少なく、殊に一八八七年以後には只一度も歐洲の地を踏まざりき。渠は海洋上の生活の甚だ自己の健康に良好なるを知り、一八九〇年には終にサモア島に一地を購ひて爰に邸宅を構へ、四周の土人を統御しつゝ、會長然として數年の日月を送りしが、一八九四年腦卒中にかゝりて急に卒せり。

- ①Samoa.
- ②An Inland Voyage.
- ③Travels with a Donkey.
- ④New Arabian Nights.

渠は最初評論文及び短篇の物語を諸雜誌に寄稿して、多少の文名を博せしが、その作の初めて書物となりて世に出た

その作品は、一八七八年の『内地の旅』を嚆矢とす。十八世紀のユーモリストなるスターンの作風にかぶれたる旅行記にして、特殊の興味に充つ。之に續きては『驢馬の旅』、『新亞刺比亞物語』等出でたり。後者は曩きに『ロンドン誌』に掲げたる短篇の聚合にして、舞臺を現時の龍動に置き、寫す所の事件は盡く現世的なれど、その裡にあらはれたる精神は變倪奇怪、甚だしく傳奇的風味を帯び、

- ①Suicide Club.
- ②Rajah's Diamond.
- ③Treasure Island.
- ④Prince Otto.

二種の作風

讀者をして眞偽の中間に彷徨せしむ。篇々皆興あるが中に、薄氣味
 わるき『自殺俱樂部』、筋の變化にとみてや、諷意ある『レーヂャー
 の金剛石』等を白眉とすべきか。されどステイヴンソンの名が廣く
 讀書界を動かすに至りたるは、一八八三年発出たる『寶の島』を
 以て始めとす。マリアット以後少年の讀物として蓋しこの上に出
 てしはなく、猛烈慘惺の冒險譚に充ちたると同時に、又マリアッ
 トには見出し難き文藻の美ありて、同時に大人をも喜ばすに足る。
 我邦にも夙に翻譯ありたれば、知れる人は多かるべし。大體に於て
 言ふ時は、ステイヴンソンの作は、『新亞刺比亞物語』にあらはれた
 る幻想的作風と、『寶の島』にあらはれたる冒險的作風との何れかを
 帯びたりといふべく、渠は感興の赴く所に従ひて、常に此二方面に
 打つて出でたり。今出版の順序によりて、其中の重要なるものを舉
 ぐれば、一八八五年に出でたる『プリンストット』は、舞臺を獨逸
 にあきたる心理的小説にして、善惡の境に迷へる人物の精神的煩悶

- ①Dynamiter.
- ②Wrecker.
- ③Will O'the Mill.
- ④Child's Garden of Verses.
- ①Strange Case of Dr. Jekyll and Mr. Hyde.
- ②Kidnapped.
- ③Catriona.
- ④Black Arrow.
- ⑤Master of Ballantrae.

を描き、ステイヴンソン集中の異色のものなり。文章の精練を以て
 鳴る。一八八六年に出でたる『ヂェキル博士とハイド君』は、一人
 物の善性と悪性との争をば描ける怪譚的寓話なるが、例によりて舞
 臺を近時の龍動に置き、人を半信半疑の巷に迷はす。世界各國の語
 に譯出されて最も名高し。一八八六年に出でたる『キッドナフト』
 は一八九三年に出でたる『キートリオナ』と續き物にして。前者は
 専ら冒險的興味に富み、讀者をして氣息を入るゝ違なからしむ。後
 者にありては二人の美しき少女を寫し、十八世紀の蘇國のヂャコバ
 イト叛亂を背景とせり。此作者の作中唯一の戀愛小説にして、而し
 てその傑作たり。其他『黒矢』『マスターオブパラントレー』『ダイ
 ナマイター』『レッカー』の長篇、さては『ウィル・オ・ゼミル』などの
 絶好の短篇あり。渠は又詩歌をも試み、一八八五年に出せる『少年
 歌園』は熱心なる愛讀者の多くを有す。
 ステイヴンソンは小説家たる前に先づ文章家也。先進諸家の特長

(1)George Meredith.

その文體

を取捨して修辭の上に最大の苦心を重ね、最後に自家の工夫を加へて優に一家を成せり。大體に於て其文字は簡潔明淨を以てまさり、多くの小説家が免るゝ能はざる冗漫蕪雜の趣なし。而して必らずしも單調窮屈の弊なく、悲哀によろしく、談諧に通じ、抒情と共に叙事にもすぐれたり。小説家としてかゝる修辭上の特技を兼ね有するものは前後極めて少數也。物語の名人は必ずしも文章の名人にあらず。スコットの如き、ディケンズの如き、皆文章に對しては不注意なりき。ステイヴンソンにありては、是等とは正反對に、餘りに文章に對して留意し過ぎずやと疑はるゝ迄注意を拂ひたり。若しステイヴンソンの文章に對して強いて缺點を拾はば、それは過度の彫琢に伴ふ冷がさにありといふべきか。

最後に余は、尙ほ生存中の大家ジョージ・メリディスの小説につき一言して以て此章を終らんとす。既に述べたるが如く、メリディス

渠は先づ詩人として文壇に出て、詩人としても甚だ重

渠は散文家
中のアラウ

(1)The Oriens of Richard Feverel.
(2)Evan Harrington.

要の作者なれど、其名聲の中堅は小説に在りて存ず。メリディスの小説は、深遠なる思想感情を以て填充せられ、寸鐵人を殺すが如き警句甚だ多く、而して其底には、自尊、輕薄、その他すべて醜なるもの、邪なるもの、陋なるものを翻弄する作者自身の微笑を認む。大體に於て散文のメリディスは韻文のブラウニングと類似の點を有すと稱せられ、就中優雅高邁なる女性の描寫にすぐれしを以て似たり。メリディスの作中最も早く出てたる傑作を「リチャード・フェヴェレル」となす。一八五九年の出版にかゝる。此作に於てメリディスは、人生の心理的討究を試み、小説界に新原野を開拓せり。其主題は少年教育の問題にして、自己の狹隘なる主義學說に盲從せる父が、我子の自然にして健全なる本能を抑壓せんとせるより起れる破綻を寫し、篇中にあらはれたる戀愛譚は、その純潔と丈夫的なるを以て名ありし。之につゞける「エヴァン・ハリングトン」は趣味繞多なる喜劇にして、主人公エヴァンの地位境遇と希望熱情との衝突とを描

- (1) Rhoda Freming.
- (2) Harry Richmond.
- (3) Beauchamp's Career.
- (4) Egoist.
- (5) Tragic Comedians.

のメレディスの人物

(6) Diana of the Crossways.

さ、輕快の筆致時に人の頤をとく。メレディスの作中最も読み易きものの一也。其外『ローダ・フレンジング』、『ハアリア・リッチモンド』、『ヘイチヤムの閱歴』、『利己的人物』、『悲劇的喜劇者』、『ダイアナ』等メレディスの長所を見るべき大作甚だ多し。晩年の作は、其文章の難澁益々甚だしく、而して其特質はやがて奇癖となりて、概して初期の作に及ばざるもの、如し。

メレディスはケルティックの血液を混へたるが故に、其性質には甚だケルティック風なる所あり。その頭腦は直覺的にして、推理的ならず。その精神的活動は常に偶發的傾向を有して、中間の連絡を缺くを以て、普通の人士には、その理路想像を辿り難く、難文家と言へば先づ指を屈せらる。されど其難解なるは、同時にその思想の深遠複雑なるにもよる。渠の最大長所はその心理的描寫にあり。渠は一人物を描くにその外面より描かずして、直にその心胸の内部より筆を着く。渠は物語作者たると同時に又創造者也、預言者也。渠の

作にありては、人物をして器械的行動を取らしむるが如き趣は毫もなく、篇中に描かれし幾多の事件は、一人物と他の人物との交渉の結果止むを得ず起り來るものにあらざるはなく、常に人生の真相に觸れて深大の教訓を與ふ。小説は實にメレディスの手によりて其貫目を加へたる事幾何なるを知らず。

(研究書目)

(一) キングスレー

Works of Charles Kingsley, 11 vols, Pocket Edition (Minc). 小説をはじめ、詩歌、少年讀物等を收めたり。同社には又キングスレーの全集あり。其他の社にて出版せるもの甚だ多く、爰に擧ぐるの用なし。傳記にては、

Charles Kingsley: His Letters and Memorials of his Life, edited by his wife, 2 vols. (Minc).

Kingsley and Christian Social Movement, by Stubbs (Blackie).

キングスレーの作は

Havenstoe (Ward).

Geoffrey Hamlyn. (全上)

(II) ロランブー

Warden (Longman, Chapman, &c.)
 Manchester Traders. (同上)
 Last Chronicles of Barset (Chapman, Smith, &c.)
 (III) 著 —
 Peg Wigginton (Chitto, Knowledge, &c.)
 Christie Johnstone (Chitto, Downey, &c.)
 It is Never Too Late to Mend (Chitto.)
 Hard Cash (Chitto.)
 The Cloister and the Hearth. (同上)
 Griffiths Gann. (同上)
 (IV) ノリマンズ —
 Women in White (Chitto.)
 After Dark. (同上)
 The Devil Sees. (同上)
 Moonstone. (同上)
 Innadale. (同上)
 (V) クニヤマンズ —
 Works of Stevenson, 25 vols. (Scribner.) 最も推薦するに足る。坊間安價の出版甚だ多く尋ぐるの要なし。

評傳については、
 Stevenson, by Buntton (Chitto.) 筆者はステイヴンソンの親友なれば面白き節あり。

(六) メレディイス —
 Novels of Meredith, 15 vols. (Constable.)
 評傳には、
 New Studies in Literature, by Dowden (Kegan Paul.) 中なる『詩』にあらはれたるメレディイス』

(九) 最近英國文壇

詩歌 — オースティン — アーノルド — ソートスン — フィリップス —
 ヘンリー — 其他 — 小説 — キップリング — ハマーディ — ペザント —
 ハッガアード — パーリィ — ドイル — ケーレン — ホープ — コウチ —
 アルレン — ソード — 其他の小説家 — 散文 — ステイヴン —
 ゴス — ガーチット — ダウデン — セーレンツ — ベリィ — プルック — リー —
 其他の散文家 — (研究書目)

以上余は千有餘年に亘る英文學の起源發達をしらべ、一代の文學

①Alfred Austin.

を作る所の重なる作家に就きて叙述を試み、筆を現存中の作者にまで連べり。英文学史としては、爰に筆を擱かざるべからず。現存の作家にありては評價未だ全く定まらず、且つ一時的の作と永久的の作と玉石尙ほ混淆して精細に判別し得るの期に達せず、到底充分の記述は施すべからざる也。但だ一片の婆心は余をして強いて此一章を加へしめぬ。爰にのぶるは十中の九迄現存中の人々にして、其中の一小部分のみが近年故人となれり。讀む人最近の英文壇につきて大體の觀念を作るを得ば、余の望は足れといふべし。

(一)詩歌 詩壇の宿老スウィンバーン、メレディスの二家は尙ほオースティン 健在なれど、彼等は漸く過去の人となりつゝあり、現下の詩壇の代表者を以て目すべからず。而かも之に亞ぐべき大詩人のあらはれざる現下の英國詩壇は頗る寂漠を免れざるものゝ如し。一八九二年テニスンの歿するや、之に亞ぎて欽定詩人にあげられたるはアルフレッド・オースティン是也。オースティンは

⑥Spring and Autumn in Ireland.
⑦Edwin Arnold.
⑧Light of Asia.
⑨Light of the World.

①Human Tragedy.
②Savonarola.
③Lyrical Poems.
④Narrative Poems.
⑤Veronica's Garden.

一八三五年を以て生れ、龍動大學卒業の後、身を法律に委ねしが、しばらくして之を放棄して文學者となり、詩及び散文をものせり。詩篇には「人界悲劇」「サザナナローラ」「抒情詩集」「物語體詩集」等數あり。又散文の著作には、「ヴェロニカの園」「愛蘭士の春秋」等あり。暢達の筆を有すれど、到底第一流を以て目すべき作者にあらず、欽定詩人として渠に先立てるテニスンに比較されて特に聲價のあがらざるは惜むべし。

之に比して讀書界の寵兒たりしはエドウィン・アーノルド是也。渠の名をして重きをなさしめたるは、かの有名なる「亞細亞の光」の詩篇にして、同情の眼を以て東洋の文學及び宗教を研究して作りたるもの、こは我が邦人の間にも夙に親まれたり。其出版せられたるは一八七九年のことなりき。一八九一年に至りて渠は更に「世界の光」を出し、耶穌教祖の傳記をとり、之を詩化せんと試みたるが、其成效は前者に比していたく劣り、アー

- (1) William Watson.
- (2) The Year of Shame.
- (3) Ode on the Coronation of King Edward VII.
- (4) Stephen Phillips.

ノルドの名は依然『亞細亞の光』によりて維がる。其外アーノルドには散文及び韻文の述作甚だ多し。昨年物故せり。更に後れて詩人として最も世人の囑望を受くるものはウィリアム・ウォトスン及びステイヴン・フィリップスなるべし。ウォトスンは一八五八年の出生也。其詩は皆極度の彫琢の餘になり、爲めに或はその神興を殺ぐものあるかを危ましむ。其傑作は讃歌に見出すべく、シユリイ、ウァーイズウァース、パーインズ、テニスン等を歎美せるもの殊に優れたり。ウォトスンは又國民の義務、名譽等に對して崇敬の念深く、アルミーニアに屢々虐殺の繰返さるゝや、英國が之を阻止する能はざるを憤慨し、其義憤の聲は『耻辱の年』となりて遺憾なくあらはれたり。近くは『エドワード七世即位の歌』あり。フィリップスの名聲は近年に至りて冲天の勢を以て高まりぬ。渠は一八六四年の出生にかゝる。初めは俳優として、ペンスン一座に加はりしが、後終に文學を以て專業

- (11) Lord de Tabley.
- (12) John Davidson.
- (13) Arthur Symons.
- (6) W. E. Henley.
- (7) Book of Verses.
- (8) Song of the Sword.
- (9) Views and Reviews.
- (10) Robert Bridges.
- (1) Marpessa.
- (2) Christ in Hades.
- (3) Paolo and Francesca.
- (4) Herod.
- (5) Ulysses.

とするに至れり。其初期の作は、一八九〇年の『マナーベッサ』、九年の『陰府の耶蘇』等是也。元來渠は舞臺上の經驗を有するを以て、屢々劇詩を草し、『バオーロとフランチェスカ』『ヘロッド』『ユリシイズ』等其彩華あり、生氣ある筆端より湧き出てたり。渠尙ほ少壯、その前途は大に刮目すべきものありといふべし。ウィリアム・アーチスト・ヘンリーは一八四九年の出生なれば、ヴィクトリア朝の少壯詩人中に數へ難きも、詩人として廣く知らるゝに至れるは近年の事に屬す。其作は『詩集』『劔の歌』等を集められたり。其詩は自から嘗めたる苦痛の餘瀝にして、甚だしく寫實的也。渠は獨り詩人として知らるゝのみならず、批評家として警拔なる眼光を有し、一八九〇年に出たる『ヴェニス・エンドレヴェニス』中には卓抜の議論を見出すべし。其他ロバートブリッチス、¹¹ロルド・ダブライ、¹²ジョン・デービドスン、¹³アーサー・シモンズ等をはじめ、それ〴〵特長を有する所の詩人

決して妙なからねど一々記載たるの要はなからむ。又キップリングの詩歌は其小説と同じく一代の人士の崇拜を受くれどそは小説を説くに際して併せ説かん。

(二)小説 詩壇に比すれば、小説界は甚だ賑かにして、雄を一方に唱ふる所の作者甚だ多し。たゞ現今の大陸諸國又は一時代以前の英國に見たりしが如き第一流の代表的作家を缺くを以て何となく引き立ちて見えぬが如し。

©Rudyard Kipling.

現今の英國小説壇の第一の寵兒といはゞ、直に擧ぐべきものはラッ
キップリング デイブレードキップリングなるべし。渠は一八六五年を以て
印度に生れ、即ち今年は僅かに四十一歳の壯者に過ぎ
ねど、其名は十數年前より全世界に轟き亘り、其経歴のかくも花々
しく、迅かなるは稀也。渠は獨り小説家なるのみならず同時に又詩
歌を以て鳴る。渠の作れる歌謠は英國の艦船、英國の兵營の存在す
る限りの場所に歌はれざるはなし。たゞ多くの評家が英文學中にい

キップリングの作は皆俗語して皆かる

キップリングはアンソンの代表的人物也

かなる位地を與ふべきかにつきて聊か迷ひつゝあるは、其作の大部分が皆地方的俗語を以て成りたる點にして、又其作が、評判ほどに我邦の讀者に親まれざる所以も蓋し爰にあり。渠の驅使せる地方語の種類は甚だ雑多にして、スコットランド語、アイルランド語を初め、諸種の勞働社會の俗語、市井の鄙語、専門家の用うる術語、印度の破格英語等時に應じ、境に従ひて流出す。エマースン曰く街頭の用語は學校語よりは遙かに有力にして直接なりと。キップリングはその説の最も有力なる解明者也。題目のいかに眞面目なるにも頓着せず、又いかに崇高なるにも躑躅せず、思ひ切つて通俗の鄙語を使役し、而して其結果が殆んど如何なる場合にも良好ならざるはなしとは驚くべし。かゝる破天荒の晴れの藝は到底凡常の作者の企及し難き所なるはいふ迄もなき也。

然れどもキップリングが全世界に散布する所のアンソングロサキソン種族の全體より歓迎せられ崇拜せらるゝ所以は別に存在す。他なし

全、アングロ、サクソン、種族の代表的人物なれば也。渠は少年の際に世界を漫遊し、一度は我邦にも立寄りたることあり。かくて世界各地に居住する所の英人の状態を目撃し、此北歐の人種がいかなる地方にありて、いかなる職務に従事しつゝあるにも係らず、常に其人種の特有の性質を失ふことなく、勇氣、忍耐、努力、克己を以て凡てに勝ち、凡てに擴がり、凡てを壓倒しつゝあるを洞察せり。渠の作は常にこの膨脹的植民主義を振りかざし、此見地に立ちて、世界の各地に住めるアングロサクソン種族の偉蹟を歌へり。アングロサクソン種族は彼の作を見て初めて自己の偉大なる所以を了解し、限りなき自負と喜悅とを感じぬ。キプロングの成功の一大秘訣は實に爰に在り。今日にありては、其新奇の度の減ずると同時に幾分か前日の魔力を失ひ、批評家は漸く其作に潜める弱點を拾はんとしつゝあるに似たりといへども、兎に角渠が廿世紀初期の英國文壇に最も主要の地位を占むるに就きては何人も異議なき也。

- (6) Barrack-Room Ballads.
- (7) The Seven Seas.
- (8) Thomas Hardy.
- (9) Under the Greenwood Tree.
- (1) Plain Tales from the Hills.
- (2) Kim.
- (3) Life's Handicap.
- (4) Jungle Book.
- (5) Second Jungle Book.

今日キップリングの作の蒐聚せられたるものは十數篇にのぼり、其作れる 舊るきは一八八七年の『プレイン・テールズ』より近き小説詩歌 は一九〇一年出版の『キム』に至る。其中にありて最も傑作に富みたるものは『ライフ・ス・ハンディキャップ』と題せる短篇集なり。又少年の讀物として無類の傑作二卷あり。『チャンクルプ』及び『第二チャンクルプ』是也。何れも皆動物の物語なれど中に深遠の哲理を寓し、クラシックとして長く後世に傳はるべきもの也。又其詩歌集には、『兵營内バラズ』『七海』を擧げなば足りぬべし。他にもあれど其名聲を博したる佳什は右の二集に見出すべし。

トマス・ハーデーは一八四〇年を以てウエセックスに生れ、ウエセックス中の著名の場所をば其數ある小説中に殆んど漏れなく描けり。渠が初めて名聲を博したるは一八七二年出版の『緑樹の下』是也。所謂「ウエセックス小説」の嚆矢に

- (1) Far from the Madding Crowd.
- (2) Return of the Native.
- (3) Woodlanders.
- (4) Wessex Tales.
- (5) W. Besant.

- (6) James Rice.
- (7) Golden Butterfly.
- (8) All Sorts and Conditions of Men.

して、ドルセットの住民及びその四邊の田園の物光を描き、頗る詠諧の趣致に富む。之に續ける作は甚だ多きが中に、最傑作を以て推さるゝものは蓋し悲喜混合の田園生活を寫せる『亂心の群と離れて』の一篇是也。其外『レタ・ア・イン・オブ・ゼ・チ・テイ・ウ』、『ウ・ド・ラン・ダ・ズ』等何れもハーディーの名をして重からしむ。短篇集『ウ・エ・セ・ク・ス物語』中にも讀むべきものあり。後年の作は、諷刺の分子漸く勝ちて讀者を喜ばすこと少きに似たり。

ウォルター・ベサントは一八三八年を以て生れ、九五年ナイトに列せられたり。其作は單獨にて作れるものとデ・チェームス・ベサント

ライストの合作になれるがあり。合作中最も有名なるは『黄金の蝴蝶』又單獨の作にありては『種々さまざまの人』なるべし。ベサントの筆はやゝ狂書的にして往々中に痛切なる諷刺を藏せり。渠は小説の外にも、傳記、歴史等の作を試み、何れも皆尋常平凡の域を脱し、近代最も注意すべき作者の一人也。

- (1) H. R. Haggard.
- (2) King Solomon's Mines.
- (3) Allan Quartermain.
- (4) She.
- (5) M. Barrie.

- (6) And Light Idylls.
- (7) A Window in Thrums.

亞弗利加を重なる舞臺として冒險的傳奇小説を作り、極度の華彩と空想とを小説に附與し、一時讀書界を振動したるハツガ
アード
をヘンリー・ライダー・ハツガードとなす。多少俗受けの氣味ありて、二度三度繰り返すに従ひて興味を失ひ行く作者には相違なきも、確かに鬼才といふべし。『キング・グ・ロ・モン・スマインズ』其續篇たる『ア・ラン・ク・ター・メ・イン』、『彼女』其他甚だ多し。本年『ウィンソル誌』に『彼女』の後篇を草しつつあれど、前同様の喝采は博し得ざるが如し。

マッシュ・パーリーは蘇國の産、ステイヴンソンより出て、別派の一派をなし、主として下級の蘇國人民を描けり。その第一の傑作は一八八八年に出でたる『オールド・リヒト・アイ・ディ・ルス』にして、一方に於て非常に悲しき事なれば、他方には堪へ難く可笑しき事あり。その續篇『ウィンド・イン・スラムス』に至りて益々其本質發揮し、その當代一流の作者としての地位は

動かすべからずなりぬ。之につける『リトル・ミニスター』『セン
テイメンタル・トム・ミイ』『トム・ミイとグリズル』皆愉快なる讀物た
り。

- ①Little Minister.
- ②Sentimental Tommy.
- ③Tommy and Grizel.
- ④A. Conan Doyle.
- ⑤Study in Scarlet.

- ⑥Mienh Clark.
- ⑦White Company.
- ⑧Refugees.
- ⑨Adventure of Sherlock Holmes.

アーサー・コナン・ドイルは初め醫者を本業としぬ。一八五九年を以
て生れ、一九〇二年ナイト爵を授けられ、小説家とし
て最も聲譽ある一人也。其處女作は一八八七年に出せる
『スタディ・イン・スカールレット』是也。こはさまでの傑作にはあらず
りしが、次ぎに出でたる『マイカール・クラーク』はモンマス公の謀
叛の物語にして、絶好の歴史小説と稱せらる。『ホワイト・コム・パニイ』
『逃亡者』に至りて、ドイルの名聲は益々あがりぬ。前者は佛國との
百年戦争當時の物語、後者は路易十四世の御代の物語、共に異常の
華彩と、氣力とを有す。されどドイルの名が絶頂に達したるは蓋し
『シャーロック・ホームズ奇譚集』及び續篇『シャーロック・ホームズの
記録』の出でたる當時なるべし。人並すぐれて探偵に妙を得たる時

- ①Brigadier Gerard.
- ②Great Boer War.
- ③Thomas H. H. Caine.

人物の探偵譚にして毒にもならず、又さして藥にもならぬ普通平凡
の物語を逆まに發展し行く所に妙に人の好奇心を動かす力あるが故
に、特に年少者に喜ばれたり。されど評判程に立派なる作にはあら
ず。是等の物語は、頗る我邦の讀者間にも親まれたり。其後の作に
ては蓋し『ブリッガディア・アゼーラール』最も傑出したる作なるべ
し。ナポレオン時代の歴史小説にして、有名なる佛國軍人ゼーラ
ールの自傳體にもせるもの、人の血を湧かすが如き大活劇に充ち、
かのウォーター・ルイ戦争記事の如き確に三唱に値するものあり。先
年南亞戦争の勃發するや、ドイルは志願の上ラングマン野戦病院附
の醫官となり『南亞大戦』の著あり。此種の著述中の白眉と稱せら
る。

トマス・ヘンリー・ホール・ケーンは一八五三年を以て生れ、初めは建築
家として身を立てしが、其嗜好は終に渠をして文學家
たらしめぬ。其小説中最初に出でたるは一八八五年の

⑥Anthony Hope.
 ⑦Dolly Dialogues.
 ⑧Comedies of Courtship.
 ⑨Prisoner of Zenda.

①Shadows of Crime.
 ②Deemster.
 ③Manxman.
 ④Christian.
 ⑤Eternal City.

『罪のかけ』にして、王政復古時代の歴史小説なり。一八八八年に出
 てたる『デームスター』に至りて其名聲漸く一代に高し。一小説と
 いはんよりも、寧ろユーゴーの所謂「散文の叙事詩」といふべきさ
 はの者にして、其着想、筆法共に時流を抽きたり。之につゞける
 『マンクスマン』『耶蘇教徒』『不滅の市』等何れも大作と稱すべく、
 常に猛烈なる情熱をうつし、道徳、宗教等人生の大問題に觸れて世
 人の要望を充たすこと大也。渠は確かに目下の英文壇に於ける一大
 勢力なり。

「アントニー・ホープは甚だ器用なる作者にして、特に其會話は輕妙優
 雅飽までも氣がきき、さながら波にそゞげる月光の燦
 ホープ
 然として千碎萬散する趣あり。この點に於ては、ホー
 プは當代無敵といふも不可なく、『ドリイ・グレイ・ア・ロ・グス』『求婚喜劇』
 等に於てこの長技は最もよくあらはれたり。又『ゼンダの捕虜』は
 傳奇的分子と寫實的分子との巧みなる配合にして、ホープ作中の最

も有名なるもの也。

アイサートマス・クラークは一八六三年を以てコルンウォー
 コウチ
 ル州に生れ、其作れる物語はこの半島に連關するもの
 多し。其得意の作は多く短篇にあり。『ノット・エン・ド・ク
 ロセス』『ディレクタブル・ダグ・グッチ』『ウォンダリング・グ・ヒース』『オー
 ルド・フ・アイアス』等何れも短篇集にして、變妙奇怪なる事件人物を
 描き、殊に幽霊譚に妙を得たり。

グラント・アルレンは元科學者なりしが、轉じて小説家となりたり。
 アルレン
 長篇よりも短篇にすぐれたるが多く『イヴァン・ゲリ
 トの傑作』其他の小品は殆んど間然する所なき神品た
 り。着想最も奇抜、往々詩趣風韻に富みて好散文詩をなす。

閨秀小説家中最も重きをなす作家はハムフリイ・ワード夫人なるべ
 く、最近に至りて其名聲益々昂れり。一八五一年の出
 生にして、トマス・アイノルドの女、即ちラグビーの校

⑩G. Allen.
 ⑪Ivan Greet's Masterpiece.
 ⑫Mrs. H. Ward.

⑬A. T. Q. Conch. ("Q.")
 ⑭Noughts and Crosses.
 ⑮Delectable Duchy.
 ⑯Wandering Heath.
 ⑰Old Fires and Profitable Ghosts.

長たりしアーノルドの孫也。夫人の作は宗教上若くは社會上の問題に觸れ、之を中心として事件の葛藤を生ずるが常也。學力識見共に高く文體亦甚だ優秀なり。初めて名聲を博したる作は一八八八年の『ロバート・エルズミア』にして、爾來引續きて大作を出し、就中一九〇〇年の『エリノーア』は女史の傑作を以て推さる。

以上余は現代の小説家の中より、一頭地を拙けりと思惟せらるゝ其他の小説家 名家十餘人を擧げて略述したり。然れども現代英國小説中の優秀なるものが是に盡きたりと思はんは大に誤

れり。今日小説家の數は雲霞の如く、其中にありて、それ〴〵得意の作を出せるものは尙ほ十指を以て數ふるも及ばず。而して比較的名の高まらざる人の傑作は、往々名家の拙作を凌ぐを見る。余をして更に頭をめぐらして重なる人々の姓名と傑作とを摘出せしめよ。リチャード・ブラックモリアには、『ロルナ・ドーン』の佳作あり、傳奇的歴史小説也。ウィリアム・ブラックは蘇國の産、従つて材を自國に

- ①Robert Elsmere.
- ②Eleanor.
- ③R. Blackmore.
- ④Lorna Doone.
- ⑤W. Black.

- ⑥Grosvenor.
- ⑦Mrs. Wood.
- ⑧Braddon.
- ⑨Mrs. Alexander.
- ⑩Onida.
- ⑪M. Rutherford's Deliverence.
- ⑫W. W. Jacobs.
- ⑬Many Cargoes.
- ⑭W. C. Russel.
- ⑮Daughter of Meth.
- ⑯Princess of Thule.
- ⑰J. Payn.
- ⑱W. H. White.
- ⑲Autobiography of Mark Rutherford.

求め、多數の作を残したるが、『ヘスの娘』『スーリーの公主』等を最も可とすべきが如し。デヴィムス・ベーンの特長は、對話の輕快、構想の新奇、崎古なる人物の現出等なるべく、其作何れも讀むに足る。特に一二を拾ふの必要なるべし。ウィリアム・ヘーン・ホワイトの小説には殆んど結構なく、自己の閱歷感想を巧みに言ひあらはして、自傳的の興味に充つ。『アーサー・クレスフィールドの自傳』及びその續篇なる『マール・クルサーフィールドの解脱』を傑作とす。ウィリアム・ワイマール・クデューコブスは海上生活を描きて、滑稽を旨とす。『積荷澤山』と題せる短篇集最も名あり。ウィリアム・クラーク・ラッセル亦海事小説家にして、『グロウヴノル』はその代表的傑作といふべく、寫實的なる海上の紀事に傳奇的なる冒險譚を結合せり。婦人の作者にはウッド、ブラッドン、アレクサンダー、ツイダ、其他尙ほ多し。更に新らしき時代の作者にてはサミュエル・ルサーフィールド・クロ

- (15)Crockett.
- (1)Raiders.
- (2)F. Anstey.
- (3)Vice Versa.
- (4)Weyman.
- (5)A Gentleman of France.
- (6)Gissing.
- (7)Demos.
- (8)Mulet.
- (9)Wages of Sin.
- (10)Leslie Stephen.

ケットは蘇國の人、傳奇的作風を得意とし、『レ・エー・ダ・ズ』以後盛んに筆を呵せり。エフ・アンスティは重みに『ヴァイス・ヴァーサー』と題せる父子入りかはりの奇妙なる滑稽物を以て名あり。其後も同種類の作を以て世間を喜ばせたり。スタンリー・ジョン・ワイマンは着實なる歴史小説家にして『佛國の一紳士』其他見るべき傑作を出せり。ジョージ・ロバート・ギッシングは寫實家として一方に重きをなす。其描く所は平板なる事柄なれど比較的に興味あり。『デイ・モス』其他甚だ多し。ルーカー・カスマレット女史はチャールズ・キングスリーの未女、名家の血統を耻かしめざる手腕を有す。『罪の賃』最もすぐれたり。(三)散文 同じく散文といへど其方面甚だ廣し。吾人は先づ吾人に最大の關係と興味とを有する所の文藝評論家につきて述べん。

レスリースティーンンの作は研究書目にも屢々擧げたるが、その各種の評論は犀利深厚甚だ貴重すべし。一八三二年に生れ、劔橋の出身、サッカリーの女を娶りしが、同

- (1)Edmond Gosse.
- (2)Studies in the Literature of Northern Europe.
- (3)English Literature, an Illustrated Record.
- (4)Essay on Free Thinking.
- (5)Hours in a Library.
- (6)History of English Thought in the Eighteenth Century.
- (7)Dictionary of National Biography.

接十年許にして之に先立たれ、後再婚せり。目下英國文學界並びに神學界の宿老として最も尊重せらるゝ一人也。其著述には『自由思想論』、余が屢々引用したる評論集『書齋の裡』、『十八世紀英國思想史』其他諸種の評論傳記等甚だ多し。又シドニ・リーと共同して、かの傳記文學の王と稱せらるゝ『英國傳記辭書』を編纂し、『大英國百科全書』の第十版にも數々寄稿せり。

エドモンド・ウィリアム・ゴスは一八四九年の出生、家庭にありて教育せられ、一八六七年より七五年迄は「大英國博物館」附圖書館の助手たり。又英米諸大學にて講演を試みたることあり。ゴスは頗る多方面の作者にして、屢々詩篇を出せしが、重きをなすものは蓋し文學上の評論なり。『北歐文學研究』、『十八世紀英文學史』、『近代英文學畧史』等其他多くを出し、近くはガーターと共同して、『英文學繪畫史』四巻を作れり。その本文は先きに出でたる『近代英文學略史』をそのまま引用したる所多けれど、

(1)R. Garnett.
(2)E. Dowden.

到る所に詳しき傳記を挿入し、又極めて貴重なる繪畫を挿入したるが故に、英文學研究者に趣味と實益とを與ふること甚だ大也。ゴスの文章は雄勁にして霸氣充溢し、一讀快を呼ばしむるものなり。

リチャード・ガートレットは一八三五年に生れ、本年に入りて物故ガートレット。一八五一年より九九年に至る迄數十年に亘りて「大英國博物館」に奉職して圖書を管理し、博學洽聞實に一代の珍たり。其永き生涯の間には、故人の著書の出版の外に、又評論傳記の多くを出し、近くはゴスと共同して『英文學繪畫史』を出したるは既にのべたるが如し。

エドワード・ダウデンは一八四三年を以て愛蘭土のホルクに生れ、ダウデン。ダブリンのトリニティ大學を卒業し、やがて同大學の英文學教授となりぬ。其著作が英文學研究者に絶好の指鍼たるもの多きは世人の皆知る所、其重なるものは皆本書中に擧げられたるは略して載せず。

(1)G. E. B. Saintsbury.
(2)History of Criticism and Literary Taste in Europe.
(3)S. A. Brooke.
(4)Primer of English Literature.
(5)S. Lee.

ジョージ・エドワード・ベイトマン・セインツベリイは一八四五年の出生、牛津大學の出身也。一八九五年エディンバラ大學に聘せられて、修辭學及び英文學を教授す。其學識は甚だ深きも文章は拮据にして良好なりといふ能はず。佛蘭西文學に關する著述の外に『エリザベス朝文學史』、『十九世紀英文學史』、參考書として手頃なる『英文學略史』浩瀚なる『歐洲批評及文學的趣味の歴史』其他の有益なる批評、傳記等を出せり。

ストップフォード・オーガスタス・ブルックは一八三二年を以て生れ、ブルック。本業は牧師なれど又英文學者として重きをなす。その一八七八年を以て出せる『初學用英文學』は片々たる『英文學史』、一八九四年出版の『英文學史』等何れも充分參考の價値あり。ブルックは又詩集をも出せり。

シドニー・リーは先きに擧げる『英國傳記辭書』の編輯者たる外に、

沙翁の傳記につきて窮極的討究をほととし、『最古より沙翁の死に至るストラットフォード』『沙翁傳』を出したり。

政治家中にて文筆を以て知らるゝもの亦尠なからず、曰くウィリ

其他の アム・グラドストン、曰くロイズベリイ卿、曰くデ

散文案 ムス・ブライス、曰くアイサー・デ・エームス・バルフォア、

曰く、ウィリアム・レッキ等是也。されど、就中文名の最も高きは

ジョン・モリーイなるべし。現に内閣の一員として有名なる政事家な

れど、文學者としても亦最高の地位を占め、パーク、ルソー、

ヴォルテア、コブデン、マキアヴェリイ、クロムウエル等の評傳を

作りて筆法最も鋭く、近くはグラドストン傳を出して一代を動か

たるは世人の皆知れる所なり。又其管理の下にかの有名なる『英國

文士評傳』叢書を出して、英文學に貢献せる所甚だ大なり。其他、

史學、神學をはじめ雜種の問題につきて述作を殘せるものには、ウ

- ①Statford-on-Avon from the Earliest Times to the Death of Shakespeare.
- ②W. Gladstone.
- ③Lord Rosebery.
- ④J. Bryce.

- ⑤A. J. Balfour.
- ⑥W. Lecky.
- ⑦J. Morley.
- ⑧English Men of Letters Series.
- ⑨W. Bagehot.

オルター・バジョット、ゴールドウイン・スミス、フレデリック・ハッリ
スン、リチャード・ウィリアム・チャーチ、リチャード・ホールト・ハット
ン等あり。

(研究書目)

(一)詩歌

(a) オースティン

Poetical Works of A. Austin, 9 vols. (Chicago) 散文の作も皆マクミラン社にて出版
せられたり。

(b) アーノルド

Poetical Works of E. Arnold, 8 vols. (Pault) 其他アーノルドの作は多く同社に
て出版せられ、殊に『藍細草の光』は種々の刊本あり。

(c) ノットスン

Collected Poems of Watson (Janne)

The Year of Shame. (全上) 其他皆同社にて出版せり。

(d) ファリップス

Poems (Janne)

Photo and Manuscript : a Thy. (全上)

- ①G. Smith.
- ②F. Harrison.
- ③R. W. Charch.
- ④R. H. Hutton.

- Herod: a Tragedy.* (全十)
- Ulysses: a Drama in a Prologue and Three Acts.* (全十)
- Marpessa.* (全十)
- (c) くハルマール
- Book of Verses* (Smith).
- For England's Sake: Verses and Songs in War Time.* (全十)
- Poems.* (全十) の中には *Book of Verses, London Volunteers (Song of the Sword)* 等を
収めたり。
- (f) 其他の詩人—
- Bridge's Poetical Works, 4 vols.* (Smith).
- Tabley's Orpheus in Thrice and Other Poems.* (全十)
- Davidson's Plays* (Taine.)
- " *Ballads and Songs.* (全十)
- " *New Ballads.* (全十)
- " *Real Street Dialogues, first and Second Series.* (全十)
- Symons' Poems, 2 vols.* (Heinemann).
- " *Introduction to the Study of Browning* (Cassell)
- (11) 小説
- (ii) キップリング—

Novels of Kipling (Amenihan.) の刊本は時價各々三四許のものなるが、米國邊にて安價に出版せるもの多し。こはキップリングのみならず、他の作者にありて大抵然るものと知るべし。

- Heracle Hoop Ballads* (Mehnen.)
- Seven Seas.* (全十)
- Kipling Primer* (Chitto.)
- (b) ハンムヤー
- Works of Hardy* (Harper).
- (c) ヌサント
- Works of Besant* (Chitto.) 同社出版の中にも種々の種類あり。又 Harper. 其他の書籍にても出版せり。
- (d) カハガムール
- Works of Heygort* (Tongmans).
- (e) スムール
- Auld Ticht Higgs* (Houlder).
- A Window in Thyruus.* (全十)
- The Little Minister* (Cassell).
- Sentimental Tommy.* (全十)
- Tommy and Trizel.* (全十)

- (F) エーナー—
A Study in Scandal (Ward and Lock.)
Micha Charles (Lojginnus).
White Company (Smith).
The Refugees (Longmans).
Adventure and Memoirs of Sherlock Holmes (Newnes, Harper).
The Exploits of the Brigadier General (Newnes, Appleton.)
- (G) ターナー—
Statore of a Crime, Densler (Chatto).
Mansman, Christau, Eternal City, &c. (Heinemann).
- (H) キートン—
Prisoner of Zenda (Arrowsmith, Holt).
Rupert of Haulzon [Sequel]. (☆ 斗)
The Dolly Dickwags (Nisbet, Holt).
Comedies of Courtship (Innes, Scribner).
Quinté (Methuen).
- (I) ハーバート—
Works of Corch (Cassell).
- (J) トランドル—

- Ivan Greel's Masterpiece, &c. (Chatto).
- Tweche Tales (Grant Richards).
- (K) ハーランド—
Works of Ward (Smith).
- (L) 邦題の不明—
Blackwood's Torra Doone (Low, Harper, &c.)
Black's Works (Low, Harper).
Payne's Works (Chatto).
" Vol Wood, but Von (Ward).
" Heir of the Ages (Smith, Harper).
W. White's Works (Urwin, Cassell).
Jacob's Many Gargoes (Lawrence and Bullen).
" Skipper's Wooling (Pearson).
" See Urchins (Methuen).
Russel's Wreck of the Grosvenor (Low, Caldwell).
Mrs. Wood's Works (Macmillan).
Breddon (Mrs. Maxwell's Works (Simpkin).
Mrs. Alexander's Wooling Of (Lane).
" " Her Dearest Foe. (☆ 斗)

Quilts Under Two Flags (Chitto).

” *Signn.* (全 4) 彼の女性の作と同社にて出版せり。

Crockett's Raiders (Unwin).

” *Boy-Myrtle and Peal* (Sandls).

” *Grey Man* (Unwin).

” *Kil Kennedy* (Clarke, Harper).

Anstey's Vice Versa (Smith, Appleton). 其他の作と皆 Smith. にて出版せり。

Weyman's Gentlemen of France (Longmans).

” *Under the Red Robe.* (全 4)

Gissing's Demos : A Story of English Socialism (Smith).

” *Neller World.* (全 4)

” *Whirlpool* (Lawrence & Bullen).

Macle's Wages of Sin (Methuen).

(III) 雑誌

① *サントリーマン*——

Hours in a Library, 3 vols. (Smith).

A History of English Thought in the Eighteenth Century, 2 vols. (全 4)

Dictionary of National Biography, with Lee, 66 vols. (全 4)

其手に成れる雑誌類は抽出のみの多きは略す。

② *キク*——

Critical Kit-Kats (Heinemann).

Gossip in a Library. (全 4)

Seventeenth Century Studies. (全 4)

Northern Studies (Scott).

English Literature, an Illustrated Record, with Gannett, 4 vols. (Heinemann).

In Russel and Silver. (全 4) 雑誌。

英文学史類は他に挙げたるが故に略す。

③ *カントリークラブ*——

其手に成れる英文学史類、評訳等は略す。

Idylls and Epigrams (Mae).

Essays of an Ex-Librarian (Heinemann).

Age of Dryden (Bell).

History of Italian Literature (Heinemann).

④ *キタノ*——

History of French Literature (Heinemann).

Studies in Literature, 1789-1877 (Paul).

New Studies in Literature. (全 4)

Shakespeare : a Critical Study of his Mind and Art. (全 4)

- Shakespeare Primer (Alnc).
- Transcripts and Studies (Paul).
- ② キーランドヤカー——
- History of Criticism and Literary Taste in Europe, 3 vols. (Blackwood).
- Flourishing of Romance and the Rise of Allegory. (G: F)
- Essays in English Literature, 1780-1860 (Livingtons).
- Essays on French Novelists. (G: F)
- Miscellaneous Essays. (G: F)
- Corrected Impressions: Essays on Victorian Writers (Jleimann).
- ④ トナント——
- Tennyson (Isbister).
- Development of Theology, as Illustrated in English Poetry from 1780-1830 (Green).
- King Alfred (Alnc).
- Dove Cottage, Wordsworth's Home, from 1800-1808. (G: F)
- Short Sermons. (G: F)
- Poems. (G: F)
- ⑤ ————
- Stratford-on-Avon (Seeley).
- Life of Shakespeare (Smith).

Shakespeare's Handwriting. (G: F)

⑥ 其他の散文家——

Morley's Works (Alnc).

Milton's Literary Essays, and other Works. (G: F)

Bagehot's Literary Studies (Longmans).

Harrison's Choice of Books, and other Works (Alnc).

Lecky's Works (Longmans).

Smith's Works (Alnc).

Bryce's Works. (G: F)

Church's Works. (G: F)

Balfour's Essays and Addresses, and other Works (Doughlas).

Gladstone's Works (Alnc).

余が参考せる英文學史類

本書の編述に當りて余が参考に供したる各作家の評論、傳記類は每篇若くは毎章の終に附したる「研究書目」に略ぼ擧げ盡したり。爰には英文學の全般に互る所の参考書を掲ぐ。但し數年前に繙讀して今は記憶を脱せるもの、又は目下手元に存在せぬものあれば、一部の脱漏は免れ難し。

- S. A. Brooke: English Literature, from 670 to 1892. (Macmillan). 紙數僅かに百六十頁餘、簡にして要を得、初學者にとりて好參考書なり。
 - H. Morley: A First Sketch of English Literature (Cassell). 編年體の文學史にして紙數一千一百二十一頁、最古より現今に遡す。文章平明にして叙述懇切也。
 - G. Saintsbury: A Short History of English Literature (Macmillan). 飽まつ事實を充填し讀みて愉快ならねど、參照には甚だ便也。紙數約八百頁。
 - H. S. Pakenst: Introduction to English Literature. (Bell). 文章流暢多辯、各時代の代表的作家のみを論述し、又簡單なる研究題目をも擧げて一應便宜に出來て居わり。紙數五百頁餘。
 - Dr. Morell: A Biographical History of English Literature (Holtken). 紙數約五百頁、所々參考すべきものあり。
 - H. A. Taine: History of English Literature. (Chatto, G. P., & Co.) 缺點あると同時に價值の莫大なるは世間既に定評あり。
 - S. A. Brooke: English Literature from Beginning to the Norman Conquest (Mac).
 - G. Saintsbury: A History of Elizabethan Literature. (全上)
 - E. Gosse: A History of Eighteenth Century. (全上)
 - G. Saintsbury: A History of Nineteenth Century. (全上)
- 以上の四冊は續々物と見るべく、それ／＼一方のオーソリテイとして貴ぶべし。

- Gosse and Garnett: English Literature: an Illustrated Record, 4 vols. (Heinemann). 従來あらはれたる文學史中最も出色の大著にして、其中に挿入せる諸作家の肖像原稿、原稿、住宅、手蹟等の繪畫は鮮明なきはむ。英文學の趣味を注入するに力あり。但し本文はいさゝか概説に過ぎたるが如し。
 - E. Gosse: Modern English Literature (Heinemann) 世界文學史叢書の先頭として出たるもの、斷論明快にしてよく大綱を捕へたり。本文は前記の同著者の繪畫史中に再用せり。
 - Chambers: Cyclopaedia of English Literature, 2 vols. (Chambers). 評傳の外に多くの抜萃をあけて便利也。
 - Mrs. Oliphant: Literary History of England, 3 vols. (Macmillan).
 - Baker: Guide to the Best Fiction (Sonnenschein). 英國の小説をはじめ、米國、蘇國、愛蘭、其他大陸小説の英譯を網羅して梗概をのへ、出版書肆を示し、小説編讀者にとりて至便の良著也。
 - Encyclopaedia Britannica, 9th and 10th Edition. 英文學研究者にとりても貴重の文字多し。余は屢々參考せり。
 - Sharp: Dictionary of English Authors (Kegan Paul). 邦人には餘り役に立たず。Who's who. の如き書き方也。
 - Who's Who (Adams & Charles Black.) 現存知名の士は之にて大略を查へ得たり。
- 英國小説史、戯曲史等は、大抵「研究書目」に擧げられたれば爰に略す。

英文學史終

附錄

米國文學史

英詩之種類及韻律法

米國文學史

總論

米國文學の範圍——その英文學との關係——その特色——植民地文學との比較——時代の區畫

米國文學なる語は、字義のまゝに解せば甚だ廣けれど、通常北米合衆國に生れし文學を指す。加奈陀、ブラゼイル、メキシコ等の文學を含まず。又その時代も歐洲人民の移住以後に限られ、其以前に溯りて亞米利加印度人間に發生したる文學を其中に入るゝことなき也。換言すれば北米の植民地に勃興したる英文學の枝脈のみ、連續のみ。政治上には米國は全く其母國と獨立してより既に已に一百餘年、方今國運の隆々たるは全世界の耳目を聳動するものあれど、文學の方面に於ては、流石に勢力絶倫なる米國人士も如何ともなし難く、今尙ほ全然英文學の勢力の外に超越し得たりとは言ひ難きものあ

所謂米國文學の範圍

り、年を重ぬるに、從ひて、益々其特色を發揮し、來れるは、争ふべからざる事實なれど、眞に世界の、大文學として、先進諸國と比肩し得ん日は、尙ほ數世紀の後に、あるべし。

かく米國文學は其土地に發生せりといはんよりも、寧ろ移植せるものなれば、東西諸舊國の文學と頗る趣を異にするは言ふまでもなき也。米國は國としては新らしき國なれど、その人民は新らしき人民ならず。さればその文學は人文發達の自然的階段を反映せず、或る種類の文學の如きは全然缺乏せり。例へば古朴なる民謡、純粹の國民的敘事詩の如きは是也。さはれかくの如きは、獨り米國には限らざる也。英國民は全世界に膨脹し、濠洲、加奈陀其他到る所に有力なる植民地を形成しつゝあり。是等の諸地に發生せる文學はほゞ米國文學と同一條件の下に在りといふべし。但し先進諸國の文學に比較してこそ米國文學は貧弱にして且つ其特色も著しからぬ、所謂植民地文學に比すれば、嶄然として頭角を抜くものあり。米國文學者中

- (1) Irving.
 - (2) Cooper.
 - (3) Poe.
 - (4) Emerson.
 - (5) Hawthorne.
- (6) Longfellow.
 - (7) Lowell.

の先達ともいふべきフランクリンをはじめ、アイザック、クリバ、ポー、エマースン、ホーソルン、ロングフェロー、ローエル等の諸家は廣く世界に名を知られ、何れの文壇に押し出すとも確かに一方の雄たり。余は今米國文學を左の三章に分ちて簡單に敘述せんとす。即ち第一章植民時代、第二章革命時代、第三章近代是也。而して第三章は敘述の便宜上更に之を數回に分割して説くべし。

第一章 植民時代

(一六〇〇年—一七六五年)

代表的植民地—ヴァージニア—マサチューセッツ—中部植民地—フ
ランクリン—其著作と人物—(研究書目)

英人が初めて米國に永久的植民地を建設したるは一六〇七年はし
て、チェサピーク灣の附近なるデュームズタウン即ち是也。第二に
作られたる植民地はマサチューセッツ灣のプリマスにして、その創
設は一六二〇年のことにかゝれり。前者は南部植民地
の代表者なるヴァージニアの起源、後者は北部ニ
イングランド植民地に最も勢力あるマサチューセッツの根源たり。是
等の兩植民地は全然反對の性質を有し、米國人士の兩面の大特質を
代表す。こはつまり母國たる英國の當時の状態の反映に過ぎず。十
七世紀の英國は王黨と民黨、國教と清教との反目嫉視の舞臺にして、

- (1) Chesapeake Bay.
- (2) Jamestown.
- (3) Massachusetts.
- (4) Plymouth.
- (5) Virginia.

南部の特色

- (1) Patrick Henry.
- (2) R. H. Lee.
- (3) Washington.
- (4) Marshall.

北部の特色

一世紀の間に全然正反對の時期を劃せる次第は既に英文學の叙述
中に盡せる所也。大體につきてのぶれば、ヴァージニアの植民地は
重もに浮華にして現世的なる王黨系に屬す。爰に植民せるものは初
めより富と力とを獲得するを目的とし、而して其氣候の溫暖にして
土地の豊饒なるは、よく彼等の目的に適ひ、宇内の富力は實に爰に
集まれるの觀あり。かゝる土地に學問文藝等の發達する筈な人
は皆詩を作るかほりに田を作りしが、同時に此富大なる土地は勇敢
にして義氣にとめる大事業家、大將率を生み、バトリック・ヘンリー、
ワシントン、マフィシャル等の英傑を數ふべし。又、ニュー・イ
ングランドの植民地は全然嚴格にして、自由を愛する所の清教徒系也。
かゝる人民なれば彼等は頗る學問を尙ひ、ハーヴァード大學の如き
は早くも一六三六年に創立せられぬ。而して北部の冷かなる氣候と
無人の森林とは彼等をして自から經營力作の人たらしめ、南部の人
民が各地に割居して農耕を事とせると異なり、早くより市街生活を

營み、自治の制度を敷きて今日の米國共和政府の根底を作れり。されど彼等も亦大文學を作るには餘りに宗教的にして、其弊は偏狹固陋に陥り、彼等の手に成りたるものは例へば瘦土に生い出でたる草花の如く、甚だしく垂み、甚だしく匂薄かりき。彼等の間より大文學者を生むに至れるは遙かに後の世のことなり。

上にのべたるマサチューセッツ及びヴァージニアの二植民地は米國を形成せる二大要素なるが、尙ほ他にも看過すべからざる植民地あり。中部植民地是也。英國國民が南部及び北部に根據を作りつゝありし時、和蘭及び瑞典の兩國國民はバドスン河口附近の良港灣を選定し、爰に盛大なる貿易地を作れり。後ち蘭英兩國開戦の結果同地は全然英國の有に歸したれど、其人民の混淆は依然として残り、而して紐育市は重もに貿易の中心として知らる。ペンシルヴェニアの起原は又大に之に異なれり。創立者ウィリアム・ペンは米國植民の歴史に忘るべからざる人物、ニューイングランドが宗教に關して排外的

中部の特色

(1)Pennsylvania.
(2)W. Penn.

(1)Philadelphia.
(2)Benjamin Franklin.

なると全然相反して、ペンシルヴェニアは各宗派の人士の避難地たるの目的を以て創立せられ、従つて此地に集まれるものは獨逸、蘇格蘭、愛蘭、其他烏合の衆を網羅せり。されば大體に於ては文化の普及遅々たるを免れざりしが、唯だフィラデルフィアは最初より科學の發達を以て知られ、印刷所は早くも一六八六年を以て創設せられ、學校の設備の如きも他に先じたり。

以上は米國植民地の概況なるが、要するに彼等は多忙なる新天地の開拓者にして到底其間に優れたる文學を生み得る筈なし。米國人士より見れば、割愛し難き文士も多少存すべきも、吾人はたゞ鶏群の一鶴たるフランクリンに就きて説かば足りぬべし。

ペンジャミン・フランクリンは其長き生涯を以て植民時代と次ぎのフワン 革命時代とに跨る。渠は石鹼及び脂蠟燭製造人の子、クワン 一七〇六年を以てボストンに生れぬ。早くより學才を露はせしも、家計元より豊かならねば十歳の時より家事に追ひ使

(1) Busybody Papers.
(2) Pennsylvania Gazette.

はれて正式に勉學の機會とてなかりき。かゝる境遇に在り乍ら、閑を見て修養をつみしは其頭腦の異常に敏活なるを見るに足る。その少時に愛讀せる書籍はバンヤン、アディソン、シャフツベリイ、コリンズ等十八世紀の英國作家にして、ニョーイングランドの産ながら其宗教に對する觀念は頗る自由なりき。やがて印刷を業とせるその兄の許に徒弟となり、その間に兄が發行せる新聞紙に匿名を以て寄稿せることありき。されど幾もなくして家兄と喧嘩し、これよりフィラデルフィアに赴きて獨力生計の途を開かんと決心しぬ。當時のフラシクリンが懷中僅かに銀一弗、銅一志を有せるに過ぎざりしこと、それより英國に渡航して留まること十八ヶ月許、母國の人情風俗と思想とに接觸せること等の物語は世人の普く知る所なれば爰に叙述するの必要はなかるべし。一七二六年フィラデルフィアに歸りて印刷所を開き、自から筆をとりて『ペンシルヴェニアガゼット』を發刊し、次ぎて『ペンシルヴェニアガゼット』を發刊し、アデ

(1) Junta. (2) Pennsylvania Gazette.

イスンの筆致に學びて世を警め、俗を諷せる論文を草せしが、其文學的價値は元よりアディソンに匹敵すべくもあらざりき。爾來フラシクリンは非凡の公共心と旺盛の氣力と普遍なる趣味とを以て社會の爲めに努力し、或はデントー俱樂部と稱する哲學研究會を組織し、或はフィラデルフィア圖書館を建設し、又ペンシルヴェーニア大學の創立に努力し、更に他面に於ては科學の爲めに盡力し、紙鳶を飛ばして電光を試験せるの一事は就中著名の事實たり。一七五七年にはペンシルヴェーニアより派遣せられて英國に赴き、五年間滯在中にヒューム、ロバートソン等の歴史家をはじめ其他知名の士と會合し、更に一七六五年を以てペンシルヴェーニアを代表して英國に赴きしが、當時英國と植民地との關係は已に危殆に瀕し居しかば、フラシクリンの使命は益々重大を加ふるに至れり。翌七六年フラシクリンは合衆國の大使として佛國に簡派せられ、同國滯在中社交上並び政治上に收め得たる成效は前後異數と稱せら

(1) Autobiography.
(2) Poor Richard's Almanac.

る。一七八五年老衰の餘本國に歸り、世人の敬愛と尊奉の裡に向ほ
五年の有益なる生活を送り、一七九〇年八十四歳の高齡を以て歿せ
り。

フランクリンがその長き生涯の間に書き残したるものは頗る大部
その著作 けれど、其多忙なる四圍の状態は渠をして文筆の研鑽
と人物 に心を專にする能はざらしめたるは言ふ迄もなく、其

大部分は、書簡にして文學として見るべきにあらず。渠の作家とし
ての名聲は重もに其「自傳」にかゝる。此書は未完にして、一七五
七年、フランクリンが第二回の英國行の時代に達せるのみなるが、
其文體は雄勁平明極めて實用的にして、何等の矯飾もなく有りのま
ゝに其天真を露出し、多大の教訓と又之に譲らざる興味とを與ふ。
こは我邦の讀者も普ねく知悉せる所なるべし。「プリアリチャルズ・オ
ルマナック」は渠が廿五年に亘りて刊行せるもの、プリアリチャルド
なる假設的人物の名の下に極めて實利的なる處世の方針を説き、自

フランク
リンが
その
生
活
の
代
表
的
人
物

傳につぎて此人物の性格を窺ふに可なり。フランクリンは往々亞米
利加式の平民の好典型と稱せらる。其實用的學問、その抜目なき天
稟の機才、其正直、其愛國心等々に所謂真正の米國氣質を代表せる
ものといふべし。されど同時に渠は十八世紀英國民の代表的人物也。
其懷疑的にして飽まで常識に富み、詩歌よりは散文を喜び、信仰よ
りは理論を好めるは寧ろシャフツベリイ、アディスン、ボープの亞
流にして、出世間的、狂信的なる當時のニューイングランドの人士
とは相距ること甚だ遠きを見る。蓋し渠は純然なる米國式と稱する
には廣きに過ぎたり。その生れたる世紀の人物也。

(研究書目)

詳しく此時代を查へんには

American Literature, by Richardson (Putnam).

History of American Literature, during the Colonial Period, 1607-1765, by Tyler. (全上)を推す
べし。

Library of American Literature, by Steadman and Hutchinson, 10 vols. (Webster & Co.) 此書は

獨り此時代のみならず、米國文學の全般を查べるに最も可なり。評傳の外に多量の抜萃あり。

Introduction to American Literature, by Pancoast (Henry Holt).

American Literature, by J. Hawthorne (Heath).

American Literature, by Trent (Heinemann).

等の文學史は皆簡單に米國文學を説きたるもの、植民時代其他の時代の好考書也。

フランクリンの作は

Autobiography, with notes, by Higelow (Putnam). 最も出色の評あり。我邦にも刊本多し。

フランクリンの評傳は

Franklin, by Higelow (Lippincott).

Franklin, by McMaster, A. M. L. Series (Houghton).

其他尙ほ多し。

第二章 革命時代

(一七六五年—一八〇〇年)

此時代の概観——散文——小説——詩歌——(研究書目)

米國獨立戦争が持續したるは一七七五年より一七八三年迄の七年間なれど、その米國人士に與へたる影響は決してこの七年間に止まらざる也。何となれば思慮深遠なる人士は此戦争の開始以前より既に此問題に心身を悩まし、又平和克復以後にも米國人士の頭腦は愛國と獨立との二大勢力に司配せられたれば也。されば余は十八世紀最終の三十餘年を以て米國文學の革命時代とす。

此戦争は人道の擁護、正義の主張より生れたる戦争にして、其將此時代の概観とめず、なべて教育あり、智力ある紳士にして、英國

若くは佛國の革命に見しが如き煽動家、野心家と同一視すべくもあ

(1) Jefferson.
(2) Adams.
(3) Hamilton.
(4) J. Otis.

此論の時代は多し
演説の時代は多し
見し多し

(5) Patric Henry.

らず。かのワシントン、デモファースン、アダムス、ハミルトン等は如何なる時世に生れたりとて清き聲名を博し、高き地位を占め得べき人々なりき。されど人間の能力が外界の事業に集中せる間には、概して哲學、文學の如き人心内部の事業は發達する能はざる也。かくの如くにして此時代の米國には純文學者として偉大なるはなかりき。概して言へば、此時代は手取り早き言論の時代にして、比較的巧みあかぬ筆墨の時代にあらず、詩歌文章よりは演説に見るべきもの多し。たゞ演説は其の音聲態度等と相待ちて初めて有力なるものなれば、筆記録を見たる丈にては到底其眞價を伺ひ難きが上に、速記術の發達せざる當時にありては、さながらに之を傳ふるによしなく、今日吾人はたゞ其斷片を伺ひ得るのみ。デエームス、オロティス、サミューエル・アダムス、パトリック・ヘンリー等の能辯も大方は傳説に過ぎざる也。若しそれ演説以外の散文は其分量決して尠なからぬと概して政治的臭味を帯び、實用を旨として形式の蕪雜を免れざるが

(1) The Federalist.
(2) Madison.
(3) Jay.
(4) Thomas Jefferson.

多く、詩歌、小説の類も見るに足らず。吾人は單に一瞥を與へて次ぎの時代に移らむ。

當時の政治的論文中好標本を以て目せらるゝものは『フェデラリスト』に載せたる論文は革命戰爭終了の後に作られたるものにして、其目的は憲法を採用して各州の連合を一層強固ならしめんとするに在り。常識に富みたる米國人士の面目を伺ひ、併せて彼等の成就したる政治的組織を會得するにこよなきもの也。ハミルトン等の反對派の首領として、第三回目の大頭領に選ばれしトマス・デューファースン亦當時の論文家の貴重なるもの也。學問にかけては當時の第一流たる能はず、文章家としてはフランクリンの下に墜ち、人品の高

米國獨立の
布告文

①Charles Brockden Brown.

下より言へばワシントンに劣るも臨機應變の才氣に富み、時代の要求を満足せしむるの能力に至りては蓋し何人にも優れり。一七七六年を以て世に出せる、かの米國獨立の布告文は即ち此人の筆に成れり。文章としては些末の瑕疵を免れざれど、實際上及び又理論上より人權の尊重せざるべからざる所以を論斷して、氣焰萬丈、世界に於ける不朽の大文字たり。その他渠の作は皆時の必要に迫られて成れるもの、毫も文學上の目的を以てしたるにあらねど、今尙ほ生命を有するもの尠なからず。其書簡の如き、又その自傳の如き是也。渠の自傳は、フランクリンの自傳に比すれば人を引着する魔力に於て及ばねど、話説の簡潔と感想の哲學的なるを以て優れたり。小説家として見るべきものは僅かにチャールズ・ブロッケンブラウの『ウインあるのみ』。實際上渠は米國小説の祖と見て差支な小説ありし。一七七一年を以てフィラデルフィアに生れしが、身體虛弱にして常に陰鬱怪奇なる感想にのみ耽り、一七九八年より

①Wieland.
②Ormond.
③Arthur Mervyn.
④Edgar Huntly.
⑤P. Freneau.

⑥Indian Burying-ground.

未だ學上には
獨立せ

數年の間に六篇の小説をものせり。『ウィリアム・ラランド』最も名高く、『オルモンド』、『アーサー・マーズ』、『エドワード・ハントリー』等之に亞げり。舞臺は皆米國にちかれたれど、其作風は未だ全く獨立するに至らず、大に英のラドクリフ夫人、僧のルイス、さてはウィリアム・ゴットウィン等の感化を受け、好みて畏怖、不可思議の念を挑撥せんとす。其想像力と描寫力とは取るべきものあれど、その感情の虚偽にしてそらくしく、その結構の錯亂紛糾を極めて往々小供騙しに終り、殊に人物の性格の明かならざる、到底今日の讀者に多大の満足を與へ難し。

詩歌も亦同じく甚だ幼弱にして、好みて自國の獨立を歌ひ、自由を歌へど、其形式は皆英詩の模倣にして、取り出で、言ふに足るものなし。政治的に獨立せる米國は、文學

上には未だ獨立するに至らざりし也。たゞ是等模倣詩人の中に在りて時に眞詩を作りしをフィリップ・フレノーとなす。『印度人の墓場』

- (1) Wild Honeysuckle.
- (2) On the Ruins of a Country Inn.
- (3) Indian Student.
- (4) F. Hopkinson.
- (5) Battle of the Kegs.

「野生の忍冬」、「田舎旅亭の墟」、「印度學生」等は何れもその獨創の才を見るべく、米國文學中に不朽の痕跡をとどむるものといふべし。但しかる傑作は其分量極めて少なく、其作の大部分は、政治に關し、時事を諷し、概して一時的の性質を有す。

フランシス・ホプキンソン其子ジョージ・ホプキンソンは共に格別の詩才なきも、前者は「桶の戦」と題せる諷詩を以て記憶せられ、又後者は「バルジロムビア」の國歌を以て記憶せらる。

(研究書目)

- 一般の參考書類、按考類は此第一章の研究書目を見よ。
- Federalist* (Lippincott).
 - American Antiquology*, 1787-1839, edited by Steedman (Gay & Bird).
 - Novels of Brown* (Polock).
 - Literary History of American Revolution*, 1765-83, by Tyler (Putnam).
 - American Orations*, 4 vols. (同上)
- 此時代の歴史には
American Revolution, by Fiske (Jinec).
Critical History of American Revolution, 1765-83, by Fiske (Gay & Bird) 等あり。

第三章 近代

(一八〇〇年—一九〇〇年)

此時代の概観

米國の獨立と文學の關係——中部、北部、南部、西部の代表者——近代米國文學の目標

以上説きたる二期は事業の時代也、戦争の時代也、又政治の時代也。たゞ一二の文學的述作はあらはれしも、そは單に偶發的にして、眞に一般の機運が之に向ひしにはあらざりき。されど一七八七年憲法の制定以來米國共和政府の基礎は日に月に強固を加へ米國人士の胸裏には自信と抱負とを生じぬ。最初共和國を形成せしは十三州なりしが、十八世紀の末までにヴァージモント、ケンタキイ、テネシの三州を加へ、一八〇一年にはルイジアナの購買となり、其翌年にはオハイオの加入となり、更に第二次の獨立戦争に勝

ちて米國は磐石の上に立つに至れり。爾來其領域と國運とは疾風迅雷の速度を以て増大し、而して米國の國粹を發揮せる文學もこの間に發生したり。今までとてもフランクリン、フレノー、ブラウン等の作者は見るべき述作を残し、其名は多少海外にも聞えぬ。されど大體に就きて言へば、未だ世界の文學に著しき貢獻をなせりとは言ひ難く、米國を離れてはさまで重きを成すに足らざりき。このあはれむべき狀況は十九世紀に入るに及びて漸く一變せり。

米國が先づ世界的文學を生みたる地方は中部諸州にして、アーヴィングを先頭とし、クーパー、ブライアント等の作者之につゞけり。既にして文權はニューヨークに移り、エマーソン、ロングフェロー、ホーソルン、ロイエル、ホームズ、ホイットィアー等最も貴重なる文士は皆この地方に出でたり。南部は既に概論にも一言せるが如く文學の産地にあらざりしが、尙ほかの天下の鬼才ホーを生みぬ。近時に至りては西部も漸く文學の地となり多少見るべき詩人小説家

近代の目標

(1) Washington Irving.

を出せり。之を要するに米國文學の産地は次第々々に擴張しつゝあり、而して今尙ほその擴張の中途に在りて、甚だしく混亂し、しきりに動搖す。アーヴィングが一八〇九年『紐育史』を出して米國近代文學の目標を立て、より、爾來殆んど二百年、其間には種々雑多の機運を孕み、傾向を生じ、又地方的關係よりも諸種の流派を生じたれど、一々之をさぐらんは却つて繁雜に陷る。吾人にありてはたゞ米國文學の英を拾ひ、華を吸はゞ足る。因て余は別に區別を設けず、又流派を問はず、單に小説、詩歌、散文の順序によりて傑出せる作者を説かんとす。

(一) アーヴィングとクーパー

アーヴィング—その経歴—英國滞在—西班牙滞在—その後—その作風—クーパー—その経歴—その作の種類—その長短—(研究書目)

米國文士中初めて世界的名聲を博し、實際上米國文學の祖を以て目すべきものをワシントン、アーヴィングとす。作者としての性質よ

アイヴィン
の人品と
性質

り言へば甚だ異なれど、其地位關係より言へば、略ぼ英のチ、
に相當すといふべきか。アイヴィングは一七八三年四月三日を以
て紐育に生れぬ。父は元蘇國の産、最も嚴格なるブレ
インゲ スピテイリアンにして、人生に於て快樂を享くるを
以て罪惡と思惟するきはの人物なりき。されど母は英人にして心飽
までやさしく、而してアイヴィングは、十一人兄弟中の末子にして、
體質も繊弱なりしかば、かゝる家庭にあり乍ら頗る愉快にして自由
なる生活を營むことを得、碌々學校にも通はず、しきりに四邊の山野
を跋渉し、又家人にかくれて芝居見物をもなしぬ。若かりし日のア
ーヴィングは、品位愛嬌兼ね具はれる紳士の好標本にして、身材高
からず、又低からず、形よき頭部は濃褐色の毛髪に掩はれ、隆起せ
る前額と優美なる眼臉とは機智と温情とを湛へたるその兩眼の上に
かゝり、鼻筋通り、口元愛らしく、顎はやゝ怒りたるが、そのいか
にも心地よく調ひたる音聲と、うれしげなる微笑とは、一と方なら

(1) Paulding.
(2) Salmagundi.
(3) Matilda Hoffman.

その失戀

ずその人品を高雅ならしめぬとは傳へらる。かれの性質は亦よく此
容貌に協ひ、渠を識れる一婦人は「態度といひ、心ばへといひ、殘
る隈なき紳士也」と激賞せり。誠に渠は氣分なだらかにして、優さし
く面白く、機智常に頤をつきて出て、座談に巧みに、交際に長じ、朋
友としては誠深かりき。されば内國にありても、又海外にありても、
行く所として第一流の人物より歓迎され、愛顧されずといふことな
く、古來文學者として渠が如き圓滿の好紳士は稀なりき。
アイヴィングはその二十一歳の時を以て歐洲漫遊の途に上りしがや
がて一八〇六年を以て歸國し、其兄ウィリアム、その友ポールディン
グと相共同して『サルマグンディ』と題する雜誌を刊行しぬ。その
文體はアディスンに學び、時俗の陋を嗤ひ、惡を諷するに在りしが、
久しからずして廢刊せり。アイヴィングの失戀譚は即ち當時の事に
屬す。渠に日頃愛着せる少女あり、名をマティルダ・ Hoffman といひ、
未は借老を契りしが未だ結婚するに及ばずして件の少女は肺患の爲

(1)History of New York.

めに敢なくなりぬ。アイヴィングは終生此心の疵より全く回復せざりしもの、如く、生涯獨身を守りたるが、文學を以て生命とせるアイヴィングに取りては、こは穴勝無益の経験にてはなかりき。此苦き経験は、大陽の光充ちたる、この愉快なる人物の胸に、幾分か涙の雨を宿らせ、愁の雲をかいらせ、其述作の上に變化と色彩とを加ふるの作用をなしたり。

一八〇九年は米國文學史上紀念すべき年也。何となれば此年を以てアイヴィングの最初の傑作『紐育史』が出版され、

傑作 れば也。和蘭人時代の紐育の歴史にして、半ば、滑稽を主とし、筆墨飛動、機智縱横、英のスコットの如き、之をその家族に讀みさかせつゝ抱腹絶倒せりと傳へらる。されど概して言へば、此書は米國人士に與ふる程の興味を外國の人には與へ難く、アイヴィング作中すぐれて、一般に歡迎せらるゝものにあらず。こは題目の性質上自から免れ得ざる數なるべし。

(1)Sketch Book.

殆んど無意識的に米國文學の新紀元を作れるアイヴィングは、尙ほ文學を以て本業となすに至らず、其兄と共同して鐵器商を開始し、其用務の爲めに屢々ワシントン府に往來して、多少政治の事にも關係し、又時にフィラデルフィアの某雜誌の爲めに筆を執りぬ。既にして一八一二年戰端の開くるや、筆を棄てて干戈をとり、紐育國民軍に加はりて陸軍大佐の職を授けられぬ。されど戰爭の終結と共に直に英國に赴きて依然商業に従事し、側ら英國知名の文豪に交を結びぬ。この際アイヴィングの爲めに幸か不幸か、幾もなくしてその

英國滞在 管理せる商會の事業は失敗に歸し、爰に初めて文學を以て身を立つるの決心をなし、一八一九年を以てかの有名なる『スケッチブック』を草し、先づ之を米國に送り、分冊となして出版せしが、『リッププマンウ・イングル』の一篇殊に多大の喝采を博し、翌年更に之を英國のムレイ會社より出すや、其名聲は忽ち英國に喧傳しぬ。版權の賣價は一千磅なりと傳へらる。『スケッチ

- (1) Bracebridge Hall.
- (2) Stout Gentleman.
- (3) The Student of Salamanca.
- (4) Tales of a Traveller.

ブック』のいかに愉快なる短篇に富めるかは、我邦讀者の熟知する所なれば、爰には無用の辭を費さざるべし。

その後引續きてアーヴィングは五年の間英國に留まり、一八二二年には英國の田舎にて獲たる材料を使用して連續せる小話集『プレイスプリッチ・ホール』を出し、その中には『肥大紳士』『サラマンカの書生』の如き比較的長篇の物語も含まれ、『スケッチブック』に比すれば描寫の筆や、淡泊にして實質缺しけれど、概して興味ある讀物たるを失はず。一八二四年更に『旅客物語』と題する短篇集を公にしぬ。アーヴィングの作中最も大膽に小説の領域に突入したる作にして、やゝ平生の詩趣なく、輕妙を缺けるの嫌あれど、筋の變化と材料の豊富とは、從來の諸作に見出し難き點なりとす。確かに一方の傑作たり。

一八二六年アーヴィングは西班牙に赴きて居をマドリッドに卜し、滞在三年の間に掻き集めたる材料は數卷の傑作となりてあらはれぬ。

- (1) Alhambra.
- (2) Conquest of Granada.
- (3) Life of Columbus.
- (4) Tarrytown.
- (5) Sunnyside.
- (6) Tour on the Prairie.
- (7) Astoria.

西班牙 等の中最もアーヴィングの長所の遺憾なく發揮されしは『アルハムブラ』にして、詩趣溢るゝ如き西班牙の傳説と珍奇なる

風物とを巧みに組みあはせて絶好の小冊をなし、世に『西班牙のスケッチブック』の稱あり。余は寧ろ此篇を以て『スケッチブック』の上におく。『閻龍傳』は眞面目なる研究の餘に成りたる大作にして、史的討究の幼稚なる時代の作としては、最も貴重なる佳作たるを失はざりしも、今日に於てはその價值の一半を失へり。

一八二九年アーヴィングは龍動の米國公使館書記官に任ぜられ、その後 此れより滯英三年の間名譽と尊信とを一身にあつめて

幸福なる日月を送りしが、歸國の念漸く禁じ難く、一八三二年を以て官を辭して米國に歸り、ハドソン河畔のタリータウンに一地を購ひ、之を『サンニサイド』と命名し幸福なる日月を送りしが、その間西部諸州を跋渉したる結果は『平原周遊記』『ア

- (1) Captain Bonneville.
- (2) Life of Washington.
- (3) Life of Goldsmith.
- (4) Mahomet and his Successors.

米國の文壇の先鋒の全權の大使

ストリーリア」「キアブテンボンツイル」等の實は少なけれど、しかも愉快なる諸作となりてあらはれたり。一八四二年渠は西班牙大使に任命せられ、濫々ながら其理想的閑居を棄て、再び西班牙に赴き、滞在すること四年、歸りてその苦心の大作「ワシントン傳」をはじめ、愉快なる「ゴールドスミス傳」「マホメット傳」を出し、一八五九年を以てサンニサイドの地に歿しぬ。

アーヴィングの述作の時代は半世紀に跨る。その初めて筆をとりたる時には米國には未だ温かなる文學の光なく、英人などの作と言へば初めより齒牙にかけざりき。

然るにアーヴィングの晩年を見れば事態全く一變し、何れの文壇に押し出しても容易に二流とはさがらぬ作家踵をつらねぬ。而して、アーヴィングは實に其先鋒也。米國文學をして海外に重からしむるに至れる端緒は實にアーヴィングに始まる。さればサッカリーが渠をたへて「新世界の文界が舊世界に送れる先頭第一の全權大使な

アーヴィングの第一の武器

り」といへるは決して溢美の語にはあらざる也。解剖的に討究すれば渠は必らずしも偉大なりといひ難く、其文體は優雅流麗なれども、やゝ古風にして斧鑿の痕を留め、殊に其初年の作は彩華癖度を失せるの憾あり。又其思想は少しく平板に失し、その感情は輪廓をかき、崇高、雄大、悲壯等の分子は殆んど痕跡だも認むべからず。されどアーヴィングには他の作者に容易に類例なき一大武器ありき。他なし飽まで清らかに、飽まで愛嬌ある、其一種の人品是也。この人品は、その手に成れる凡ての作物に春光の如き温かさ、慈母の笑顔の如きなつかしさとを興へ、人をしてその瑕疵を感ずるに先立ちて忽ち恍惚として一種の魔力に酔はしむ。かれ自からその執筆の主旨をのべて曰く「われ若し時に人々の胸に宿らんとする猜忌の雲を破り、人性の善なるを知らしめ、讀者をしてその同胞に對し、又自己に對して次第に不平少なからしむるを得ば、わが執筆も全然無益の業にはあらざりけむ」と、アーヴィングの著作の生命は實にこの點に

(1) James Fenimore Cooper.
(2) New Jersey.

其少時の経
験

在り。而して遠き我邦の人士に愛讀せられつゝある所以の大原因も
 爰にあらむ。

アーヴィングに續きて世界的名聲を博したる米國の大小説家をデ
 ームズ・フエニモア・クーパーとなす。但し二人は、そ
 の人物に於ても又著作の性質に於ても全然相反して顯
 著なる對照をなす。

クーパーは一七八九年を以てニューヨーク州の一村落に生れぬ。
 父は元判事を職として國會議員を兼ね、資産あり、元氣ある人、サ
 スケハンナ河の附近に廣大なる田野を買ひ占め、クーパー村なる一
 部落を作りあげぬ。されば其子は幼少の際より未だ開拓の手の入ら
 ざる密林に出入し、印度人、獵夫等を侶とし遊びぬ。元來觀察力に
 富み、想像力將た凡庸を離れし熱血の少年なりしかば、是等幼時の
 經驗は永久磨滅すべからざる印象を與へ、其證據はかれの後年の作
 に歷々として残れり。一八〇三年渠はイェール大學に入學せしが、

海軍人とし
ての経験

小説家とな
れる動機

(1) Precantion.

教場よりは屋外の自由なる天地を好み、ひとなみはずれて亂暴なり
 ければ、終に同大學より放逐せられぬ。それより商船に乗りてしば
 らく水夫となり、やがて米國の海軍に加はりて少尉候補生となれり。
 されど爰にも永續せず、數年にして軍籍を脱し、妻を迎へて純然た
 る田舎紳士となりすまし、かくて凡そ十年許は文筆を執らんなど、
 は夢にも思はず、氣樂に農牧の業にたつさはれり。

渠が此田舎紳士の境遇を脱して小説家となりたる動機は頗る奇也。
 或る時英人の手に成りたる一小説を繕さしが、其面白からぬに呆れ、
 我輩とても、今少し面白きものを作り得べしと妻に誇りぬ。さらば
 試み玉へと半ば戯弄的に妻の答へしに、負けじ魂のクーパー直に筆
 を執りて、「用心」と題したる一小説を草し、一八二〇年を以て世に
 出せり。知りもせぬ英國の交際社會を舞臺として頗る下拙に出來あ
 がり、格別世人の注意をひかさりき。クーパーは之に業をや沸かし
 けむ、それとも此試作によりてわが力量を信ずるに至りけむ、更に

- (1)The Spy.
- (2)Harvey Birch.
- (3)Pioneers.
- (4)Leather-Stocking Tales.
- (5)The Pilot.
- (6)The Last of the Mohicans.

又稿を起して獨立戰爭を種としたる「間諜」を草し、翌二一年を以て出版しぬ。この一書によりてクーパーは一躍して大家の列に入りぬ。主人公ハーヴェイ・バッチがワシントンとの會見の一段はこの書が引力を有する一源因にして、甚だしく興味を存する所なりき。之につゞきたる「パイオニアース」は渠の作中の所謂「革皮靴集」に屬するもの、米國大森林の奇譚を天下に紹介せり。一八二四年には又海軍小説中の最傑作「水先案内者」を出し、一八二六年には「革皮靴集」中の傑作を以て推さるる「セラスト・オブ・ゼモヒーカーンズ」を出せり。爰に至りてクーパーの名は獨り本國に蘇けるのみならず、遠く英國にも喧傳し、更に翻譯せられて大陸諸國にも傳はれり。一八二六年クーパーは歐洲に赴き、其直接の結果は數冊の著書となりて表はれしが、何れも多く取るに足らざりき。歸來又無用の論争に耽りて、徒らに他人を怒らしめ、又自己を怒らしめ、小説を以て屢々その論争の用に供しぬ。かゝる種類の作中には毫も取るべき

- (1)Red Rover.
- (2)Two Admirals.
- (3)Deerslayer.
- (4)Pathfinder.
- (5)Prairie.
- (6)Lionel Lincoln.

米國の森林
海上の拓

ものなくたゞ時に元のクーパーに立戻りて本領を發揮せるものに傑作あるのみ。總體に於てかれの作れる小説は三十餘篇にのぼれど、取るべきものは十指を以て盡すべく、之を海軍小説及び「革皮靴小説」の二種類に大別すべし。前者にありては、「水先案内者」の外に「レッド・ローヴァー」「二海將」を挙げなば足りぬべく、又後者は、前に挙げたる二篇の外「デュー・アスレーア」「パスファインダー」「ブレイリイ」の三篇を含む。他に獨立戰爭時代に關せるものにては、「間諜」の外に「ライオナル・リンカーン」あり。是等を讀まば、クーパーの傑作には大抵通じたりといふべし。

クーパーが世界的小説家なるは世既に定論あり。渠は小説家としての長短

て新機軸を出せるにあらねど、少くとも二方面に於て小説の原野を擴張したり。二方面とは他なし、米國の森林と海上と是也。是等にありては爾來何人もクーパーの右に出づる能はざる也。海を描き、森を描くに當りては、渠は純然たる詩人

クーパーは
描寫の人也

の域に突入し、其筆に上ばれる獵師、印度人、舟人等は躍々として飛動す。されど要するに渠は描寫の人にして創造の人にはあらず。出て来る人物は、或る少數を除けば、衣裳をつけたる偶人にひとしきが多く、殊にその顯著なる弱點は、性格發展の上に最大の武器たる對話にかけて甚だ拙劣なる事也。往々渠と比較さる、スコットの對話が多くの場合に於て圓滑自在、一面に物語の筋を前進せしめつゝ、他面に於て之を物語る所の人物の特色を傳ふるに比すれば、多大の遜色を免る能はず。但しその得意の描寫の力量にかけては、クーパーは天下殆んど無比といふべし。事物となく、人物となく、一を根氣よく描き來り、描き去りて微細に入り、窮極に達して止む。その筆は一種の傳奇的色彩を帯びたれどいかにも前後の辻褄が合ひ、更に寸分の隙間なきが故に、人或は寫實的なりとして之をデフォーに比較するに至る。但しこは甚だしく外面的の類似にして兩者の差異は實は大也。デフォーは徹頭徹尾簡明直截を期し、之に反じて

デフォーと
の比較

クーパーは常に誇張に傾き、儀容を重ず。且つデフォーが人氣取りに妙を得たるに反じ、クーパーは割合に小手のさかぬ作者にして、物語は一時全く進行を中止し、或は爰に立往生を遂ぐるにあらざるかと思はるゝ迄に讀者を引き留めて顧みざること少なからず。殊に自己の辭論を擔ぎ出せる場合などには讀者の迷惑は一通りにあらざる也。されど一旦その千里の長堤の潰決するや、積水一時に躍りて奔騰直下、讀者をして三斗の溜飲も忽ちにさがるを覺えしむ。缺點は缺點としてクーパーの豪壯の筆致と健全の趣味とは長く文壇の珍たるべき也。

(研究書目)

(一) フーヴァインガーの全集は所々にて出版されたり。その中の一二を擧ぐれば

Complete Works of Irving, 15 vols. (Bohn).

Works of Irving, 37 vols. (Putnam).

單行の書は無數に出版せられ、殊に『スケッチブック』の如きは多し。その

評傳は

Irving, by Warner, A. M. L. Series (Houghton).

Life and Letters of Irving, by P. M. Irving, 2 vols. (Bohn, Putnam).

Fable for Critics, by Lowell. (ローレンの部を見よ)

(二) クーパー

Works of Cooper, Leatherstocking Edition (Routledge). その他 *Misc.*, Putnam, Blackie. 等にて

出版し、到所求むべし。評傳は

Cooper, by Lounsbury, A. M. L. Series (Houghton).

Rable of Critics, by Lowell. (ローレンの部を見よ)

(二) ホーソルンとポー

ホーソルン——其経歴——其作風——其短篇——其長篇——ポー——其奇行閑歴

——その論文——其物語——その詩歌——(研究書目)

アーヴィング、クーパーの二家は米國文學をして世界的ならしめたれど、彼者は尙ほ半ば前人の輻轍を踏みて進めり。眞に獨創の才力を示し、全然前人未知の新原野を開拓したるものを、ホーソルン及びポーの二作家とす。此二人も亦作風性行共に大に異なれり。

- (1) Nathaniel Hawthorne.
- (2) Salem.
- (3) Bowdoin.
- (4) F. Pierce.

ナサニエル・ホーソルンは一八〇四年を以てマサチューセツ州のセーレムに生れぬ。其祖先は代々純然たる清教徒にして、其敬虔にして嚴正なる氣風は、或る程度迄ホーソルンにも傳はりつ。たゞ前時代のニューイングランド人士の弱點たる偏狹固陋の弊をば全然脱却しぬ。ホーソルン幼にして父を亡ひ、賢母の手に人となりしが、幼時の嗜好は諸種の書物の濫讀、野外の遊戯、狩獵等にして、學生としては寧ろ不熱心なりき。其體格は極めて強健にして釣合よく、容貌又美にして、終生病魔の爲めに犯されたることなかりき。渠に一人の叔父あり、メインの僻境に住みしかばホーソルンは屢々之を訪ひ野外の運動に耽りつ、傍ら大學入學の準備をなし、かくて一八二一年を以てボードン大學に入りぬ。同窓の友には詩人ロングフェロー、大頭領ピアース等ありき。在學中は希、羅の古語に秀てしも、大體に於ては格別優れたる點なく、かくて一八二五年を以て業を卒へたり。爾來渠は直にセーレムニ歸臥し、十有二年の久しきに亘りて全

- (1) Goodrich.
- (2) Peter Parley.
- (3) Twice-Told Tales.
- (4) Brook Farm

然世界と離れて、孤獨的生活を續け、沈思黙考を以て、その常食となし、傍ら讀書し、又筆をとらぬ。是等の作は多くは燒棄せられ、その一部のみが、時に匿名にて雑誌にあらはれしも、世間は格別注意を拂はず、渠自身の口吻をかりて言へば「亞米利加中にて最も名の聞えぬ文人」なりき。その頃ホーソルンが關係を有せる書肆はグッドリッチにして、往年我邦の英學生が愛讀したるピクターパリアの「萬國史」は、實はホーソルンの編述にかゝりき。一八三七年その平生作りあきたる短篇を蒐聚して世に出しぬ。「ドブライストールドテールズ」の第一輯是也。こゝに至りてその名聲は漸く世に知られぬ。間もなく税關の検査官に擧げられ、世界中の職業中最も俗なるものに從事しけるが、二年の後政變の結果職を失ひ、一八四一年にはかのユートピア的團體「ブルックファーム」の一員となりぬ。この時の経験は後年「ブライスデイルロマンス」の中に使用され、必らずしも無益には了らざりしが、固より空想家の築きあげたる空中樓閣に過ぎ

⑥ Blithdale Romance.

- (1) Concord.
- (2) Old Manse.
- (3) Mosses from an Old Manse.
- (4) Scarlet Letter.
- (5) House of the Seven Gables.

ざりければ幾もなく中止されたり。つゞきて兼ねて許嫁の間なりし一女子と結婚し、コンコードなる「オールドマンセ」に退居し、その間に「ドブライストールドテールズ」の第二輯、さては「モッセズ・フロム・アン・オールドマンセ」の短篇集を出せり。後者の中には「ラッパシニの娘」の如き傑作あり、渠が物語作者としての技倆は今や其絶頂に達せるを示せり。やがて三年再び税關の俗務に従事して後、かの長篇の傑作「スカーレット・レット・レタター」を出しぬ。時に一八五〇年。ホーソルンの名聲は爰に至りて全く確立し、その發行の當時より今日に至るまで、此書が米國の有する誇り物の一として尊重さるゝは毫もかはらざる也。これより三年の間に小説「ハウス・オブ・ゼン・ゲイブルズ」「ブライスデイルロマンス」をはじめ、續々として數篇の短篇集及び少年讀本を出しぬ。一八五三年に至り大學在學中同窓の友たりし大頭領ピアスの推舉により、英國リヴァプール在勤の米國領事に擧げられ、家族を携へて英國に赴き、滞在四年、

(1) Marble Faun.
(2) Our Old Home.

念
宗
教
的
の
観

やがて佛蘭西、以太利等を歴遊しけるが、就中以太利觀光中に獲たる材料は『マーブル・ファウン』の傑作となりてあらはれたり。かくて歸國したるは一八六〇年の夏にして爾來再びコンコードに退きて筆を執りしが、幾もなくして其健康と氣力とは次第に衰弱し、又南北戦争の破裂によりていたく神経を痛められ、かくて一八六四年、前大頭領ピアスと旅行中に客舎に死せり。晩年の著作中比較的貴重なるは英國滞在中の經驗をかき集めたる『吾等の故國』なりき。既に一言せるが如く、ホーソルンはその祖先の清教的精神を受け

ホーソルン
の作風

ホーソルン 繼ぎて極めて敬虔の人也。その作中直接に宗教を説きたるものは甚だ少なけれど、根底には宗教的觀念の常に伏在するを見る。されば渠はいかなる時にも陽氣なることなく、夕日の光の常にさびしく、悲しく、無量の深意をこめたるが如き趣を有す。この遺傳的性質は又、その簡淨にして素朴、一點脂粉の痕を留めざる文體の上にも認むべし。ホーソルンの筆致は、美しき信

其
文
體

其
作
の
實
體

女が、齋戒沐浴、白装束をつけて神前に額けるの趣ありとや言はむ。色彩の濃艶を喜ぶもの、諧調の流麗を好むもの、若くは詞藻の絢爛を求むるものは、到底爰に満足を見出す能はざる也。ホーソルンに在りては外形は寧ろ末也。獨り之を表はす所の文字のみならず、物語の筋迄が、副位に在り。骨格こそ小説的なれ、其實體は眞理なり。渠が作中寓言的譬喩譚の多きも之が爲めのみ。中にはやゝ實際の人間をとりて之を寫生するものも混らざるにあらねど、其中の大部分は皆精神的活動を表號したる人影のみ、姓名のみ。ホーソルンの描ける人物の住居は實世界にあらずして人心の奥に在り。かゝる種類の作品を以て讀者を動かすことの困難は知るべきのみ。深く人生を洞察し、人心の機微を理解し、精妙なる想像と高邁なる識見とを有すること、わがホーソルンの如くにして初めて成效を期すべき也。ホーソルンが世界の文壇に唯一の位置を占むる所以は實に爰に在り。

鏡(は)か
也(れ)の
め(生)の
の(短)
眼(篇)

ホーソルンは先づ短篇作者として優れ、アーヴィンク、ポー、モーパッサン、ドレーデー等と共に、世界の文壇に一領域を占む。是等諸家は何れも獨特の長所を有し、容易にその位置の高下を定むべからずと言へども、ホーソルンが是等の中に在りても最も重要な地位を占むべきは何人にも異議なかるべし。渠の短篇はさながら人生をのぞく爲めに設けられたる數多き眼鏡の如し。一僞々眼鏡が照す所の範圍は何れも狭く、人生の全體に就きては教ふる所多からねど、其狭き視界に入り來れる部分にありては、一劃一劃をも残さぬ迄に照し出すを常とす。ホーソルンの短篇を讀むは即ち一眼鏡を取りて人生の一部を覗く也。中には格別珍らしくもなき局部を見せらるゝことあれど、多くの場合に於ては新らしき教訓を得て讀者は常にハッと驚かざるゝを常とす。數多き短篇中何れが代表的傑作なるかは讀む人の見地に從ひて差別あり。此差別は、他の作者の場合に於けるよりも、殊にホーソルンに於て大なるを見る。

- (1) Gray Champion.
- (2) Wedding Knell.
- (3) A Rill from the Town Pump.
- (4) Great Carbuncle.
- (5) David Swan.

- (6) Ambitious Guest.
- (7) Footprints on the Sea Shore.
- (8) Rappaccini's Daughter.
- (9) New Adam and Eve.
- (10) Young Goodman Brown.

(以下次頁)

余は『トワイストールドテイルズ』中に在りては『グレートチャムピオン』『婚禮の鐘』『タウンバムプ』『グレートカーバンクル』『デーヴィドスワン』『野心の客』『海濱の足跡』等、『モッセス』中に在りては『ラッパシニの娘』『新アダマイア』『ヤンググッドマンブラウン』等、『雲達塵集』中に在りては『グレートストーンフェース』『イーサンブランド』等を選ばんとす。他にも棄て難き神品あれど、餘りに煩はしければ擧げず。

ホーソルンの四篇の長篇中に在りては『スカァーレットレットター』最も人口に膾炙し、通常ホーソルンの最大傑作を以て推重せらる。其理由の一は、男女の姦通罪をとりて材

となし、ホーソルンの作中最も普遍的興味を有すればなるべし。但し其描き方は全然ホーソルン式也。若しモーパッサンの如き作者をしてかゝる材料を選ばしめんか、渠は其姦通の行爲を描くに全力を盡すべし。然るにホーソルンは此野卑なる點は全然放擲し去り、た

(1) Great Stone Face.
(2) Ethan Brand.

(3) Danatello.

此姦通がいかなる結果を關係人物の上に及ぼしたるか、姦通が齎す不幸、後悔、社會の制裁、精神上の苦痛は如何——渠は此點に向つて専ら鋭利深刻なる筆を下せり。「大理石の顔」も亦ホーソルの天才の最も縦横に發揮せられたるもの、半獸性的なるドナテロ、其他シムボリカルなる人物を捕へて心理的討究を試み、而して側ら以太利の天然と美術とを所せきまで紹介したり。纏むたる筋の興味を求むるもの、さては實質の多きを欲するものには、到底満足を與へ難き作なれど、注意深き讀者には無限の沈思と研究の材料を與ふ。他の二長篇は共に地方的局部的にして、我邦の讀者を動かす點は頗る薄しと言はざるべからず。小説以外の雜著にも一種の興味あるものなきにあらねど、是等は特別に此作者の研究に志したる人へのみ必要にして、一般の讀者には充分の興味は見出し難かるべし。

ホーソルンはニューヨークに生れて、何れの點より見るも、

(1) Edgar Allan Poe.
(2) Maryland.

米國北部の代表的天才なるが、米國南部系に屬するポは必ずしも南部の特色なく、米國文學史上に一種特別の光彩を放てる作家也。たゞ其作れる短篇が臚げながら多少ホーソルンと類似の痕跡を有するを見る。余は先づ簡單に、渠が不幸にして且つ奇怪なる生涯につきて一言せん。エドガー・アラン・ポは一八〇九年を以てボストンに生れぬ。父はデーヴ・ドと言ひ、メリランドの舊家の出なりしが、英國の二女優と結婚せるを以て勘當せられ、己れも俳優の群に入りぬ。ポは生れて三歳なる頃其両親は引續きて死歿したるも、その命名親にアランとて、リッチモンドに住める貴商人あり、夫婦の仲に子なきま、ポを引き取りて愛育しぬ。かくて一八一五年を以てポを携へて英國に赴き、五年間許渠を龍動近傍の二校舎におさしが、やがてリッチモンドに歸りぬ。渠は引續きて同市近傍の二校舎に學び、早くより國語の才と作詩の才とをあらはし、又早くより感情の猛烈と神經衰弱の兆候とをあら

(1) Tamerlane and Others.
(2) West Point.

はじき。例へば己が學友の母に戀着し、同夫人の死するや、數ヶ月に亘りて夜な／＼其墳墓に詣てしといふが如き、いかに渠が早くより常規を逸したる人物なるかを見るべし。
一八二六年ヴァージニア大學に入學しけるも、居ること幾くならずして、惡友にくみして負債を作り、爲めに養父の機嫌を損ねて退學せしめられ、一時養家に歸りて商業の見習をなせしが、同居生活の窮屈に堪へず、一八二七年逃げてボストンに赴き、身を軍隊に投じぬ。その頃初めてかの「タマーレーン其他」と題したる一小詩集をば匿名にて出版しぬ。今日に在りては、當時の刊本は珍書愛藏家の價を問はずして争ひ求むる所なり。しばらくして養父母と和解して軍隊を脱し、改めてウェストポイントの陸軍士官學校に入學し、最初の程こそ神妙に勤めしも、持つて生れし我儘の性根は枉ぐるよしなく、やがて生徒としての義務を無視して顧みざるに至りしかば、翌一八三一年早々退校を命ぜられ、爰に於ていよく其苦しさ文士生

ボーと社會との衝突

(1) Clemm.
(2) MS. found in a Bottle.
(3) Kennedy.
(4) Southern Literary Messenger.

活の端緒は開けぬ。これより直に紐育に赴き、單に「詩集」と題して平生の所作を出版し、中には多少の佳什を收めしも、殆んど世人の一顧をひかさざりき。當時の米國は、今にもまして事業的、勃興的の世界にして、到底詩人を以て生計を立つべき國土にあらざりき。ボーの有するものは詩文の才のみ。而して酒癖あしく、意志弱く、甚だしく實務的才幹にかけ、徒らに高く構へて白眼に世界を睥睨せんとす。米國の社會がかゝる人物に同情を寄せ、保護を與へざるは知るべきのみ。先づ渠に愛想をつかしたるは、その養父なりき。養父は此時後妻を迎へて一兒を擧げ、最早後繼者の患なくなりたれば、全くボーと縁を切りぬ。この際ボーが身を寄せしはクレム夫人と呼べる叔母の家なりき。かくて一八三三年「壘の中なる文書」と題せる物語を以て某雑誌の懸賞に應じ、一百弗を獲たり。これを渠の出世作にして、その縁にて小説家ケンニデーの知遇を得、雑誌「南方文學」の主事に擧げられ、年俸五百二十弗にありつきたり。ボーがこの

- (1) Virginia.
- (2) Arthur Gordon Pym.
- (3) Gentleman's Magazine.
- (4) Tales of the Grotesque and Arabesque.
- (5) Graham's.

雑誌に關係したるは一八三七年迄にて、一種鋭利なる批評と、更に得意なる短篇とをかゝげ、同雑誌をして文壇に有力ならしめたり。叔母に一女あり、ヴァージニアと呼びしが、その僅かに十四歳許なる時ポーと結婚しぬ。容貌は美なりしも肺患にかゝりて頗る虚弱の少女なりき。兎に角ポーの一身には今や光明の射すべく見えしも、例によりて素行の放縱と飲酒とは、渠をして同一地位に留まる能はざらしめ、去りて紐育に轉居したり。かれが作中の最長篇たる「アイサー・ゴールドン・ゼム」を出せるは當時の事に屬す。更にフィラデルフィアに轉居して、雑誌「紳士の友」の主筆となり、一八三九年には短篇集「テールズ・オブ・ゼ・グロテスク・モン・ド・アラベスク」一卷を出せり。ポーが短篇作者としての名聲は重に此篇にかゝる。

翌年ポーは「紳士の友」を去りて「グラハム誌」に入り、同誌の發賣部数は爲めに十倍せしが、爰にも長くは留まらず、自から一雑誌を發行せんとして失敗を招きぬ。一八四一年渠の一作は佛國の

- (1) Gold Bug.
- (2) Raven.

一雑誌に譯載せられ、爾來ポーの作は遂次同國に紹介され、如何なる米國作者よりも歓迎されたり。一八四三年には再び某誌の懸賞に應じて、かの有名なる「黄金の囊」を草し、一百弗を獲たり。翌年又紐育に舞ひ戻り、諸種の新聞雑誌に關係せしが、やがてかの不朽の詩篇「レーヴァン」を出して、その文界の地位は更に高さを加へぬ。されど一八四七年には愛妻に先立たれて、その酒癖は益々加はり、而して一方には、先妻の死を傷めるとは正反對なる行爲に出で、ホイットマン夫人と呼べる女詩人に結婚を申込みぬ。但し結婚を待たず、一八四九年バルティモアの客舎に頓死したり。

ポーは社會の一人として見れば誠に不具的人物にして、毫も自制の念なく、氣隨氣儘の行爲に充ちたれど、其比較的短かさ生涯中に成就したる文學上の事業は驚歎すべきものあり。渠の全集中大部を占むるものは散文にして、詩歌の分量は甚だ少なし。散文は之を論文、及び物語の二種に區別すべし。ポー

その論文

- ①The Murder in the Rue Morgue.
- ②Gold Bug.
- ③Hans Pfaal.
- ④A Descent into the Maelström.
- ⑤The Fall of House of Usher.

- ⑥Eleonora.
- ⑦Black Cat.
- ⑧The Shadow.
- ⑨The Masque of the Red Death.

は一面に空想の兒たると共に、他面には非凡の解拆力を有し、頭腦極めて明晰の人なりき。されば其批評中には今尚ほ人を首肯せしむるもの多く、殊にホーソルンを論じたる文などは最も見るべしとす。されど概して見解狭く、又學問の根底なく、到底ローエルなどには比肩すべくもあらず。たゞ日を経て益々光彩を發するものは其物語是也。ホーの作れる物語は古今東西の文壇に類例なき性質のものにして、眞に世界の珍たり。之を細別すれば凡そ三種類に別るべし。第一は細密なる解剖を施したる物語にして、往々中に畏怖神怪の分子を含む。「モルグ街の殺人犯」「黄金の羹」「シスプフル」「メーブルストローム墜落譚」等は也。中にありて最も傑出したるは蓋し「黄金の羹」か。その推理の精緻を極め、その想像の巧妙を極めたるは一讀せるもの、盡く驚歎する所なり。第二は極端に薄氣味悪るき變怪不可思議の物語にして、即ち「アン・シヤ」家の悲運「エリオーノラ」「黒猫」「影」「セマスクオブゼレンドレス」

- ①Ligeia.
- ②Silence.

ホーの作は人間の常食にあらざる

「ライジリア」「間寂」等之に屬す。ホーの技倆は是等の諸篇に於て絶頂に達し、鬼氣人を襲ひ、腥風紙背に起るの感あらしむ。他の作者の妖怪譚は、何となく底に娑婆臭き所ありて、よく小兒を威嚇するも、以て思慮あり、教育ある大人を戰慄せしむるに足らず。ラドクリフ夫人の作、又はリットンリットンの作の如き是也。然るにホーの作にありては何人も之が爲めに魅せらる。「黒猫」の如き、余は白晝之を諸生の前に講じて尚ほ鬼氣の迫るを覺えたり。第三は談諧を主とし、奇異を事とせるものなるが、是等にありては格段の成效を收めず、取り出で、いふに足るものなかりき。尚ほ渠が作中や、長篇の「アイサーゴルドンビム」は極端なる場合を想像して人間の獸性をさらけ出さんとしたるもの、一種人を引着するの魔力あれど、余は少しくその醜惡なるに閉口す。

ホーの物語は之を食物に譬ふれば、わさび、唐辛子、さては鹽辛の種類に屬せんか。妙は妙なれど人間の常食にあらざる也。あらゆ

る天下の美味に飽きたる人は、却つてかゝる下物を獲て事の外に嬉れしがれど、普通の人士は到底これにて満足を見出す能はざる也。ポーが本國にて格別の評判を博せざりし中に、早くも佛蘭西にて大歓迎を受けたるが如きは、幾分かこの間の消息を語るものにあらざるか。蓋し、ポーは天下の異才には相違なきも、大作家とは稱するところを得じ。渠は大人物を描かず、一般の人情を解せず、談諧の才に缺け、又大結構を設けて大作を作りあぐるの腦力なし。又その文體とても非常に甘味あるものとは言ふ能はず、頗る器械的細工的の弊あり。之を要するに、渠は偏頗なる天才也。スコット、クーパー、アイヴィングなどの如き常食的作者とは全然別種類に屬す。たゞしこは毫も其特殊の價值を減ずるの理由とはならざるや明也。

是後にポーの詩につき一言せむ。ポーの詩は其分量甚だ少く、其數僅かに四十許、而かも皆短篇也。又其詩材もいにし日の戀を歎くにあらずんば、捕へ難き美にあくが

詩

- ①The Raven.
- ②Ulalume.
- ③The Bells.
- ④Annabel Lee.
- ⑤To Helen.

⑥Israfel.

るのみ。其範圍甚だ狭し。されど其狭き範圍に於ては渠は米國詩人中の何人よりも優れ、色と調とを併せたる一種精妙の技術と幽玄の想像とは近代の詩歌に少なからざる影響を與へたり。かの廣く人口に膾炙する所の『レーザン』をはじめ『ウラールム』『ゼベルス』『アンナベル・リー』『ヘレン』『イズラフィール』等の抒情詩はたしかに不朽の作たるべし。かく少數の傑作を以て重きをなす所は、英の詩人グレイに似たりといふべく、『レーザン』と『田舎の墓地にてよめる歌』とは共に純然たるクラシックを以て許さる。ポーは到底大詩人の圈内には入り難きも、小詩人中にありては特に異彩を放てる一人也。

(研究書目)

- (一) ホーソルン
- Works of Hawthorne, (Scott, Paul, Bohn, Ec.) 單行のものは尋ぐるの必要な程多く出版されたり。その評傳は
- Hawthorne, by James, E. M. L. Series (Aino).

Laufhorne, by Conway, G. W. Series (Scott).

Hours in a Library, by Stephen (Smith).

Essay in Literary Criticism, by Hutton (Moe).

(二) *——

Works of Poe, edited by Richardson, 10 vols. (Putnam).

其他 Gibbins, Chaffo, Black. 等により出版せられたり。

Poems of Poe (Scott). 註書あり。

Poe, by Woodberry, A. M. L. Series (Houghton).

(三) 其他の小説家

ハルト——其長短——ゲエームズ——其作風——ホウエルズ——其作風——メ
ワイル——オールドドリッチ——フォーセット——ゲユーエット女史——ア
ンゲ——クロイフォード——ハリス——ケインブル——クラドック——ストウ夫
人——マアトチッド女史——アード——トウエー——(研究書目)

以上挙げたる四大家の外にも小説を以て立つ作者は甚だ多く、殊に近時に及びて雲霞の如く輩出せり。余は其中より比較的重要なる數作家を抜き出で、簡單なる叙述を試んとす。たゞ其時代の餘りに

(C) Francis Bret Harte.

近きと、又其頭數の餘りに多きに過ぎたるを以て、果して取捨選擇の當を得るや否やは聊か覺束なしとす。是等の作家の中にて、殘るべきは残り、滅ぶべきは滅び、眞に嚴密なる評價の出でんは、尙ほ數十年の後を待たざるべからざる也。

フランシスブレットハルトは米國の西部に於て旗幟を翻せし文士ハルト
中の殆んど先頭を以て目すべし。ハルトは元紐育の産

なりしが、十七歳の時財産を作らんとして、他の無數の出稼人と同じく、カリフォルニアに赴き、初めは教員を職とせしも、轉じて金鑛の鑛夫となり、次ぎて活版職工となり、又造幣廠の書記となりぬ。その頃カリフォルニア州は、所謂「金鑛熱」の最も流行したる時代にして、一舉に財産を作らんとして世界の各部より爰に入り込む、無賴漢、山師、冒險家の類引きもさらず、黄金の爲めには危険を厭はず、人倫の何物たるを問はざるの狀態なりき。げに其頃のカリフォルニア、殊に鑛山地の近傍ほど危険にして亂

ハルトの選
べる材料

脈なるはなく、人は皆武装し、飲酒の席に、賭博の場に、血の雨は絶えず降り漲ぎぬ。されどこの亂暴なる蠻的生活の間にも、一種の詩美は存じ、面白味は伴ひぬ。例へば猛烈なる戀、死をちそれざる俠骨等は、さながら雲間をもる日光、巖頭をかざる野花の趣を帯びて、彼等の間に存在しぬ。詩人小説家にとりて又一の好材料たらずんばあらず。ハルトの捕へたるは即ちこの點也。渠はその實地見聞せる所をば材料として、幾多の短篇を作り、之をカリフォルニアの某雜誌に投じぬ。是等は直に米國人士の注意をひき、更に英國にも入りて喝采を博せり。かくて一八七〇年ボストンに赴き、年俸一萬弗を以て『アトランティック・モンズリー』誌の雇ふ所となれり。其人氣の大なりしを察すべし。その後數年領事として獨逸に赴き、後蘇國に轉勤を命ぜられたり。一八八五年以後は重に龍動に住みて筆をとり、一九〇二年を以て歿せり。

ハルトの特長は、その同情ある觀察力と、一種の戯曲的才能と、

- (1)The Outcast of Poker Flat.
- (2)The Luck of Roaring Camp.
- (3)Miggles.
- (4)Tennessee's Partner.
- (5)Brown of Calaveras.

(6)Henry James.

その長短

又溢るゝ如き機智滑稽と是也。其文體將た簡潔にして勁拔、裡に一道の雅致あり、その優れたるものにはありては一字一句を増減すべからず。渠が生涯に書きたるものは長短をさませて其分量頗る多く、又詩もあれど、就中不朽なるは、最初に「ボーカーフラットの流浪人」の神品をはじめ、「ゼラック・オブ・ローアリング・カムプ」「ミッド・ゲルズ」「テジ・チッシー」「スパートナー」「ブラウン・オブ・カラヴェラス」等たしかに天才ならでは作り難き傑作たり。されどハルトの才能は幅に於て甚だ狭かりき。その後の作は何れも同一事を繰りかへして益々力なく、又長篇を構成する力量缺しく、強いて試みしは盡く失敗を招げり。ハルトが米國西部に起りて名をなしたると殆んど同時に、東部に「ナエー」旗幟を翻せる二作家あり。ヘンリー・デュームズ及びウィリアム・ホウエルズ是也。此二家は共に寫實派に屬し、成るべく物語を棄て、ありのままに人生を描かんとせり。二家の

(1) Daisy Miller.

中何れが愉快なる作者なるやは別問題として、才力に於てはデュームズを推すべし。

デュームズは紐育の人、専ら家庭にありて修養を積み、やがて歐洲に赴きて數年の歳月を送り、二十歳の頃米國に歸りて早くも一小説を「アドランティック・モンズリー」に寄せたり。固より未熟の腕前にはあれど、専ら力を人物の性格の解剖にそそぎて、幾分か其後年の作風を偲ばしむるものありき。デュームズにありて最も感服すべきは、一身をその好める文學に捧げ、飽までその所信を實行して名利を齒牙にかけざりし點に在り。こは多少の財産ありて衣食の患なかりしにもよれど、兎に角其自信力はとらざるべからず。最初文壇に立ちて十五年間許は全然世間の注意をひかざるに係らず、又殆んど一文の収入とてなかりしに關せず、自若として筆を磨き、研究を續けたるは尋常人には學び難き仕業なるべし。渠が名の漸く世人に知られしはかの「デイジー・ミラー」の出でし時にして、即ち一八七

(1) Roderick Hudson.
 (2) Europeans.
 (3) The Portrait of a Lady.
 (4) Princess Casamassima.

八年の事に屬す。其後渠の作は多くは續き物となりて諸雜誌にあらはれ、相當の収入をも獲るに至りたるが、一般の人士にとりては高雅に過ぎて、今日に至るまで終に人氣作者とはならざりき。其作長短數十篇に上り、就中「ロドリック・グランドスン」「歐洲人」「婦人の肖像」「プリンセス・カサマッシーナ」等渠の作中の最も特色あるもの也。

デュームズは常に研究的批評的態度を以て人生に臨み、而して人生の茫漠として首尾の捕捉すべからざるを感じ、謂らく普通小説家の設くる所の結構の如きは何れも虚偽のみ、小説家はたゞ人間を描かば能事畢れりと。かくの如くにして

渠の小説はその描かんとする人物及び相互の關係が明白となりたる時には物語を中止し、その後の行動は他に一任して顧慮することなき也。デュームズの一種鋭利なる觀察、その微に入り細を穿ちて窮極することなき心理的解剖、その撓むことなき研究的良心等は、か

(1) William Dean Howells.

れが目的とする所を、或る程度迄成就せしめ、渠は確かに近代米國小説家中最も貴重なる作家の一人には相違なし。されど其長所とする所は即ち同時にその最大弱點の宿る所にして、偏に批評と觀察とに耽れる結果は、篇中の人物に對する態度の冷淡となり、餘りに微細なる心理的解剖にすさめる結果は、單に一人物の心の影を示すに過ぎずして、生きたる人間を浮動し能はざるの弊害となり、且つその文章も冷かに氣取れる趣ありて情思の流動を見ず、敬服せしむれど、大に人を動かすに足らざる也。

ウィリアム・デューン・ホウエルズはデュームズと相並びて寫實小説界の一方の頭領を以て目せらるゝ人、腦力に於てはデュームズに一等を輸すれど、詩思に於ては之に越え、爲めにその作に一種人を引着するの魔力あり。學校の教育は不完全なりしも、早くより新聞雜誌事業に身を委ね、其間に文筆を練り、一八六〇年より六五年迄はヴェニス駐在の米國領事となり、歸來

(2) Their Wedding Journey.
(3) Their Silver Wedding.
(4) A Chance Acquaintance.
(5) A Modern Instance.
(6) Silas Lapham.

(7) Indian Summer.

「アトランティック・モンズリー」の主筆となり、現今に於ては「ハーバード」誌の主筆として文學上の意見を發表しつゝあり。かれの處女作は一八七一年に出せる『新婚旅行』にして、小説とは言ふもの、その結構は甚だ單純にして、ボストンの新婚夫婦が、加奈陀に到る往復の旅行記のみ。大部分はナイアガラ瀑布の見物にて占めらる。その途中に諸種の人物を引き出して、淺薄なれども頗る愉快なる讀物たるを失はず。之に續きては『銀婚旅行』『偶然の知己』『モダン・インスタンス』『サイラス・ラム』『印度の夏』其他尙ほ雜多の作あり。

ホウエルズは常に平生眼前見る所の些末なる事件人物を有りのまゝにあらはさんとし、普通ならざるものは、力めて之を除去せんとせり。されどかれの性質は元來詩的なる

が故に、何れの場合にも常に寫實を以て終れりとは言ひ難く、殊に初期に於て然りき。かれの寫實的技倆は一八八二年に出せる『モダン

(1) Herman Melville

「インスタンス」に於て蓋し其絶頂に達し、メーン州の一村落裡の生活をばありのまゝに極めて詳密に観察し、描寫し、米國人士の胸奥にひそめる精神、さては米國文明を形成する所の社會的要素を明かにせり。さればこの作は通常渠の代表的傑作を以て推さる。たゞ、ホウエルズはやゝもすれば餘りに寫實主義に拘泥せる結果、平板無味に陥り、又却て器械的、約束的の傾向を生じたる場合も少なからず。思ふに渠をして、若しトルストイ、ツルゲニエフ等の影響の外に立ち、性情の向ふ所に従ひて筆を取らしめば一層愛すべき傑作を殘し得たりしならんか。されど概括して言へば、かれの小説は最も廣く且つ最も深く米國の社會を描破せりと稱すべきが如し。

海事的冒險小説家として一時雷名を馳せたるはヘルマンメルヴェル也。其物語は多くは自己の海上に於ける經驗を基礎とし、之に空想を加へて潤色を施したるもの、何れも之を發展するに一人稱を以てし、かの英の小説家ステューヴン

(1) Typee.
 (2) Omoo.
 (3) White Jacket.
 (4) Moby Dick, or the Whale.
 (5) Thomas Bailey Aldrich.

(6) Marjorie Dow.
 (7) Story of a Bad Boy.

ンの如き大に之を稱揚せり。かれの作中最も早く出てたるは一八四六年出版の「タイプ」にして、「オモ」之に續けり。何れも大平洋上の群島間の冒險譚にして、一躍メルヴェルの名をして一世に高からしめぬ。されど渠の最大傑作としては「ホワイテ・デ・ケット」及び「モビ・ディック」の二篇をあぐべし。前者は米國軍艦上の生活を描き、面白い滑稽と、畏ろしき冒險と、快活なる人物とに充ち、後者は巨大なる鯨を追跡しつつ、諸方の海面を乗りまはす物語にして、構想甚だ奇抜、共に此種の小説中の白眉を以て推すべし。その他の諸作は徒らに奇怪晦澁にして取るに足らず。

トマス・ペーリー・オールドリッチは一八八〇年ホウエルズに亞ぎてオールドリッチ「アトランティック・モンズリ」の主筆となり、九年間の才にして、趣向文體共に讀者を驚倒す。「マ・パーチ・ロドリドゥ」「腕白小僧物語」等最もすぐれ、二讀の後讀者の腦裡に印象を殘す分子

は缺しけれど、兎に角極めて愉快なるは争ふべからず。渠は又詩人としても知られ、殊に短篇の抒情詩にかけては殆んどヘリックの域に進めるの評あり。

- (1) Edgar Fawcett.
- (2) The House at High Bridge.
- (3) S. O. Jewett.
- (4) Deephaven.
- (5) White Heron.

エトガーフォセットはチェームズの流を汲みて寫實的、心理的なものが、たゞ之に比すれば戯曲的才幹にとむ。描ける人セツト物の性格は概して明確にして生氣あり。傑作としては『ハイブリッヂの家』を推すべし。かれも亦詩人として知らる。

- (6) Country of Pointed Firs.

セーラオルンデューエット女史はニューイングランドの産、従つてその小説はニューイングランドの靜平なる境を寫せり。その處女作を『デイブヘーゲン』といふ。ニューイングランドのさびれたる港に遊びに行きたる二少女の觀察記にして、物語の筋は甚だ單純なれど、落筆輕妙優雅にして、よく人を引着するの妙あり。その他『白鷺』『ポイントドブライス』等の佳作あり。

フイランダーデミングは文體に於ても又題目にかけても稍々ジエット女史に類し、重に靜平なる僻境の人物事物を寫すを得意とし、敢て奇を衒ひ、新を求めざれども筆路優美にして眞に迫り、一點二畫を忽かにせず。『ライザアン』『トムキンス』等の短篇最も見るべし。

- (1) P. Deming.
- (2) Lisa Ann.
- (3) Tompkins.
- (4) F. M. Crawford.
- (5) Mr. Isaacs.

フランジスマリオンクロフトは、一八八三年を以て其處女作『アイザブエクス君』を出せり。傳奇的にして、印度の生活を描き、『アレクシビアンナイツ』的なる奇譚怪話に富む。その後連年、『ドクトルクロフト』『ディアス』『ゾーロアスター』『ローマンシンガー』等を出し、一方の人気作者たり。

- (6) Doctor Claudius.
- (7) Zoroaster.
- (8) A Roman Singer.
- (9) J. C. Harris.
- (10) Uncle Remus.

デュールチアンドラーハリスは南部の人、俗語を以て南部印度人間に流布する所の傳説、歌謠、教訓等を描きて名をあげたり。其傑作は『アングルリマス』是也。この名を有する黒奴が、地方語をむき出しにて、其主人の子息に種々の不

- (1) Nights with Uncle Remus.
- (2) Uncle Remus and his Friends.
- (3) G. W. Cable.
- (4) Creole.
- (5) Old Creole Days.

- (6) Granddissimes.
- (7) C. E. Craddock.

思議なる物語をなし、又歌を歌ひ、説法をなす筋也。その話は多くは人化したる狐、兎等の物語にして、中に一種の哲理を藏し、機智妙想到る所に溢るゝが故に、小兒も愛讀し、又大人も愛讀す。この書の成効に勵まされて渠は引き續き、¹「アングルリイマス夜話」²「アングルリイマスとその朋友」等を作れり。何れも廣く持て囃さる。

³「ジョージワシントンケーブルも同じく南部の産、ニュー・オルレアスにありて雑誌事業に従事し、其近傍の特産たるクリオール種とは佛、西等の人民の米國に土着したるものにして、其地方語は妙に音諧に富み、その氣風は情熱と空想とに富みて大に北方と趣を異にす。かれの作は巧みに是等の人民の特質を傳へたり。其作中有名なるは「クリイールの昔がたり」「グランディッシュムネ」等是也。

チャールズエグバートクラドック女史も亦米國南部の作者中最も

- (1) In the Tennessee Mountains.
- (2) Prophet of the Great Smoky Mountains.
- (3) Despot of Broomsedge Cove.
- (4) H. B. Stowe.
- (5) Uncle Tom's Cabin.

クワドック 有望なる一人と數へらる。女史の描く所は重にテネシ地方の亂暴なる用語を有りの儘にあらはせり。其處女作は「テンネシ山間」にして短篇入篇を含む。其他「烟岳の豫言者」「ブルームセツデコーザの虐君」等數あり。

ハアリーリエット・ビーチャー・ストウ夫人は奴隸廢止問題に關して長ク女史 狀況を目撃して慷慨の念を催し居たりしが、年齒四十に達したる頃其熟知せる所の材料を小説に寓して世に問へり。かの有名なる「アングルトルムスケイン」是也。奴隸使役に隨伴する所の弊害をば極力戯曲的に描き出でたるものにして、かばかり時潮を動搖せしめたる書物は稀なり。世界の四十ヶ國の國語に譯出されたりといふを見ても、其如何に人氣の大なるかを察すべき也。かの南北戦争の勃發の如きも此書與つて大に力ありと稱せらる。但し文體

の上にも又結構の上にも弱點ありて、却つて其後にあらはれたる女史の作に優れたるものあり。されど是等は世間の視聽をひかず、女史の名は全然前著によりて記臆せらる。

フランシス・エライザ・パーリー・チャット女史はその著『小公子』を以て早く我讀書界に喧傳されたり。その他『ローリーの少女』『ハウ・オース』『ルー・イー・ジ・アナ』等尙ほ甚だ多し。

概して女史の作は可憐眞率を以てまさり、何れも愛すべし。アルティマス・ワードは實名をブラウンといふ。天成の騎人にして、常人の思ひもよらざる奇思妙想常に口を突き出て、筆に應じて流る。渠は一面より見れば一種の狂者の如く、宇宙の事物は悉く逆まに眼裡に映じ、西するものは東し、上なるは下となる。されど他面に於ては、人并すぐれし常識あり、又相當の洞察力あり決して無我夢中の人にあらず。故に或る物を翻弄するに當りても、決して翻弄してならぬものを翻弄することなく、多

(9)Artemus Ward.

(1)F. E. Burnett.
(2)Little Lord Fauntleroy.
(3)That Lass o' Lowrie.
(4)Haworths.
(5)Louisiana.

數讀者の同情を博す。之を要するに渠は天下に珍らしき兩面の人に於て、その奇を以て正の使役に供し、其愚を以て智の武器となす也。その作は『アルティマス・ワードとその書物』『アルティマス・ワードとその旅行』『龍動に於けるアルティマス・ワード』の三部是也。

(1)Artemus Ward, His Book.
(2)Artemus Ward, His Travel.
(3)Artemus Ward in London.
(4)Mark Twain (Clemens.)
(5)Jumping Frog.

米國文壇は今一人の滑稽的奇才を生めり。マーク・トウェイン是トウエ也。其本名をクレメンズといふ。初は水先案内となり、尙ほ種々の經歷を経て作者の群に入れり。其處女作は一八六七年に出でたる『飛蛙』の短篇集是也。同年世界漫遊隊に加はり、其結果は『インノーセント・ツアーズ』の愉快にして奇抜なる旅行記となりぬ。之より引き續きて『トム・ソーヤ』『ミンシッピ河上の生活』『バックルベリ・ラン』『海外膝栗毛』などを出せり。他にも尙ほ存在す。トウエインは千萬人にすぐれて鋭利なる観察力と記憶力とを有し、之に加へて他に眞似手なき縦横の機智あり。この長技

(6)Innocents Abroad.
(7)Tom Sawyer.
(8)Life on the Mississippi.
(9)Huckleberry Finn.
(10)Tramp Abroad.

は最もその旅行記にあらはれ、其寫す所の事々物々皆繪畫となりて
 浮き上り、時に詩思津々として讀者を魅す。而して中心に漲るとこ
 ろの滑稽は、例へば盈ち來る潮の如く、人を浮べ、人をまき込まず
 んば止まず。而かも度に過ぎて駄洒落に陥るが如き弊は毫末も認め
 べからず。この種の文字にかけて渠は確かに現時稀れ見にる所の一
 奇才といふべき也。

(研究書目)

- Works of Harle*, 10 vols. (Chauto).
- Harle's Choice Works*, in prose and verse. (全十) 全人の著は Houghton. 其他にても出版あり。
- Novels and Tales of James*, 14 vols. (Mine). Houghton. にても多く出版あり。
- Writings of Howells* (Douglas). 大部分を翻譯す。Houghton, Harper. にても多く出版あり。
- Their Silver Wedding Journey*, 2 vols. (Harper).
- A Pair of Patent Lovers*, a Collection of Stories by Howells. (全十)
- Works of Melville* (Putnam, U. S. Book Co).
- Aldrich's Story of a Bad Boy* (Houghton).

- Marjorie Daw*. (全十)
- Aldrich's Poems* (Gay & Bird).
- House at High Bridge* (Houghton).
- Works of Jewell*. (全十)
- Adventure Stories of Denting*. (全十)
- Tompleins; & other Tales*. (全十)
- Works of Crauford* (Mine).
- Uncle Remus* (Appleton, Harper, Houghton).
- Nights with Uncle Remus* (Houghton, Rout).
- Uncle Remus and His Friends* (Houghton).
- Works of Cable* (Scribner).
- Works of Craddock* (Houghton).
- Uncle Tom's Cabin* (Houghton, Nelson, Sands, Cassel, Warner, & Co).
- Works of Burnett* (Scribner, Warner).
- Works of Ward* (Scribner, Chauto).
- Works of Tveath* (Amer. Pub. Co., Chauto, & Co).

William Cullen Bryant.

(四) ブライアント、ロングフェロー、
ホイットリアー

ブライアント——其傑作——その作風——(研究書目)
ホイットリアー——其傑作——その作風——(研究書目)

他國の文學は詩歌を以て始まるが常なれど、米國に於てはその特別の境遇上詩歌の發生散文に遅れ、其後に於ても詩歌を以て本領とせる作家は極めて少なく、過去に於て詩人として數ふべきはブライアント、ロングフェロー、ホイットリアー等の數人のみ。是等といへども英國第一流の詩人と比肩して遜色なき程にはあらざりき。他にも見るべき詩を作れる人はありしも、其本領としては寧ろ散文を擇びき。ポー、エマースン、ローエル、ホームズの如き是也。余は爰に先づ以上の三家をとかんとす。

ウィリアム・カレン・ブライアントは通例「米國詩歌の祖」を以て稱せらる。一七九四年を以てマサチューセツ州に生れぬ。父は醫を

ブライアントの經歷 以て本業とし、傍ら詩歌に對して好尚を有せり。さればブライアントの詩才は其淵源を父に發せりといふべく、又其母よりは清教的信仰と氣風とを承繼せり。されど渠に

最大の感化を與へたるは、自由を愛し、敬神の念甚だ厚き其四周の住民と、未だ塵俗の汚氣に染みざる其四周の森林山丘と是なりき。此感化は渠の生涯を通じて一貫し、始終しぬ。生死其他の人生問題に就き、沈鬱なる説教を試みたる道德家、自然を愛し、自然の真相を解釋するに全力を盡せる詩人、さては自由の爲め、民権の爲めに指導の役に立てる論客としてのブライアントの生涯の行路は早くもその生育の際より定まり居たりし也。

ブライアントは最初は法律を學びしが、幾もなく之を放棄して身を文學に委ね、ポーより入りて、次第にロマンティック派の作に接しぬ。一八一〇年初めてウァーズワース、コールリヂの合著にかゝる『抒情詩集』を手に入れて熱心精讀せる由は今も尚ほ語り傳

- (1)Thunatopsis.
- (2)To a Water-fowl.
- (3)Phi Beta Kappa Society at Harvard.
- (4)Ages.
- (5)Evening Post.

へらる。ブライアントが初めて名聲を博せる詩篇は「死觀」と題せるものにして、時に一八一七年、ブライアントは當時僅かに十七歳の青年なりき。通常人間が見て以て最大の畏怖となす所の死を説明して、廣大無量なる天帝の意志の成就となし、人間と其四周の事物との間に離るべからざる一致の存在するを示せり。莊

その詩風 重はこの詩篇の生命にして、又實にブライアントの作れる詩歌の全體を司配する所の生命也。渠が歌ふ所の題目は常に人生の不朽と無量とに向ひて又其他を見ず。其性格の堅實なるは大に愛敬すべきも、詩人として甚だ狹隘を免れざる所以も亦實に愛に在り。翌年「水禽に與ふ」の傑作を出して其詩名益々上り、^{ハ・ア・イ・ヴ・}「ドの「フ・ア・イ、ビ・ク、カ・ッ・バ・會」より依頼を受けて「^{エ・イ・ジ・ス}」を草し、一八二一年他の諸篇と併せ、一小冊として發行したり。

其後幾もなくしてブライアントは紐育に移り、一八二七年より「^{イ・イ・ヴ・ニ・ン・グ・ホ・ス・ト・紙}」に入り是れより新聞記者として數十年間全

- (1)Hind.
- (2)Odyssey.
- (3)H. W. Longfellow.
- (4)Maine.

力を注ぎ、政治を論じ、時事を議し、其他國家有用の萬般の事務に奔走盡瘁せしが、この間にありても尙ほ眼を自然の靜平に休め、心を宇宙の大法に注ぎ、時に見るべき詩篇を出せり。是等の詩篇にあらはれる感想は其最初の作にあらはれたるものと略ぼ同一にして、毫も進歩發達の痕跡を止めずといへども、吾人は其單調狹隘なるを惜まず、寧ろかばかり世事に奔走せし人が、かばかり長年月に亘りて其詩思を失はざりしに驚かんとす。尙ほブライアントに在りて記臆すべきは無韻詩を以て「^{イ・リ・ア・ド}」「^{オ・デ・イ・ッ・シ・イ}」の二篇を翻譯したる事にして、渠の特有なる崇高の趣を有し、好翻譯たるを失はず。之を要するにブライアントは決して大詩人といふべからざるも、亦決して小詩人にはあらず。獨り米國詩人中に高地位を有するのみにあらざる也。

ヘンリー・ワッツワース・ロングフェローは一八〇七年を以てメイン州に生れしが、父は學識ある法律家にして、社會的地位頗る高く

(1) Bowdoin.
(2) Harvard.

又母は多感にして詩歌を愛唱せり。かゝる両親の膝
 下に鞠育せられ、良好なる圖書を繙讀し、完全なる
 教育を受けたることなれば、ロングフェローの詩文の才能は早くよ
 り發達したりき。一八二二年ボウズン大學に入學してホイッソルンと
 同級生たりしが、在學中も盛んに諸書を繙讀し、又詩作に耽り、時
 に其作を雑誌などに投じき。卒業の後幾もなくボウズン大學に近代
 語學の講座を設置するの計畫あり。ロングフェローは選ばれて其候
 補者となり、一八二六年準備の爲めに歐洲に留學するに至れり。留
 學時期は約三ヶ年にして、其間大陸諸國を歴遊して、佛蘭西、西班
 牙、以太利、獨逸の諸外國語を學び、尙ほ是等諸國の文學と人民の
 性質とにも通曉するに至れり。
 歸國の後ロングフェローはボウズン大學の語學教授となりて、
 教育事業に盡力し、其性質の溫雅にして愛嬌あるが爲めに人望を博
 しぬ。又幾もなくして良妻を迎へぬ。一八三四年に至り、

(1) Hyperion.
(2) Voices of the Night.
(3) Ballads, and Other Poems.
(4) Psalms of Life.
(5) Village Blacksmith.

アード大學の近世語學教授に擧げられ、翌年再び夫人を携へて研究
 の爲めに歐洲に渡航し、スウィーデン語其他北歐の語學を研究しけ
 るが、和蘭にありし時愛妻に先立たれ、此一身上の一大不幸は渠を
 して一層文筆に親ましむるに至れるものゝ如し。
 一八三六年渠は國に歸り、これより同五四年に至る迄引續きてハ
 ーバードに教鞭をとり、居をケムブリッジに卜して靜平なる日
 月を送りぬ。一八四三年には再び妻を迎へ、かくて一八八二年を以
 て歿する迄格別の重要事件は起らざりき。たゞ其間に二度歐洲を訪
 問せる事、後妻も亦過失の爲めに燒死せること、時々詩集を出版し
 て世間の喝采を博せること等を摘記せば可ならむ。
 渠が創作家として世人に認めらるゝに至れるは一八三九年を以て
 ロングフェローの著作 始まる。この年傳奇小説『**ハイビリアオン**』及び『**夜**
 『**ロイの聲**』と題せる詩集出版せられたり。一八四一年『**村**
 『**ラド集**』出て、詩人としての名聲、益々高まりぬ『**人生の讃歌**』『**村**

- (1)Excelsior.
- (2)Skeleton in Armour.
- (3)Belfry of Bruges and other Poems.
- (4)Bridge.
- (5)The Day is Done.

の鍛冶屋「エクスセルシオル」「スケレトン」等をはじめ、其他人口に膾炙する佳作甚だ多く、趣味の雅醇にして情思の優雅なる、前後の米國詩人中に匹儔を見ず。一八四五年に出でたる「ベルフリイオブブルージュ」其他は獨り外國文學の移植に於て米國人士の渴望を醫したるのみならず、又「ブリッジ」「デイズダン」の如き優美なる抒情詩を含みたり。

一八四七年「ロングフェロー」はかの有名なる長篇「エヴァンゲリン」を出して、其名聲の絶巔に達せり。從來の渠の詩集は特別に米國的なる詩歌甚だ僅少にして、其韻律法も未だ全く特有のものといふべからざりき。然るに今この憐れなる自國の材料をとり、之を英詩中には甚だ珍奇なる六脚體に盛り、米國唯一の長篇として大成效を收めたるを見たる米國人士は、作者と共に甚だしく肩身の廣さを感じぬ。げにこの中にあらはれる記事の妙、話説の巧は、やゝ暗襲的臭味はあるにもせよ、凡常を脱すること遠く、長く多感なる人

(6)Evangelino.

- (1)Hiawatha.
- (2)Courtship of Miles Standish.

のかれは詩壇のクアイ

士を泣かすに足るべし。

「エヴァンゲリン」の外の長篇中吾人の注意を拂ふべき長篇は「ヒアウアタ」及び「マイルズスタンディッシュ」なり。前者は印度人の叙事詩、後者はニューイングランドの物語體長篇、共に特殊の妙味あり。

晩年の事業中最も重要なるはダンテの「神曲」の翻譯是也。一八六七年より七〇年の間に成りぬ。やゝ詩味の索然たる嫌はあるも、完成したる「神曲」の譯詩中最上のもものなりとは有力なる評家の一致する所也。げにロングフェローは詩歌の翻譯家として確かに第一流に位し、「神曲」の外にも流暢平易なる好譯詩甚だ多きは、渠の詩集を繙きたるもの均しく驚歎する所也。

詩人としてのロングフェローは散文家としてのアーザンクに類似せる所多し。想像の力も智識の力も共に萬人にすぐれたりとはいひ難く、或る程度迄先進の感化の下に立ちて獨創の才力は比較的

(1) J. G. Whittier.

多からねど、其温雅なる氣品と、清純怡樂の情思と、又その平明流麗の詞藻とは、天下多數の人士をして愛讀者たらしむるを得ざらしむ。渠の作をよむは例へば新鮮の空氣を呼吸するが如く、又嬉々たる春光に浴するが如し。細かに分析して、これがその長所なり、妙味なりとは言ひ難きも、全體に於て人を魔するは、一流の大詩人大作家の作にもをさく劣ることなし。近年批評家の中には、往々渠を貶するがあれど、是等は毫もロングフェローの地歩を動かすに足らざる也。何となれば渠は多數一般の人士の後援を有すれば也。

ジョン・グリンリー・ホイットィアは、或る程度迄米國のバルンズといふべき詩人にして、其出身に於ても兩者頗る相似たり。家は貧困の農家にして、従つて學校教育の如きは不完全を極め、弱冠の際までは農耕の業に従へり。かゝる境遇より出て、終に米國有數の詩人となれるホイットィアの天賦の詩才は決して尋常にはあらざるなり。最初その愛讀せるは、聖書及びバルンズの詩集にして、

(1) Massachusetts to Virginia.

の奴隷廢止派
 (1) W. L. Garrison.
 (2) Antislavery Poems.
 (3) Barbara Fritchie.
 (4) Crisis.
 (5) Watchers.

後沙翁、スコット等をも繙きたり。かくて拆に觸れて作れる詩篇が、其出身

某新聞紙上に出でしより、其主筆記者ガッリソンの知る所となり、其推薦に由りて諸種の新紙雜誌と關係を作りぬ。やがて奴隷廢止問題の起るや、之が爲めに熱心奔走せるのみならず、陸續之に關する詩歌を作り、奴隷廢止派の桂冠詩人なる稱號を與へらるゝに至れり。實に南北戦争前後のホイットィアは獨り詩壇のみならず、又米國政界の一大勢力たり。戦争結了の後、靜平純潔なる田園生活を送り、國民の尊敬の裡に一八九二年を以て歿せり。

ホイットィアは自から種類によりて其詩篇を分類したるが故に其傑作を拾收するに甚だ便利なり。「奴隷反對の詩」と題せる集中に最も見るべきは、かの極めて有名なる「バラクーバラングレイ」の絶唱をはじめ、「危機」「見張りの者」「マサチューセッツ」「シニア」其他尙ほ多し。ホイットィアの特長は想像の優越、詞藻

- ⑥Angels of Buena Vista.
- ⑦Maud Muller.

- ⑧Poems Subjective and Reminiscent.
- ⑨Memories.
- ⑩In My Schooldays.
- ⑪Snow-Bound.
- ⑫Ballads and Narrative Poems.

の精妙に、あらずして、其情思の眞實深厚、而して之を發揮するに直截にして氣力ある詞句を以てせるにあり。さればかゝる種類の詩歌にかけては渠は無類の手腕を有す。「主觀的回顧的の詩」と題する集中にも又佳作多し。「記憶」のやさしさ「わが學校時代」の愛らしさをはじめ、就中「雪ごもり」は渠の詩集中の白眉也。ニューイングランドの冬の田園生活を描きて詩思最も饒多、バルンズの傑作「農家の土曜日の晩」に比して必らずしも遜色を見ず。ホイットィアーの作は概して皆一時の感興を歌ひたるが多く、篇々咄嗟の間に成れり。獨りこの篇のみは然らず、其構成の上に心を用ゐ、物語の發展に注意を拂ひ、而して紀事の的確、感情の眞率、確かに話説體の田園詩中に濶歩するに足る。「バラド體及話説體詩篇」中にも「ブイーン・グアイースタの天使」「モードムラー」其他世に知られたる作多く、材料も技術も共に簡朴にして讀むに易く、味ふに骨が折れず、而して一種の面白味あり。之を要するにホイットィアーの技倆は幼稚にし

て想像の力足らず、又思想の深遠を缺きて大なる詩人とはいひ難きも、眞率、健全、國民的なるを以て米國文學史上に不朽なるべき也。

(研究書目)

- (一) ンライノマントー
 - Bryant's Poetical Works (Routledge, Paul, Appleton, Ke).
 - Bryant, by Higelow, A. M. L. Series. (Houghton).
 - Lowell's Fable for Critics. (ローハルの部を見よ)
- (二) ロンゲルンロー
 - Longfellow's Poetical Works (Rout., Ward, Warner, Houghton, Ke).
 - Hyperion (Scott).
 - Life of Longfellow, by his Brother, 3 vols. (Paul).
 - Longfellow, by Robertson, G. W. Series (Scott).
 - Studies of Some of Longfellow's Poems, by Walters (S. S. Association).
- (三) ホイットィアー
 - Works of Whittier (Houghton, Routledge, Ke).
 - Life and Letters of Whittier, by Pickard, 2 vols. (Low).

(五) 其他の詩人

テールロール—ホイットマン—ストックダアード—ステッドマン—ミラー—
(研究書目)

以上の三家に續きてはテールロール、ホイットマン、ステッドマン、ストックダアード、ミラー等最も名あり。簡単に是等に就きて一言せんとす。

バイアードテールロールはペンシルヴェニアの人、一八二五年を以て生れ、七八年を以て歿せり。家は農家にして従つて

其教育の如きは頗る不完全なりしも、一八四四年早くも一小詩集を出版してやゝ名を知られぬ。之より先き渠は、廣く世界を漫遊して見聞を博くせんとの大望を抱き居たりしかば、諸所の新聞社と通信の特約を爲し、同年を以て歐洲に渡航し、二年の間徒歩無錢旅行を試みぬ。其産物は一八四六年出版の『行脚録』と題せ

(1) Bayard Taylor.

(2) Views Afoot; or Europe Seen with Knapsack and Staff.

(1) Rhymes of Travel.
(2) California Ballads.
(3) Rhymes of the Orient.
(4) Lars.
(5) W. Whitman.

る旅行記にして頗る世間の注意を惹けり。歸來雜誌新聞業に従事し、又屢々世界の各地に旅行して通信をなし、世人よりは最も通信家として知られぬ。又小説を草すること五篇に及びき。

然れども是等多端なる生涯中、常にテールロールの腦裡を去らざるは詩人として立たんとの野心なりき。たゞ餘りに多方面に走り過ぎて詩に専らならざりしは頗る惜むべしとなす。概して言へばテールロールの詩は平淡にして流麗なるのみ、特に人を動かす力は頗る薄しと言はざるべからず。出版したる詩集には『旅の歌』『カリフォルニア・バラズ』『東洋の歌』『ラ・パリス』等ありしが、其長所は抒情的短篇に存在す。物語體長篇はその趣向と材料の選擇に於て取るべき點あれど、手腕不平均にして圓滿の作と稱する能はず。テールロールは又ゲートの『ファウスト』を譯し、最も成功に近しと稱せらる。

ウォールト・ホイットマンは尋常の繩墨を以て律し難き詩人にして、米國文壇の一奇物たるを失はず。かれの抱負は米國々粹を海外に傳

ホイットマンへ、併せてその國民をして自國の真相に通曉せしめんとするに在り。嘗て昂然として宣言して曰く米國の新天地は新詩歌を有せざる可からず。歐洲の文學は封縣の舊制度と無力なる舊信仰とに聯關す。米國文學は此外に超脱するを要すと。是に於て全然從來の詩歌の典型を棄却し、思ひ切つて不規則なる自己流を振りまはしぬ。「他人の詞句を引用するなかれ。他の作家に頓着する勿れ。下らぬものを汝の作に詰め込む勿れ。鳥の御空を翔けるが如く、又魚の水中に遊ぶが如く自由自在なれ」とは其抱懷也。かゝる詩人なれば、其作に對する毀譽褒貶は頗る甚だしく、英國の批評家ロッセティ、シモンズ等の如きは極力推重して止まずといへども、大體に亘りて評隘を下せば、ホイットマンの手腕は其理想に伴はず、或る時は全然聲調を失して單に奇澁なる散文となり、或時は徒らに事物若くは地名の臚列に失して目錄の體をなす。就中最も厭ふべきは法外に猛烈誇張の言句を濫用するの一事にして、其技倆の

(6) R. H. Stoddard.

- (1) O. Captain! My Captain.
- (2) Out of the Cradle Endlessly Rocking.
- (3) Mystic Trumpeter.
- (4) Clear Midnight.
- (5) On the Beach at Night.

尙ほ幼弱を免れざるを感ぜしむ。かくの如くにして、其浩瀚なる詩集中見るべきものは極めて少數なるが、たゞ素朴にして友愛の情思湧くが如き此人物が、事に觸れて強く感情を刺激せらるゝ場合には、時に抒情的妙句を吐かざるにあらず。かのリンコーンの刺殺に際してよめる『おゝ、キアプテン！』の絶唱の如き是也。其形式も他のホイットマンの作の奇怪不自然なるに似ず。整齊にして直接に人の肺腑に入る。その他『たゆまず揺るゝ搖籃より』『不思議の喇叭手』『晴れたる夜半』『夜半浴に立ちて』などは何れも愛唱すべし。

リチャード・ヘンリー・ストッダードは一八二五年を以てマサチューセツト州のイセツツに生れ、初は紐育の税關に奉職し、後同市の圖書館に入り、晩年には某新聞社に入りて文藝評論を擔

當し、一九〇三年を以て歿せり。ストッダードの詩は形式の注意きびしく、その感想は清新自然にして、往々普通の事物に新生命を與へ、新趣味を注入す。その私淑する所は蓋しキーツにして、色彩

- (1) E. C. Stedman.
- (2) Victorian Poets.
- (3) Poets of America..
- (4) Joaquin Miller.

の美、想像の豊、幾分かその面影を傳へたれど、性情の複雑は却て之に越え、廣く諸種の方面に向つて詩材を求めたり。其詩は一八八〇年以後數篇に集められて世に出てたり。

エドモンドクラレンスステッドマンは活動力に富める米國人士中ステッドマンにありても稀有の多方面の才人也。初めは新聞記者として腕を練り、一八六一年には某紙の軍事通信員となり、戦争結了後は銀行家となり、一方に詩を作りつゝ他方には錢を儲け、而して兩方面に於て成效を收めたり。又文藝の批評をも試み、

『ジ・イ・クトリア朝詩人』『米國詩人』等の貴重なる作を残せり。其詩篇は一八八四年に蒐集せられて世に出てぬ。其作風雅潔にして健全、深からぬと透徹し、空想の飛躍なきかはりに意義の晦澁を免れ、形式上の注意も行き届けり。たゞ大なる詩人といはんには餘りに世事に通じ過ぎ、餘りに常識に富みすぎて散文的也。

ウ・オー・キンミラーは終生小兒の感想を失はざる無邪氣の詩人、感

- (1) Song of the Sierras.
- (2) Song of the Sunlands.
- (3) Song of the Mexican Seas.

ずる所を言ひ、欲する所を歌ひて形式には多くの注意を拂はず、時に常規を逸す。一八四一年を以てインディアナに生れ、最初は父に従ひて農耕の業に従ひしも、十六歳の頃カリフォルニアに赴きて鑛夫となり、又或る時は印度人の群にまじりて不思議なる經驗を積み、二十歳の時オレゴンに赴きて法律を學べり。かくて一八六六年を以て裁判官に擧げられ、四年許り職を守りき。その最初の詩集は『ソング・オブ・ゼ・シー・ラス』にして一八七〇年の出版にかゝり、其名聲忽ち英米兩國に擴まりぬ。元來教育のなき人なるが故に、到らざる所多けれど、この一事は他面に於て却つて其野生的詩才に自由の飛躍を許し、一種他に眞似手なき神韻を呼出せしめぬ。其詩は引きつゞきて『ソング・オブ・ゼ・サン・ランズ』『ソング・オブ・ゼ・メキシカン・シイス』其他に蒐集せられたり。渠は又散文の小説及び劇詩をも出せり。一八七〇年海外漫遊の後、紐育、ワシントン等にありて新聞記者たりしが、一八八七年以後はカリッ

ヨーロッパのオランダに隠れすみて今日に至れり。
(研究書目)

- Library of American Literature, 10 vols. (Webster).
- Works of Taylor (Putnam).
- Rusel (Putnam, Ward, Wame).
- Poems of Whitman: Selected and Edited by W. Rossetti (Quinto).
- W. Whitman, the Man, by Donaldson (Gay).
- Stedman's Poems (Gay). Stedman's Victorian Poets, (Quinto).
- Works of Miller (Houghton).

(六) エマースン

エマースンの経歴——講演者として——論文家として——エマースンの詩——(研究書目)

ラルフ・ウォルド・エマースンは、文學者として見れば、必ずしも純なるものにあらねど、高潔偉大なる人格と、獨特の文筆と、超越高遠

(1)Oakland.
(2)Ralph Waldo Emerson.

エマースンの経歴

の識見とを以て一代の人心を指導し、萬人の崇拜の燒點となるは、他の文學者に見るべからざる現象にして、その米國文壇に占むべき位置は、略ぼカーライルが英國文壇にて占むべき位置に似たりといふべきか。ホーソルン嘗てその感化力の大きなを説きて曰く、「エマースンの精神は一部の人士に對して驚くべき吸引力を以て働き、渠と相對して語るの榮を得んとして千里の遠きより引き寄せらるるもの引きも切らず」と。後進のローエルも亦其身にしみ亘る説教を回顧して述べて曰く「エマースンは吾人に新生命を與へたり。エマースンの聲は青年を率ゆる喇叭の聲なりき」と。

エマースンは一八〇三年を以てポストンに生れぬ。その祖先は代々牧師を職とし、その父ウィリアム・エマースンはユニテリアン派に屬し、ポストン第一寺院の牧師なりしが、エマースン八歳の時に物故せり。エマースン幼時の教育は重もにその博學高潔なる叔母の指導の下に行はれ、十四歳の時ハーヴァード大學に入りぬ。在學

中學才にかけては少しく中庸を越えたるのみなりしが、文學の素養及び能辯術にかけては大にすぐれ、又詩人として同級生の重ずる所となりたり。

(1) Channing.
(2) Concord.

一八二一年同大學を卒るや、チャニング博士につきて神學を修め、一八二三年には既に牧師として世に立つの資格を具へしも、不健康の爲めにフロリダに轉地靜養し、同二九年に至りてポストン市第二ユニテリアン教會の牧師に任ぜられたり。されどエマースンの討究的精神は、次第に宗教の窮屈なる範圍内に束縛されて満足する能はず、比較的極めて自由なるユニテリアン派の教義も尙自家の信念を枉ぐるものあるを感じ、終に一八三二年を以て牧師の職を抛ちて歐洲漫遊の途に上べれり。滯歐中はその平生尊信し居たる人々と會合し、就中終生の莫逆となれるトマス・カーライルと面會せり。翌年本國に歸り、幾もなく居をマサチューセッツ州のコンコルドに下しつ。爾來終生根據をこの地に構へ、エマースンの名とコン

(1) Great Men.
(2) English Literature.
(3) Philosophy of History.
(4) American Scholar.
(5) Representative Men.

コルドとが、離るべからざる因縁を有するに至れるは、世の普ねく知れる所なるべし。

エマースンは直ちに講演者として世に立ちぬ。渠は講演者として一講演者としての種々の魔力を有し、その文句簡素にして整齊、之をあら

はすに透徹せる美聲を以てし、原稿に對して少しく躊躇停滯の氣味あるも、却つて一種の妙味を添へたりとぞ。其講話の範圍材料は極めて廣く、「大人物」「英文學」「歴史哲學」「米國學者」「代表的偉人」「現時代」其他無數の種類となりてあらはれたり。但し是等を通じて流貫する所の中樞的精神は、常にかはることなく、たゞ時に應じ、境に隨ひて雨となり雲となり、雪となり霞となるのみ。かれが英國より歸國の際の船中日誌の一節は最もよく此精神を簡單に言ひ盡せり。曰く「人は己れの司配に必要なものを悉く己れに具ふ——人の精神と世界に存在する萬物の間には一種の感應あり。外界に出で、事物をさぐるかはりに、事物の原理を皆自己の内部にさく

(1) Transcendentalist.
(2) Dial.
(3) Brook Farm.

り得べし——神は各人に在りとは天下最高の默示也」云々。當時米國には所謂トランセンデンタル派として知られたる一派の理想家あり。ソロー、フラー、ヘッヂ、リップレイ、パーカー、オールコット等を其驍將とす。エマースンは自からは此派の一人を以て任ぜざれど、兎に角此派の最も有力なる味方として見るべし。一八四〇年此派の機關として「ダイアル」と題せる一雑誌の刊行せらるゝや、渠は屢々之に寄稿し、又一時其主筆となりぬ。「ブルックファーム」と稱する理想的團體も亦此派の人々によりて企劃されぬ。こはコールリヂ、サッジ、等が企てたる。「衆裁府」と同性質のものにして、ホストンの附近に二百エーカー許りの土地を購ひ、各自平等の權利を有し、農耕の業務と文學藝術の研究とを結合せんとしたるなりき。五年許實施の後廢されしが、一時は會員皆本氣に取つてかゝり、かのホーンルンの如きも一時其會員なりき。エマースンは例によりて其渦中には投ぜざりしも、其進行に關しては多大の注意を向けたり

(1) English Traits.
(2) Nature.

き。

一八四七年エマースンは再び英國に赴きてカーライルの歡迎する所となり、龍動、リヴァプール、マンチェスター、エディンバラ等の各地に於て講話を開きぬ。この際の旅行中の感想は後「英人氣質」となりてあらはれぬ。其後も引續きて講話を試み又筆をとりしが、晩年には精神の衰弱を來し、殊に記憶力の缺乏となり、かくて一八八二年を以て歿せり。

今日残る所のエマースンの論文集は「天然」をのぞけば、悉く其論文家としての講話の副産物にして、初めより論文として起稿せるも依然としてその文字の上にも存するかは、聊か疑問の存する所なるが、兎に角一部の人士に偉大なる刺激を與へつゝあるは疑ふべからざる也。エマースンの精神は、朦朧として常に清淨無垢の天地に安慰を味はひ、普通の人間に離れざる虚偽、悲痛、情慾の何物なるか

エマ
リス
ンの
文は
金言
に富
む

(1) Julian Hawthorne.

を知らず。例へば天使の如く又仙人の如き趣ありき。されば何事を説き、何物を論ずるに當りても、いやが上に高邁に、いやが上に希望を伴ひ、言々句句皆論理の常道を辿らずして、直ちに直覺より流れ出るを常とし、勁拔なる一句の裡に往々宇宙の眞理を寓す。世界文章多しといへども、エマリスンの文の如く名句金言を鏤めたるは稀也。されど全體として觀れば適確なる首尾脈絡あるにあらず。又その態度は、理想の峰頭より人生にのぞめる人の常として、時に温情と實體とを缺き折角の金言も常人の腑に落ちず。實地の指導とはならざるが多かり。デュリアン・ホーソルン曰く「いかなる問題を論ずるにあたりても、エマリスンの調子とその結論とは常に愉快にして刺激的也。されど一坦書を伏せて實際の世界にのぞめば、吾人は常にエマリスンが實地に突入せず、人間の力量を過大視し、人間の途に當る所の障害物を過小視せるを感ず。エマリスンの著作は石鹼の泡の如し。あらゆる美を映出し増大し、美的感情を娛ましめ、強

からしむるも、實用にはなり難し。人手一たび之に觸るれば直に消失す。さればかれの作は老人よりは寧ろ年少者の喜ぶ所となれり。前者は浮世の經驗をつみて人力の程度を知り、後者は未來を望みて萬事皆成し得べしと感ずれば也。兎にも角にもエマリスンは年少者にとりて好讀物也。音楽と同じく人心を高め、且つ人心を慰む。その説法は肉體にこそ用なけれ、精神に對しては眞也。而してかれの期圖する所の結果にもいつかは到着する日あらむ」と。エマリスンには又詩集二巻あり。その散文と同じく高遠の思想に於て群を抜けど、要するに頭の産物にして胸の産物にあらず。形式諧調又燕雜にして、眞詩とは言ひ難し。

(研究書目)

Collected Works of Emerson, 6 vols. (Minc.) 2. 他 Bohn, Gay, Rout. 等にて出版せられたる。

Select Writings of Emerson (Scott). かくる種類のもの坊間に甚だ多し。評傳にては、

(1) James Russel Lowell.

Emerson, by Garnett, G. W. Series (Scott).
Emerson, by Holmes, A. M. I. Series (Houghton).
Tale with Emerson, by Woodsbury (Pant).
Emerson at Home and Abroad, by Cooke, (全上)
My Study Windows, by Lowell. (ローエルを見よ)

(七) ローエルとホームズ

ローエル—その詩—その散文—ホームズ—その詩—その散文—(研究
書目)

ローエルは詩人としてすぐれ、批評家として
更にすぐれたり。其生地はケムブリッヂにして、ボス
トン某寺院の牧師の子也。一八三八年ハーヴァード

大學を出て、初めは身を法律に委ねしも、元來多方面の人にして詩
的想像にとみ、鋭利なる観察力を有し、實務の才もあり、又愛國の
熱情にもゆたかなれば其一生の事業は頗る多端なりき。渠が才情は

(1) The Present Crisis.
(2) Biglow Papers.

其詩

渠は散文家
として更に
貴重也

先づ渠をして詩人たらしめ、一八四一年初めて其詩集を刊行し、引
き續きて諸種の雑誌に寄稿せり。その題材は古るき傳説舊話に關せ
るもありしが最も多きは時事的、諷刺的、愛國的の詩歌にして、殊
に奴隸廢止を主張し、人權の神聖を説き、米國々民の向ふべき行路
を指示したる作は、其時代に多大の勢力を有したりき。かの『現下
の危機』の如き、又『ビグローバーズ』の如き、とりわけて貴
重なるもの也。

されどローエルは詩人として、よりも批評家として、更に貴重也。渠
が英國の詩人につきて講話を試み、其力量の非凡なる
を示したるは一八五四年の事に屬す。翌年ロングフェ

ローの後任として、ハーヴァード大學の近代國語、文學の講座を
托せられ、しばらく歐洲大陸に赴きて修養を積みたる後、その職に
就き、爾來廿年に亘りて之に當れり。ローエルが散文家として、又
批評家として世に知られたるは實に此時代也。其作は多く『アトラ

(1) Among My Books.
(2) My Study Windows.

ンティック・モンズリイ』『北米評論』の二誌にあらはれぬ。評論の題目は、沙翁、ドライデン、レッシング、ルソー、ダンテ、スペイン、ウァーイズウァリス、ミルトン、キーツ、カーライル、ソロー、スウィンバーン、チロソー、エマースン、ボープ、グレイ等の文豪詩星にして、其中の重なるものは早く『藏書堆裡』『書窓』として輯められぬ。ローエルが米國唯一の大批評家なりとは世間既定評あり。その研鑽甚だ深く、而して半ば詩人的眼光を以て其好める作者、親める傑作に對す。故に其所論多く警拔にして、毫も蹈襲迎合の陋態なく、又熱と情とを伴ふ。その讀者を鼓舞し、誘導し、啓發する力の極めて大なる所以也。この點に於て渠は天下に濶歩す。但し科學的に文學史上の事實を討究し、公平にして周到なる最後の斷案を下すの技にかけては案外に粗漏多し。

ローエルは一八七一年迄教授の地位を保ちしが、同年職を辭して海外漫遊の途にのぼり、かくて一八七七年には西班牙公使に任ぜら

(1) Oliver Wendell Holmes.

その晩年
れ、更に三年の後には英國公使に轉じ、滞在五年の間には屢々政治上并びに文學上の評論を試み、當時英人の最も尊重する所となりぬ。英米二國今日の交誼の厚きはローエルの力與かりて大なりと稱せらる。歸國の後にも、或は政治上の演説に、或は文學上の評論に、時としては又詩作に縦横の才力を示せしが。一八九一年を以て歿せり。

オリヴァー・ウェンデル・ホームズも亦詩人にして散文家也。この點に於てローエルと類せるも、たゞローエルは重く鋭く、ホームズは軽く滑か也。渠も亦ハーヴァード大學の

出身、法律と醫學とを修め、一八二九年業を了ふるや更に二年許巴理、エディンバラ等の地にありて専ら醫學を窺め、歸りてボストンに根據地を据へ、一八四七年より同八二年迄ハーヴァード大學の醫科の教授たりき。かれの文藝上の事業は皆この本務の餘暇に成り、先づ輕妙なる詩を以て世人に愛されぬ。